

令和5年度

防災に関する県民意識調査報告書

三重県

目次

第1章 調査の概要

- 1 調査目的・・・1
- 2 調査方法・・・1
- 3 本報告書における結果数値等の取扱い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第2章 調査結果

1 アンケート調査回答者の属性

- 1-1 住所【F1】・・・2
- 1-2 性別【F2】・・・2
- 1-3 年齢【F3】・・・2
- 1-4 職業【F4】・・・3
- 1-5 家族構成【F5】・・・3

2 地震・津波対策について

- 2-1 今後10年程度で大規模な地震が起こると思うか【問1】・・・・・・・・・・・・・・4
- 2-2 震度予測や津波浸水予測などの被害想定【問2】・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 2-3 南海トラフ地震臨時情報の認知度【問3】・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 2-4 東日本大震災後の防災意識の移り変わり【問4】・・・・・・・・・・・・・・・・・8
- 2-5 地震に対する避難行動のきっかけ【問5-1】・・・・・・・・・・・・・・・・・11
- 2-6 地震に対して避難しない理由【問5-2】・・・・・・・・・・・・・・・・・13

3 風水害対策について

- 3-1 自宅周辺の風水害の危険性の把握【問6】・・・・・・・・・・・・・・・・・14
- 3-2 避難情報（警戒レベル）の認知度【問7】・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- 3-3 線状降水帯の認知度【問8】・・・・・・・・・・・・・・・・・17
- 3-4 紀伊半島大水害後の防災意識の移り変わり【問9】・・・・・・・・・・・・・・・・・18
- 3-5 風水害に対する避難行動のきっかけ【問10-1】・・・・・・・・・・・・・・・・・21
- 3-6 風水害に対して避難しない理由【問10-2】・・・・・・・・・・・・・・・・・23

4 災害時の情報収集について

- 4-1 災害時の情報の入手先（現在）【問11】・・・・・・・・・・・・・・・・・24
- 4-2 災害時の情報の入手先（今後）【問12】・・・・・・・・・・・・・・・・・24
- 4-3 災害時に知りたい情報【問13】・・・・・・・・・・・・・・・・・29
- 4-4 プッシュ型で受け取りたい情報【問14】・・・・・・・・・・・・・・・・・30
- 4-5 防災みえ.jpの認知度【問15-1】・・・・・・・・・・・・・・・・・31
- 4-6 防災みえ.jpを活用しない理由【問15-2】・・・・・・・・・・・・・・・・・32
- 4-7 県の防災情報発信の認知度【問16】・・・・・・・・・・・・・・・・・33

5 避難場所・避難所について

- 5-1 避難場所や避難所の認知度【問17-1】・・・・・・・・・・・・・・・・・35
- 5-2 避難場所や避難所を知った経緯【問17-2】・・・・・・・・・・・・・・・・・37
- 5-3 避難経路の認知度【問17-3】・・・・・・・・・・・・・・・・・38
- 5-4 夜間など避難が困難な状況での避難【問18】・・・・・・・・・・・・・・・・・39

6	日頃の防災対策について	
6-1	家庭での防災対策の状況【問19】	40
6-2	防災対策についての身近な人との話し合いの状況【問20】	42
7	地域・職場での防災活動について	
7-1	地域の防災活動への参加意識【問21】	43
7-2	地域や職場における防災活動への参加状況【問22-1】	44
7-3	地域の防災活動に参加したきっかけ【問22-2】	45
7-4	参加した防災活動の内容【問22-3】	46
7-5	参加したい防災活動【問22-4】	48
7-6	自主防災組織の認知度と活動状況【問23】	49
7-7	地域や職場で必要だと思う防災活動【問24】	50
7-8	企業・事業所に期待すること【問25】	51
8	消防団について	
8-1	消防団の認知度【問26】	52
8-2	消防団に期待する活動【問27】	54
8-3	消防団への入団意思【問28-1】	55
8-4	消防団に入団しない理由【問28-2】	57
9	学校の防災教育について	
9-1	学校で特に力を入れて取り組むべき防災教育【問29】	60
9-2	防災ノート等を活用した家庭での話し合いの状況【問30】	62
10	あなたのお住まいの耐震化について	
10-1	住まいの状況【問31】	63
10-2	木造住宅の耐震化に向けた補助制度の認知度【問32】	64
10-3	ご自宅の耐震診断【問33】	65
10-4	耐震補強工事【問34】	66
10-5	耐震補強工事の補助制度の利用有無【問35】	66
10-6	耐震補強工事の内容【問36】	67
10-7	補強工事を行った時の工事費【問37】	67
10-8	耐震補強工事をしない理由【問38】	68
10-9	耐震補強工事が可能な自己負担額【問39】	68
10-10	部分的な耐震補強工事の意思【問40】	69

資料

・津波危険地域一覧	70
・令和5年度 防災に関する県民意識調査 調査票	72

第1章 調査の概要

1 調査目的

県では、県民の皆さんの自然災害に対する備えの状況や防災に関する意識を把握し、県の防災・減災対策に活用するため、平成14年度から「防災に関する県民意識調査」を実施しています。

2 調査方法

- (1) 調査対象：県内全市町の18歳以上の5,000人
 - ・調査対象は、各市町の選挙人名簿から無作為抽出
 - ・各市町の対象者数は、市町別推計人口の比率を参考に割り当て
- (2) 調査方法：調査票を郵送（回答は郵送方式とWeb方式を併用）
- (3) 調査期間：令和5年10月13日から令和5年10月30日まで
- (4) 回答率：50.2%（2,512人/5,000人）
- (5) 設問数：49問(枝問含む)

3 本報告書における結果数値等の取扱い

- (1) アンケートの回答には、単数回答（1つだけ選択する回答）と複数回答（該当するものすべてを選択する回答）があり、複数回答の場合は、その質問項目に「(複数回答)」と表記しています。
- (2) 調査結果の数値は、回答数をもとに、原則、パーセント（%）値で表記しています。（%値の母数は、その質問項目の該当標本数（有効回答数））
- (3) %値は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。したがって、合計が必ずしも100%とならない場合（99.9%または100.1%など）があります。
同様に、複数の選択肢をあわせた場合や小計などでは、内訳の%値を単純加算した数値とは異なる場合があります。
- (4) 図中の「n」は、各設問の有効回答数を表しています。

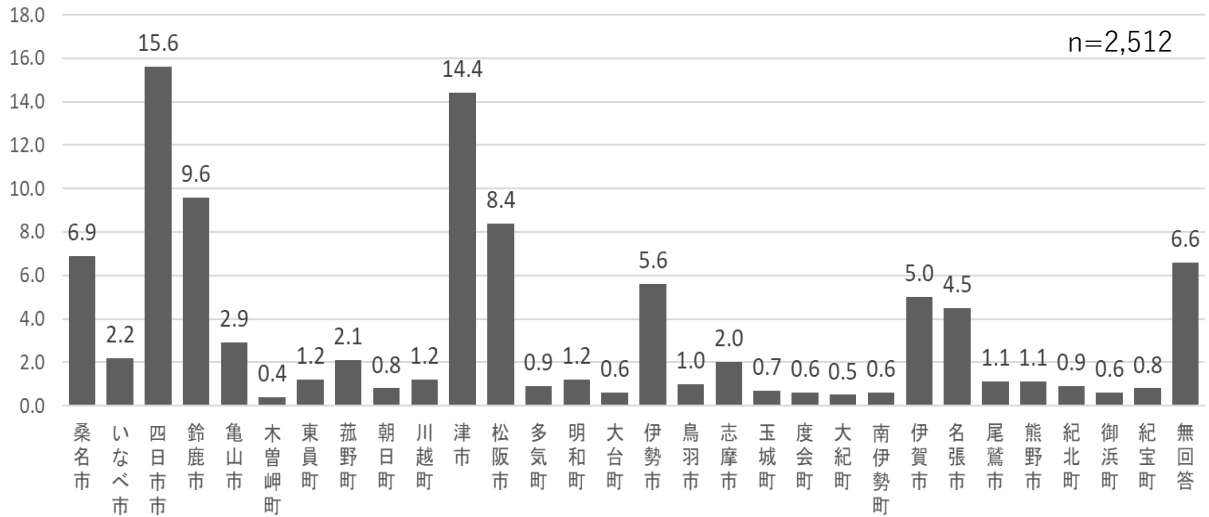
第2章 調査結果

1 アンケート調査回答者の属性

1-1 住所

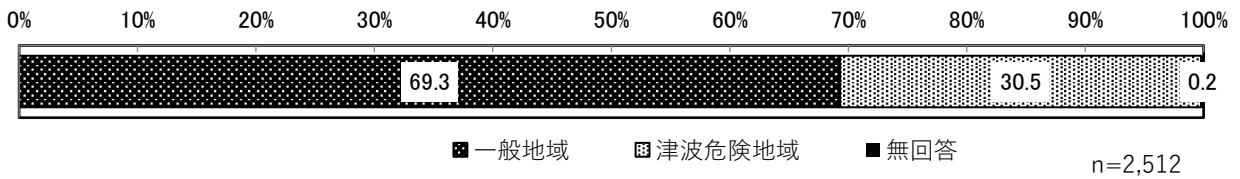
F1 ご自宅のある市町をお答えください。

(1) 市町



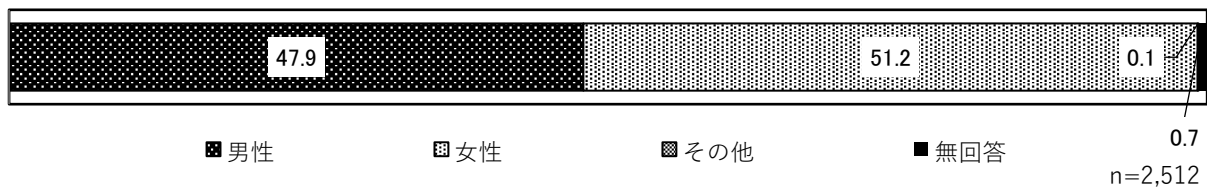
(2) 地域

※津波危険地域については71ページをご確認ください。



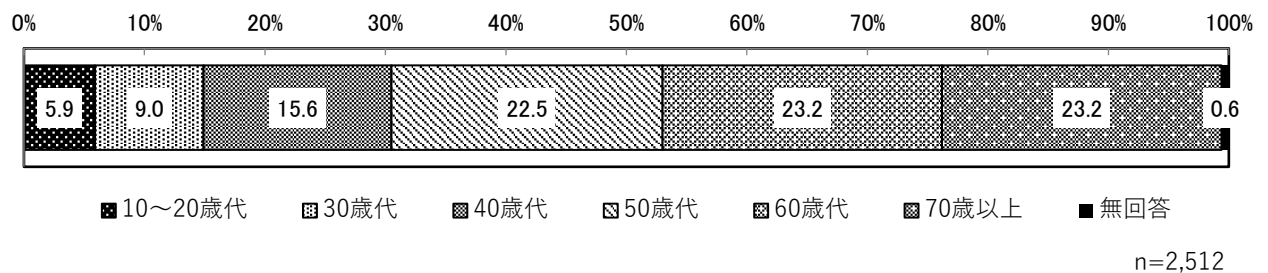
1-2 性別

F2 あなたの性別をお答えください。



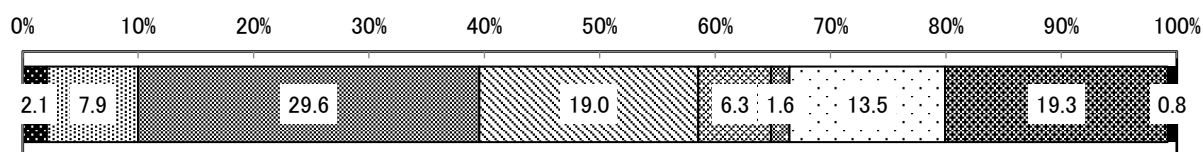
1-3 年齢

F3 あなたの現在の年齢をお答えください。



1-4 職業

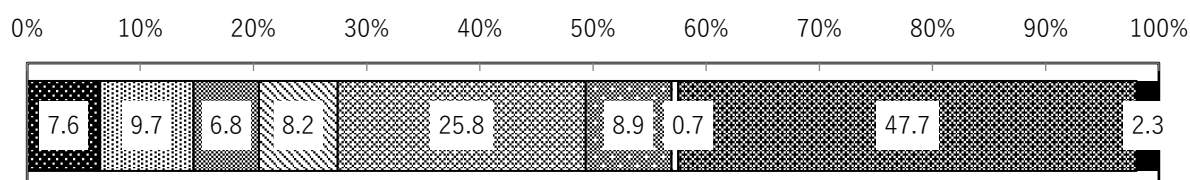
F4 あなたの職業は何ですか。



- 農林水産業 (家族従事者も含みます)
 - 企業、役所、団体などの正規職員
 - その他、収入のある仕事
 - 専業主婦、専業主夫
 - 無回答
 - 自営業、自由業 (家族従事者も含みます)
 - パート、アルバイト、派遣社員など
 - 学生 (アルバイトなどを行っている方も含みます)
 - 無職
- n=2,512

1-5 家族構成 (複数回答)

F5 あなたを含めた同居家族の中に、以下のような方はいらっしゃいますか。



- 乳幼児
 - 高校生
 - 妊産婦
 - 小学生
 - 75歳以上の方
 - 当てはまる人はいない
 - 中学生
 - 介護・介助が必要な方
 - 無回答
- n=2,512

※要配慮者とは

要配慮者とは、災害対策基本法第8条第2項第15号で「高齢者、障がい者、乳幼児その他の特に配慮を要する者」とされています。

本調査では、「乳幼児、75歳以上の方、介護・介助が必要な方、妊産婦」を要配慮者として調査しています。

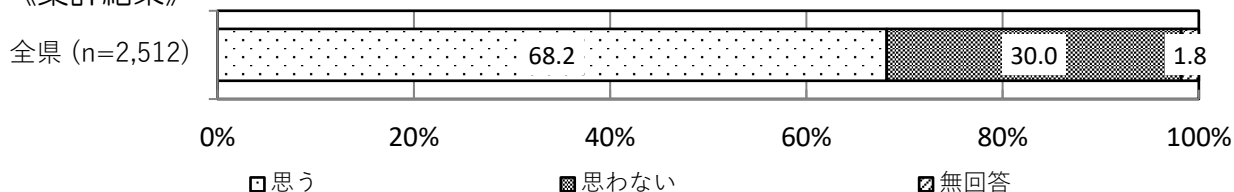
2 地震・津波対策について

2-1 今後 10 年程度で大規模な地震が起こると思うか

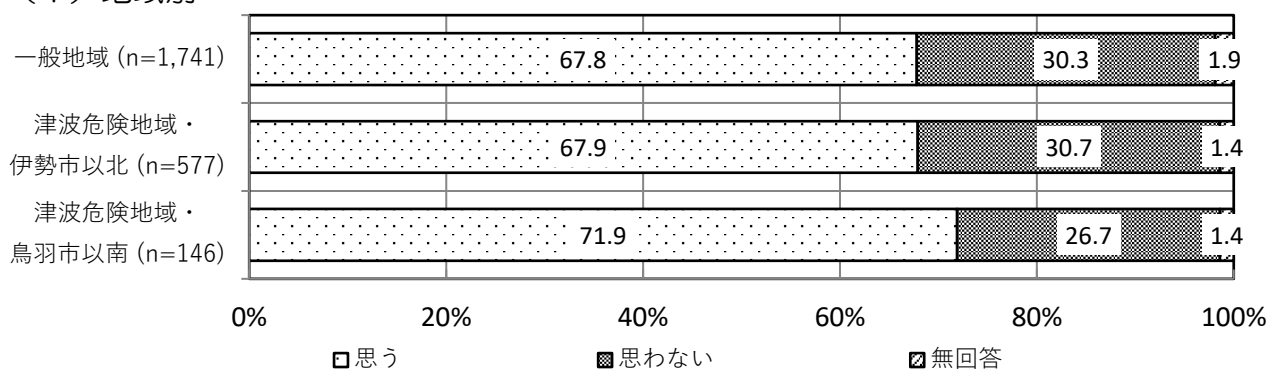
【問 1】あなたの住んでいる地域で、今後 10 年程度の間で大規模な地震が起こると思いますか。(一つだけ○)

1. 思う
2. 思わない

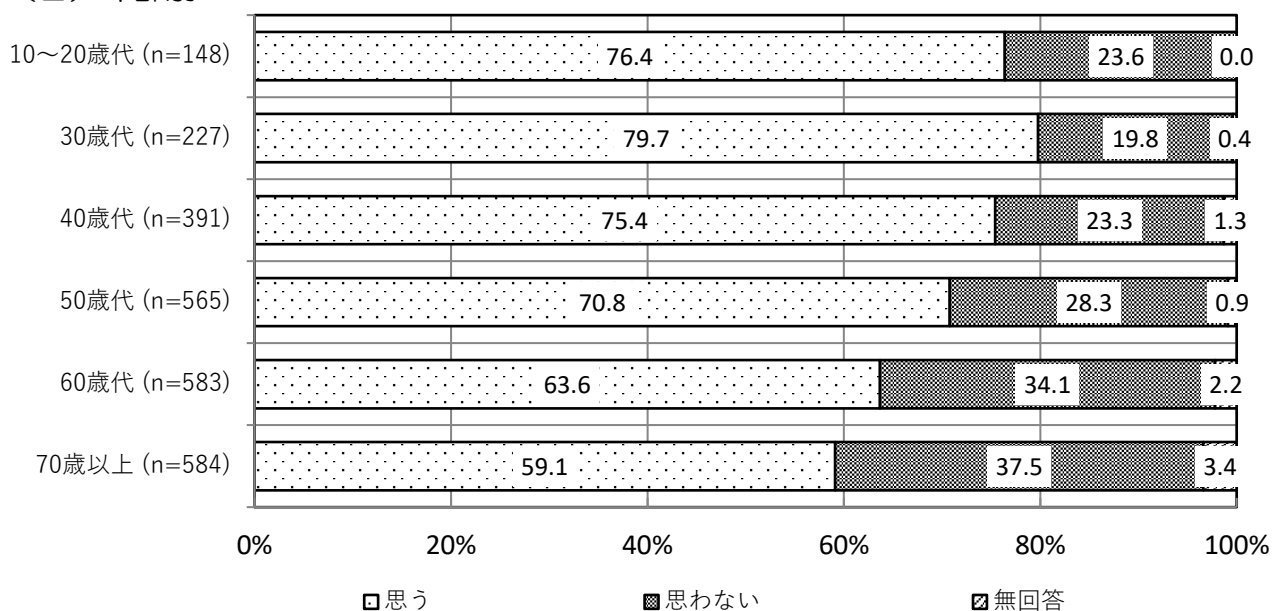
《集計結果》



(1) 地域別



(2) 年齢別



○今後 10 年程度の間で大規模な地震が起こると「思う」と答えた方の割合が 68.2%と高くなっています。

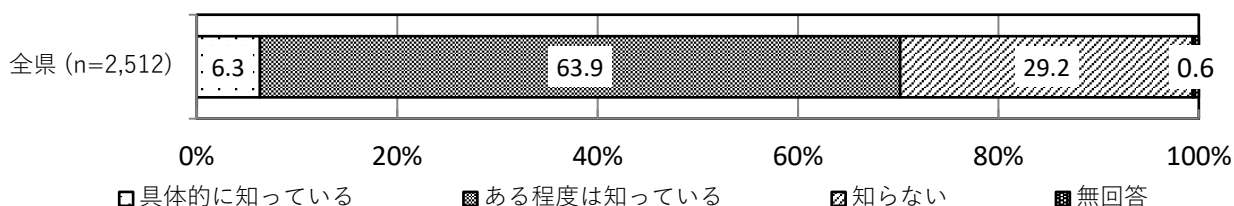
○地域別に見ると、結果に大きな差はありませんでしたが、年齢別に見ると、年齢が低いほど「思う」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

2-2 震度予測や津波浸水予測などの被害想定

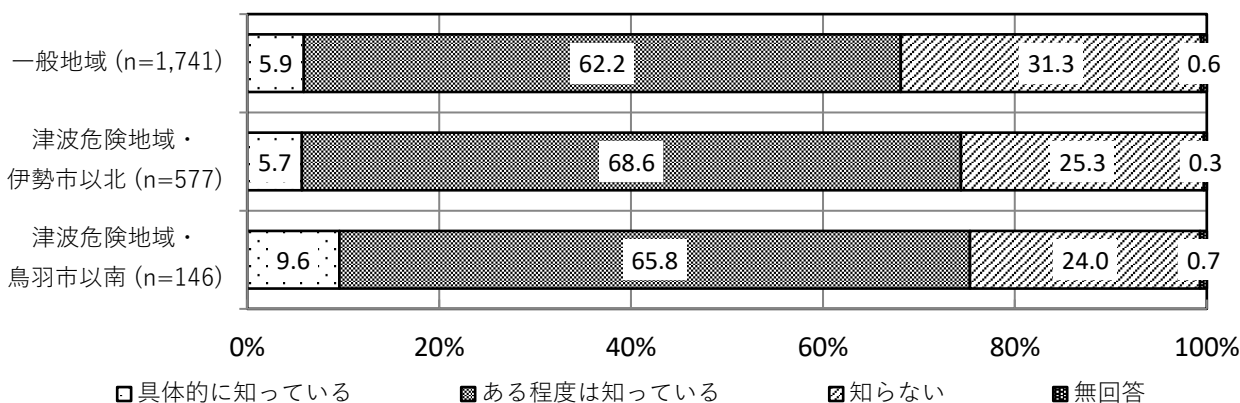
【問2】三重県では南海トラフ地震や内陸直下型地震が発生した際の地震被害想定調査の結果を公表していますが、お住まいの地域における震度予測や津波浸水予測など被害想定を知っていますか。（一つだけ〇）

1. 具体的に知っている
2. ある程度は知っている
3. 知らない

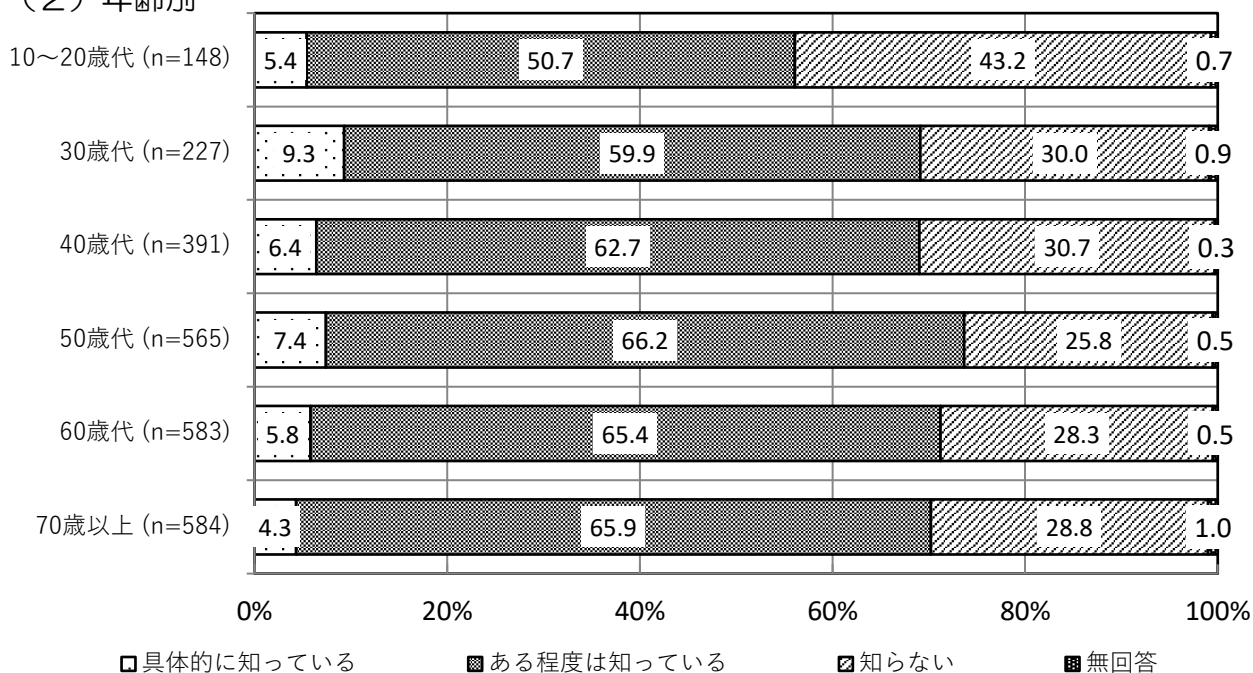
《集計結果》



(1) 地域別



(2) 年齢別



○震度予測や津波浸水予測などの被害想定について、70.2%の方が「具体的に知っている」、「ある程度は知っている」と答えている一方で、29.2%の方が「知らない」と答えています。

○地域別に見ると、津波危険地域において「具体的に知っている」、「ある程度は知っている」と答えた方の割合が高くなっており、特に鳥羽市以南の津波危険地域において「具体的に知っている」と答えた割合が他の地域に比べて高くなっています。

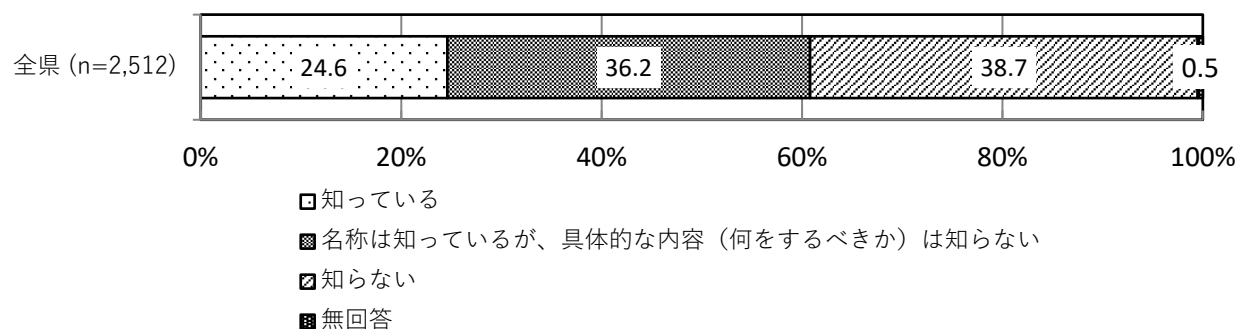
○年齢別に見ると10～20歳代で「具体的に知っている」、「ある程度は知っている」と答えた方の割合が他の年代に比べて低くなっています。

2-3 南海トラフ地震臨時情報の認知度

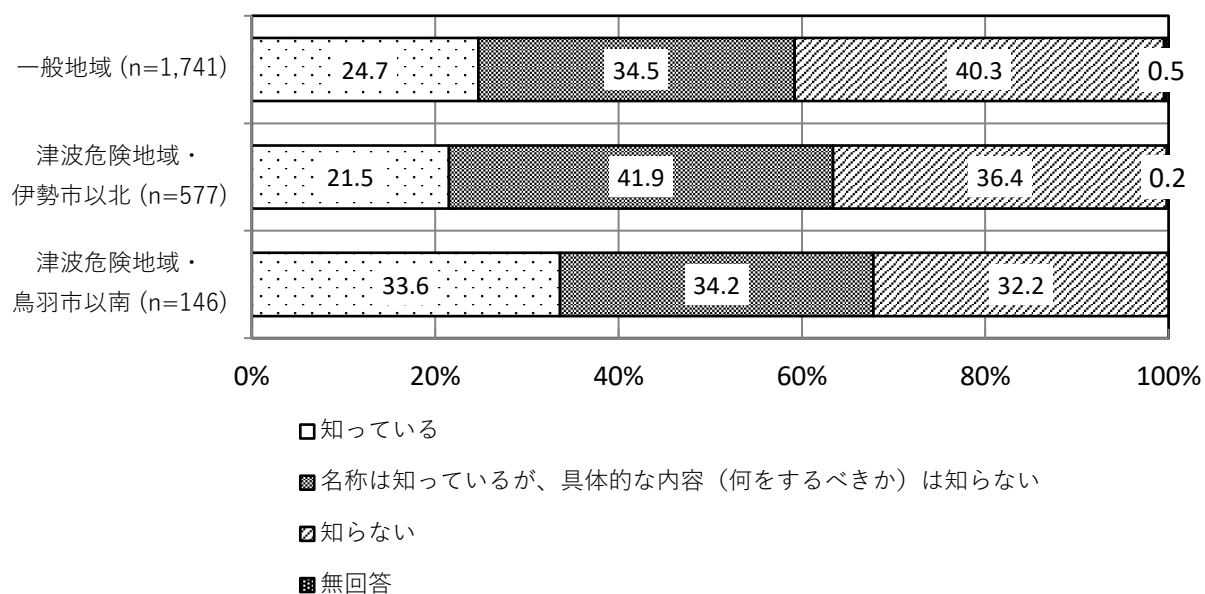
【問3】南海トラフ地震臨時情報について、地震発生から津波到達までに避難が間に合わない地域では事前に避難することとなっていますが、このことを知っていますか。
(一つだけ○)

1. 知っている
2. 名称は知っているが、具体的な内容(何をすべきか)は知らない
3. 知らない

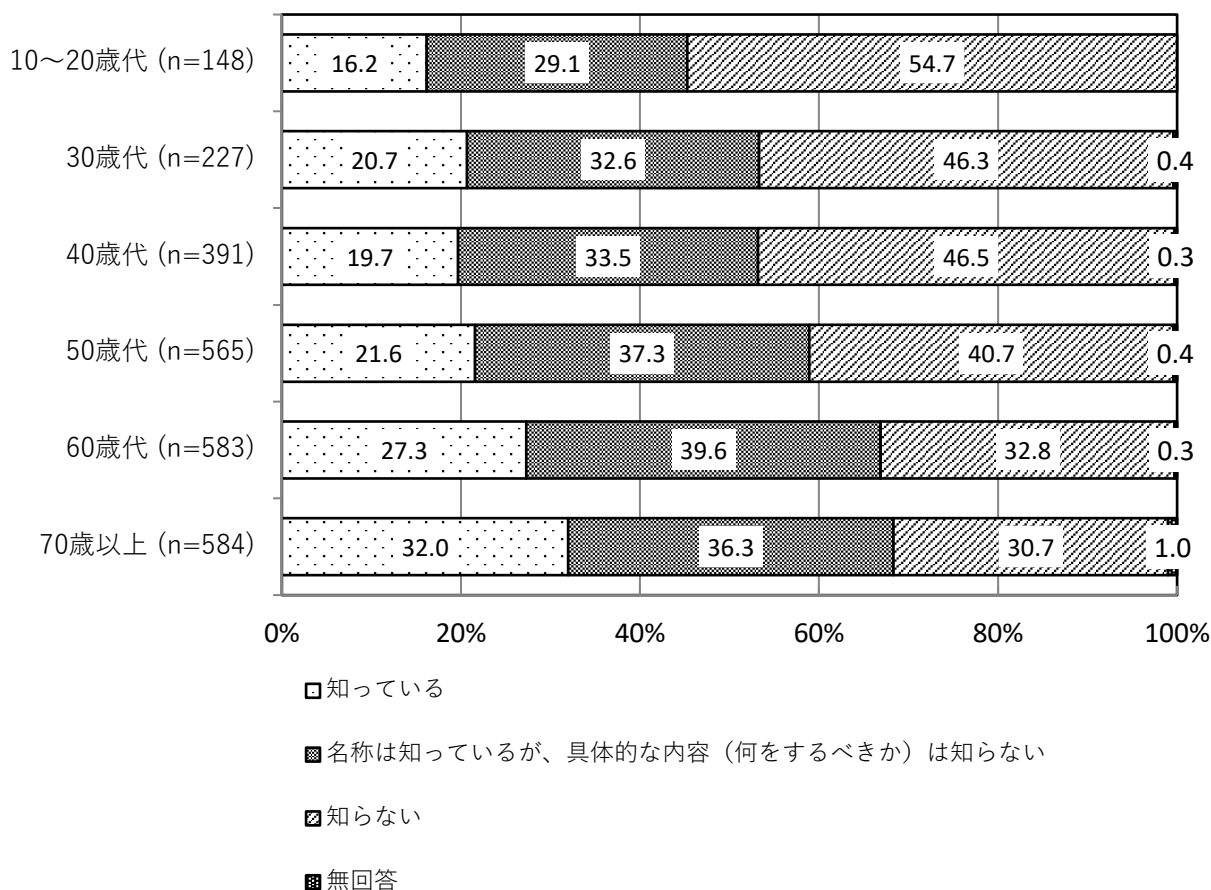
《集計結果》



(1) 地域別



(2) 「年齢別」集計結果



○南海トラフ地震臨時情報について、36.2%の方が「名称は知っているが、具体的な内容（何をすべきか）は知らない」、38.7%の方が「知らない」と答えており、「知っている」と答えた方の割合は24.6%に留まっています。

○地域別に見ると、鳥羽市以南の津波危険地域において「知っている」と答えた方の割合が33.6%と他の地域に比べて高くなっています。

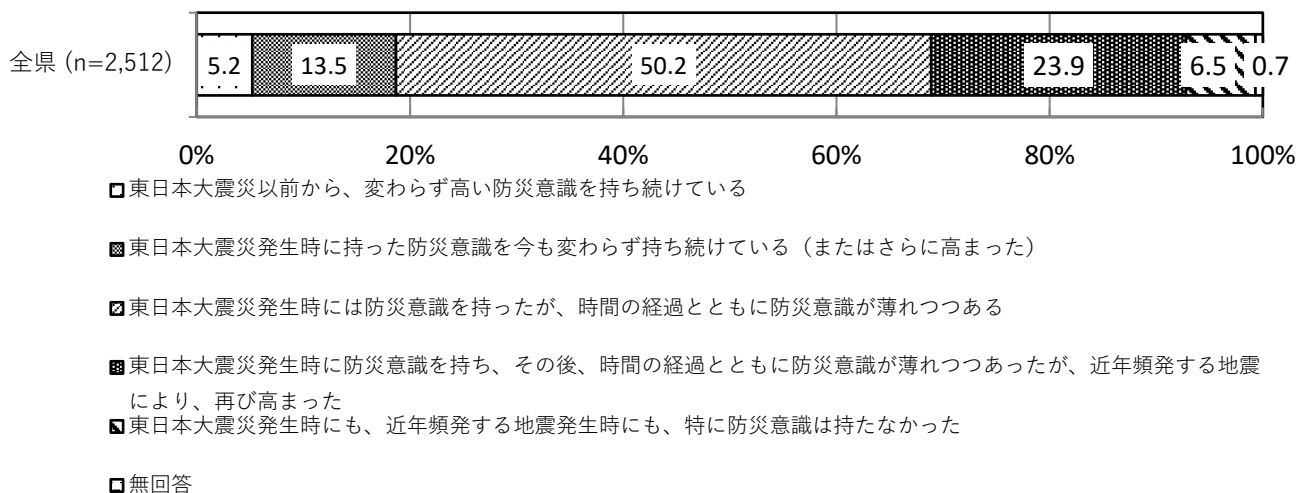
○年齢別に見ると、年齢が高いほど「知っている」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

2-4 東日本大震災後の防災意識の移り変わり

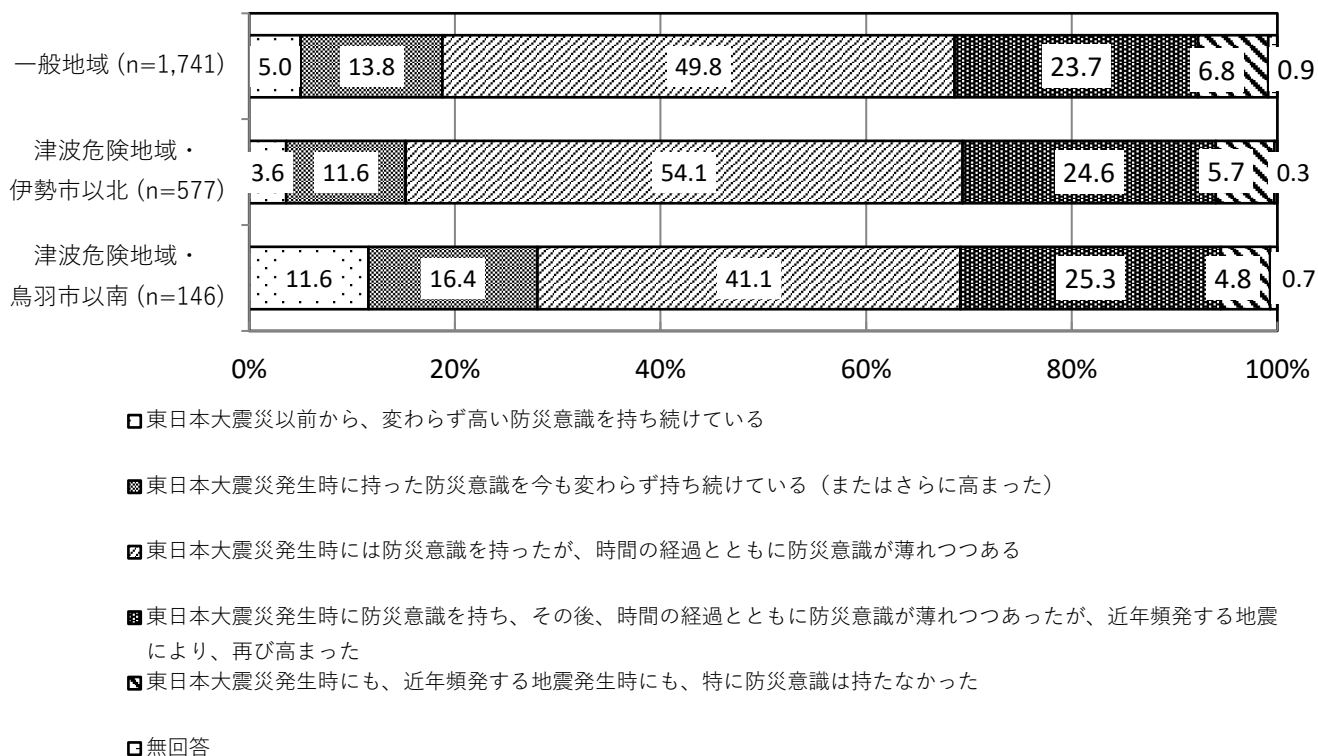
【問4】平成23年の東日本大震災の発生から12年が経過しましたが、あなたの地震に対する防災意識に変化はありますか。(一つだけ○)

1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を維持している
2. 東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず維持している(またはさらに高まった)
3. 東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
4. 東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった
5. 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に防災意識は持たなかった

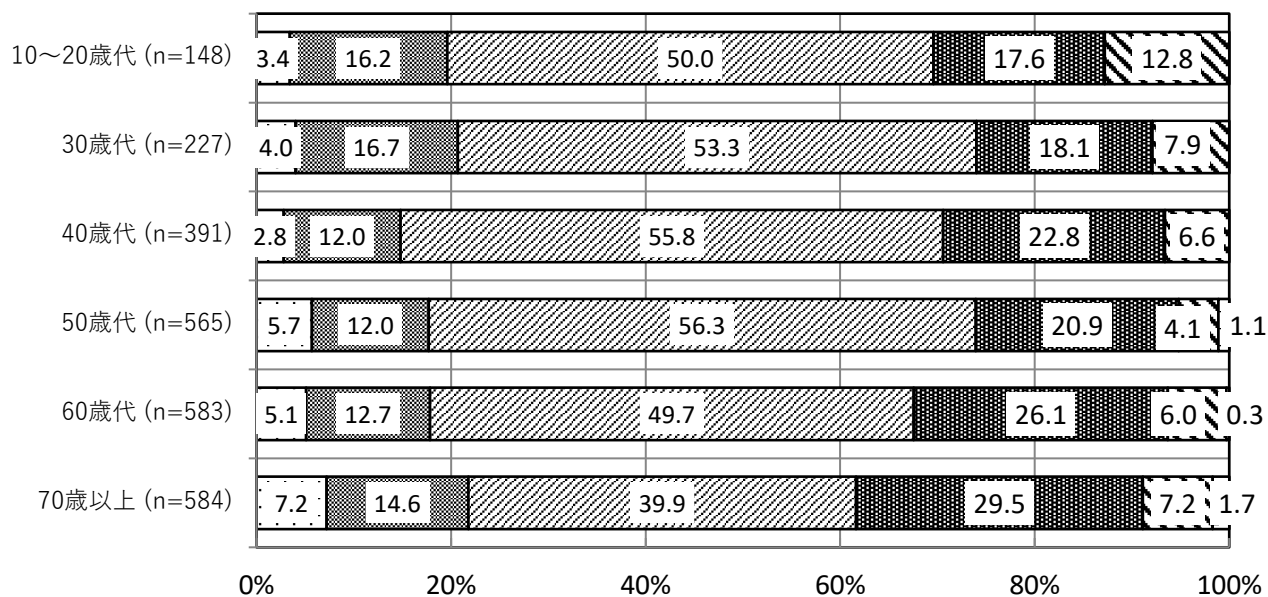
《集計結果》



(1) 地域別

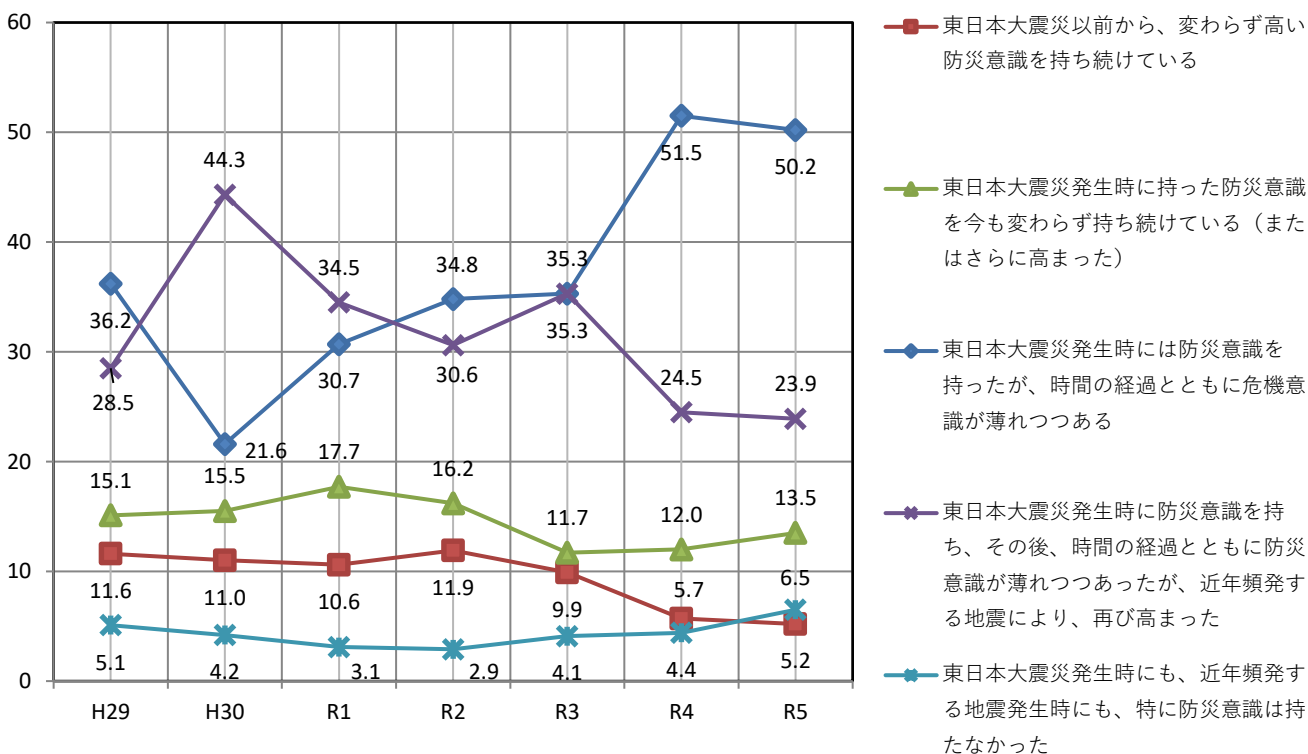


(2) 年齢別



- 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識をもち続けている
- 東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらずもち続けている（またはさらに高まった）
- ▨ 東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
- ▩ 東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった
- 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に防災意識は持たなかった
- 無回答

(3) 経年変化



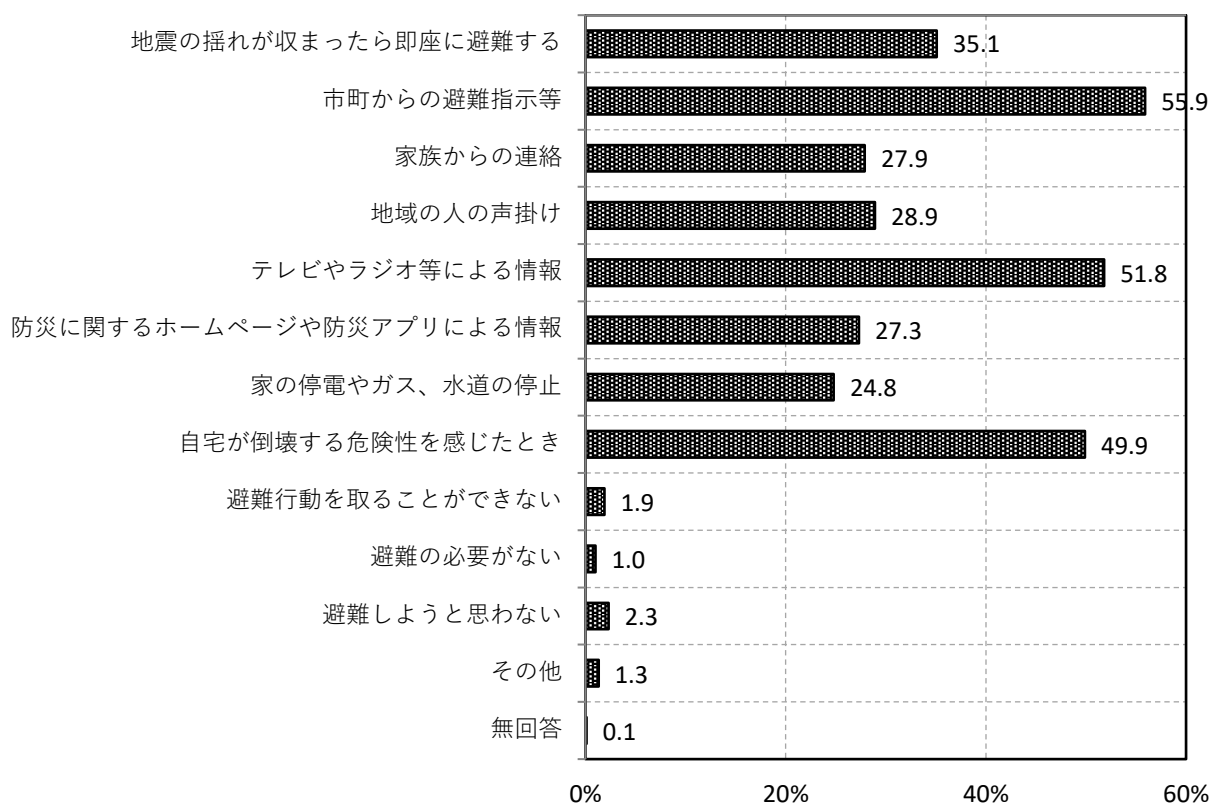
- 「東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある」と答えた方の割合が 50.2%と最も高くなっています。
- 地域別に見ると、鳥羽市以南の津波危険地域において「東日本大震災以前から、高い防災意識を持ち続けている」と答えた方の割合が 11.6%、「東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている(またはさらに高まった)」と答えた方の割合が 16.4%と他の地域に比べて高くなっています。
- 年齢別に見ると、70 歳以上において「東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある」と答えた方の割合が 39.9%と他の年代に比べて低くなっており、「東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった」と答えた方の割合が 29.5%と他の年代に比べて高くなっています。
- 経年変化を見ると、平成 30 年度以降「東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある」と答えた方の割合が増加傾向にあります。

2-5 地震に対する避難行動のきっかけ（複数回答）

【問5-1】大きな地震が発生した場合、あなたは何をきっかけに避難しますか。（いくつでも○）

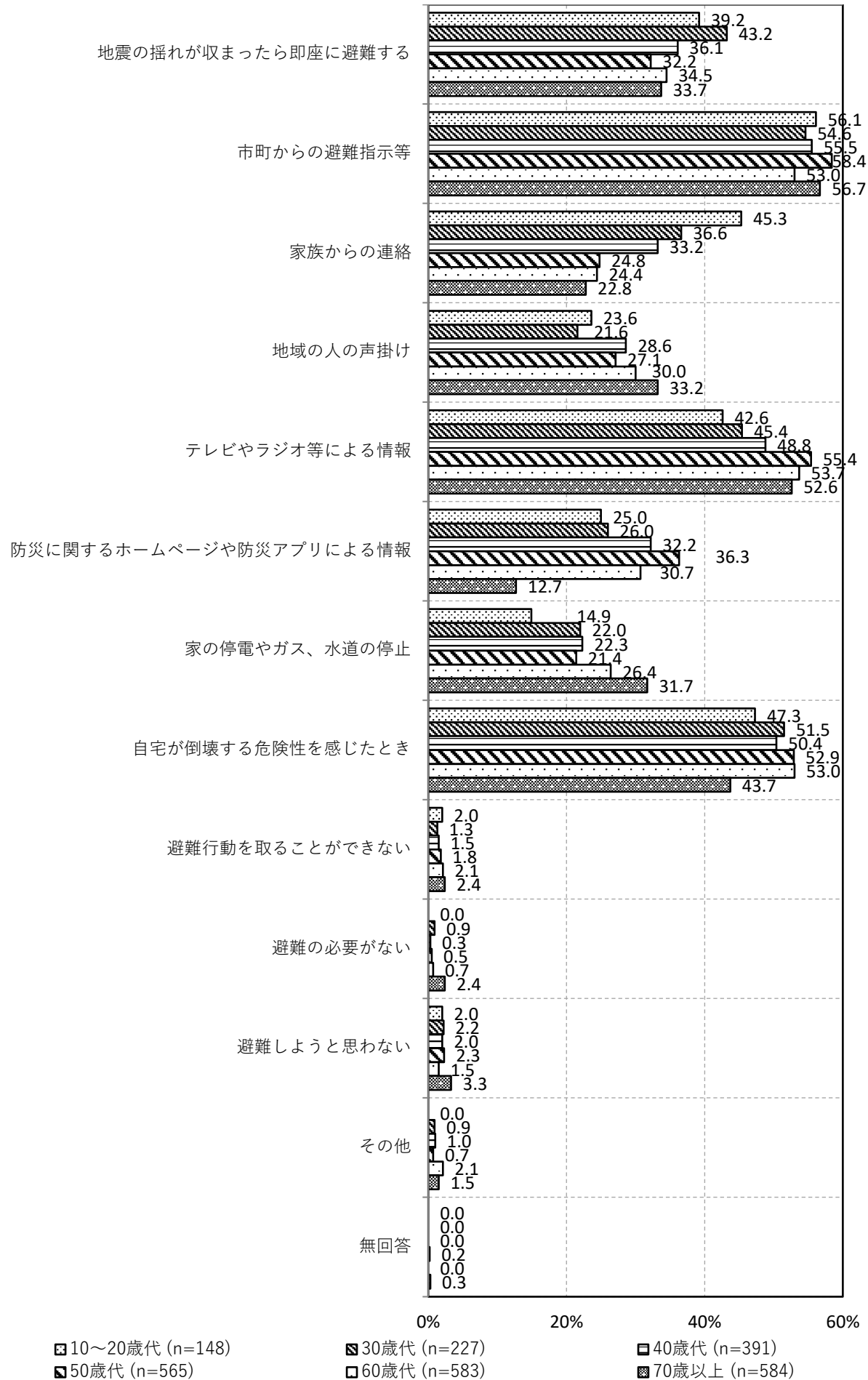
1. 地震の揺れが収まったら即座に避難する
2. 市町からの避難指示等
3. 家族からの連絡
4. 地域の人の声掛け
5. テレビやラジオ等による情報
6. 防災に関するホームページや防災アプリによる情報
7. 自宅の停電やガス、水道の停止
8. 自宅が倒壊する危険性を感じたとき
9. 避難行動を取ることができない
10. 避難の必要がない
11. 避難しようと思わない
12. その他

《集計結果》



■ 全体 (n=2,512)

(1) 年齢別



○地震に対する避難行動のきっかけとして、「市町からの避難指示等」と答えた方の割合が55.9%と最も高く、次いで「テレビやラジオ等による情報」が51.8%、「自宅が倒壊する危険性を感じたとき」が49.9%となっています。

○年齢別に見ると、年齢が低いほど「家族からの連絡」と答えた方の割合が高く、年齢が高いほど「地域の方の声掛け」、「テレビやラジオ等による情報」と答えた方の割合が高い傾向にあります。また、70歳以上において「防災に関するホームページや防災アプリによる情報」と答えた方の割合が12.7%と他の年代に比べて低くなっています。

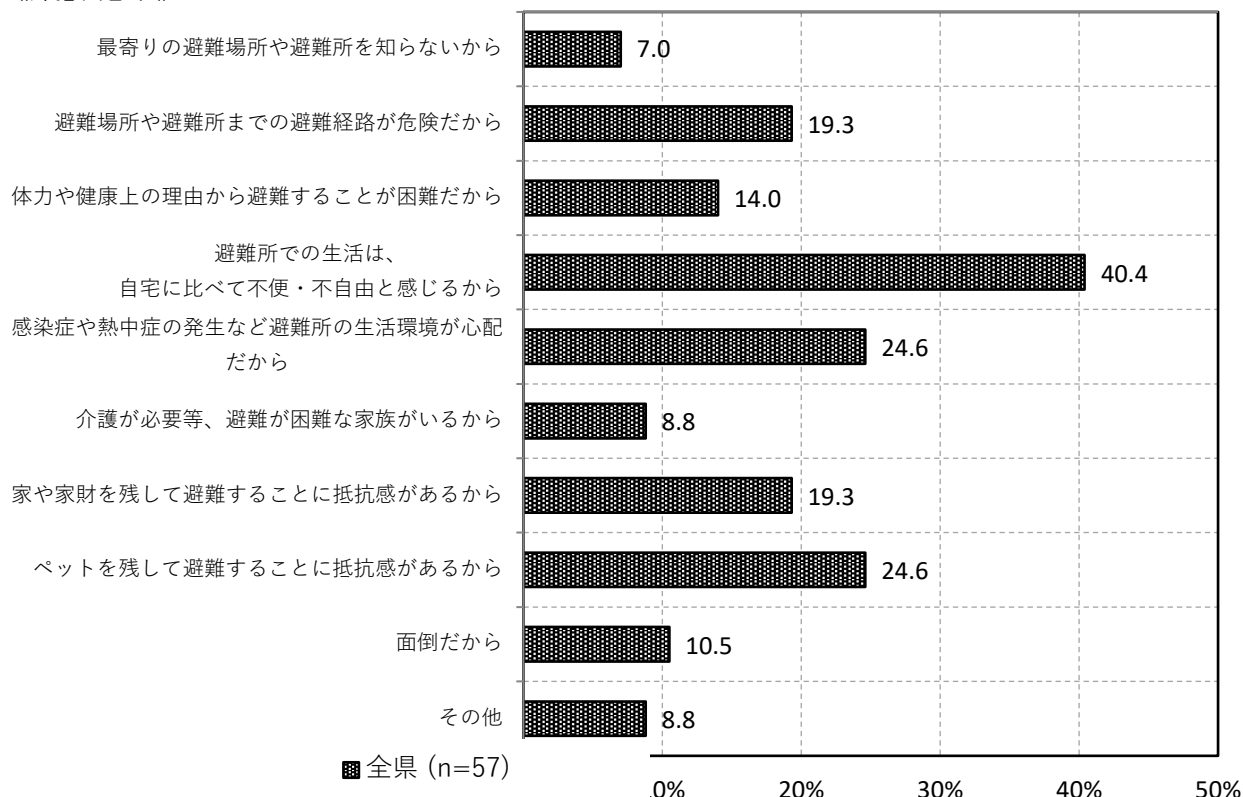
2-6 地震に対して避難しない理由（複数回答）

【問5-2】問5-1で「11. 避難しようと思わない」と回答された方にお尋ねします。

避難しない理由は何ですか。（いくつでも〇）

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難経路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由とを感じるから
5. 感染症や熱中症の発生など避難所の生活環境が心配だから
6. 介護が必要等、避難が困難な家族がいるから
7. 家や家財を残して避難することに抵抗感があるから
8. ペットを残して避難することに抵抗感があるから
9. 面倒だから
10. その他

《集計結果》



○地震に対して避難しない理由として、「避難所での生活が不便・不自由とを感じる」と答えた方の割合が40.4%と最も高くなっています。

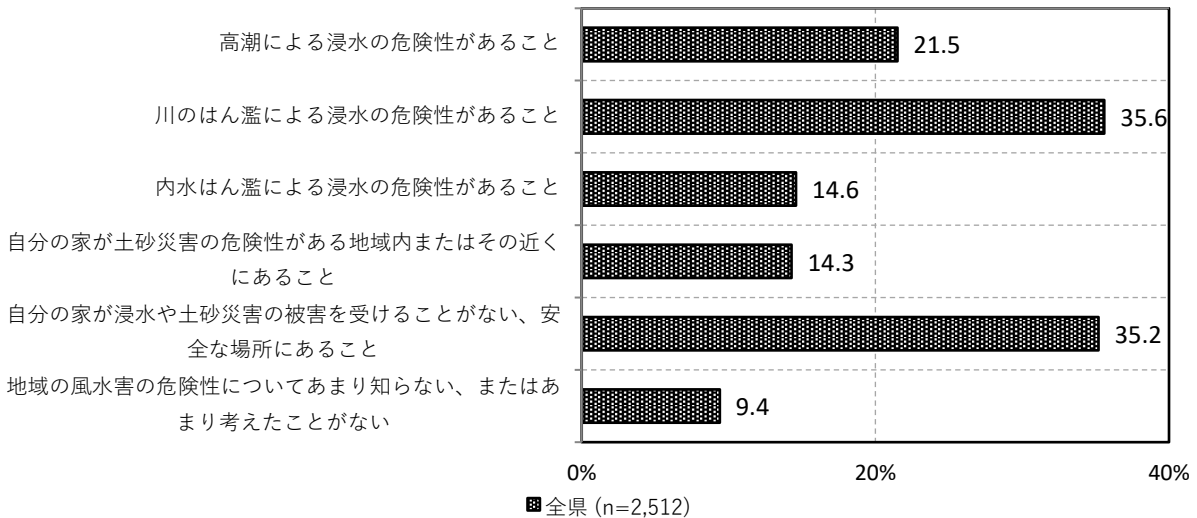
3 風水害対策について

3-1 自宅周辺の風水害の危険性の把握（複数回答）

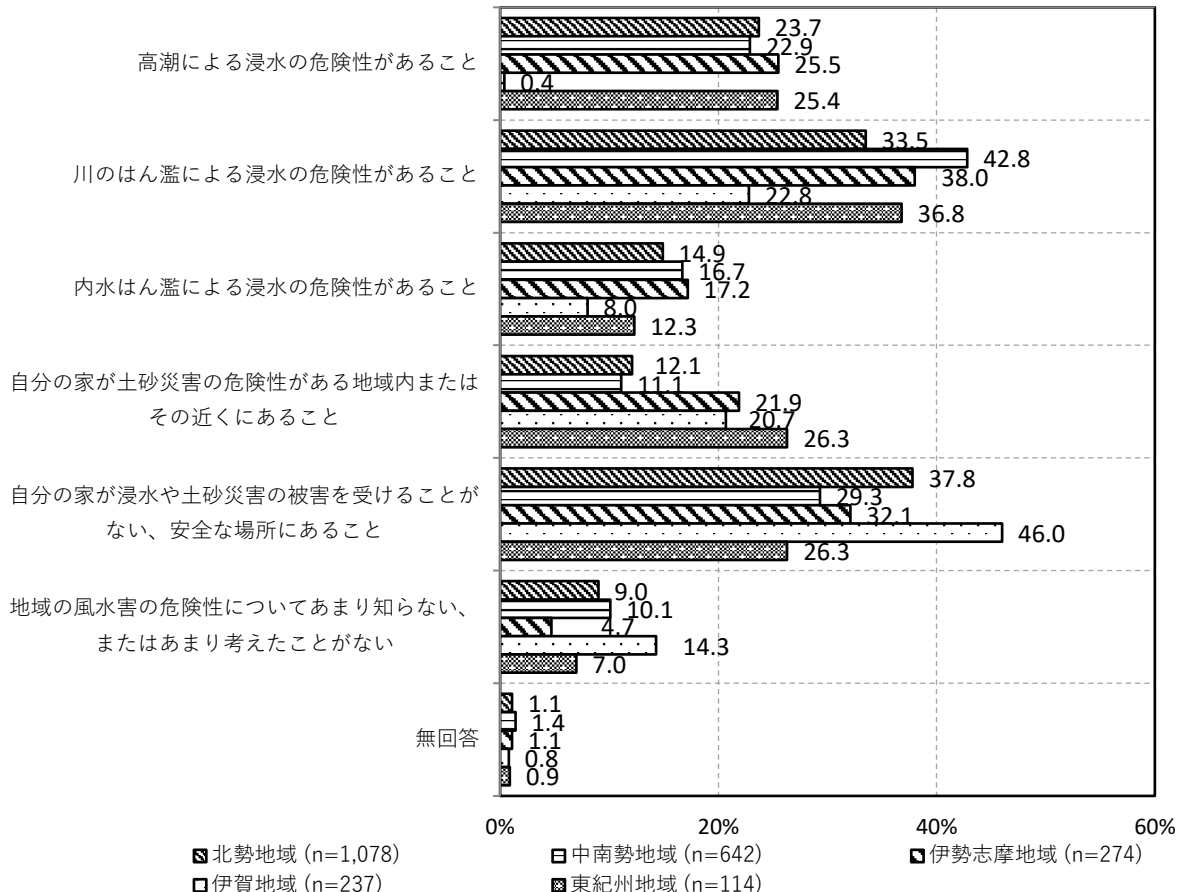
【問6】あなたのお住いの周辺における風水害（高潮や川のはん濫、土砂災害等）の危険性について、どの程度把握されていますか。（いくつでも〇）

1. 高潮による浸水の危険性があること
2. 川のはん濫による浸水の危険性があること
3. 内水はん濫による浸水の危険性があること
4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあること
5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあること
6. 地域の風水害の危険性についてあまり知らない、またはあまり考えたことがない

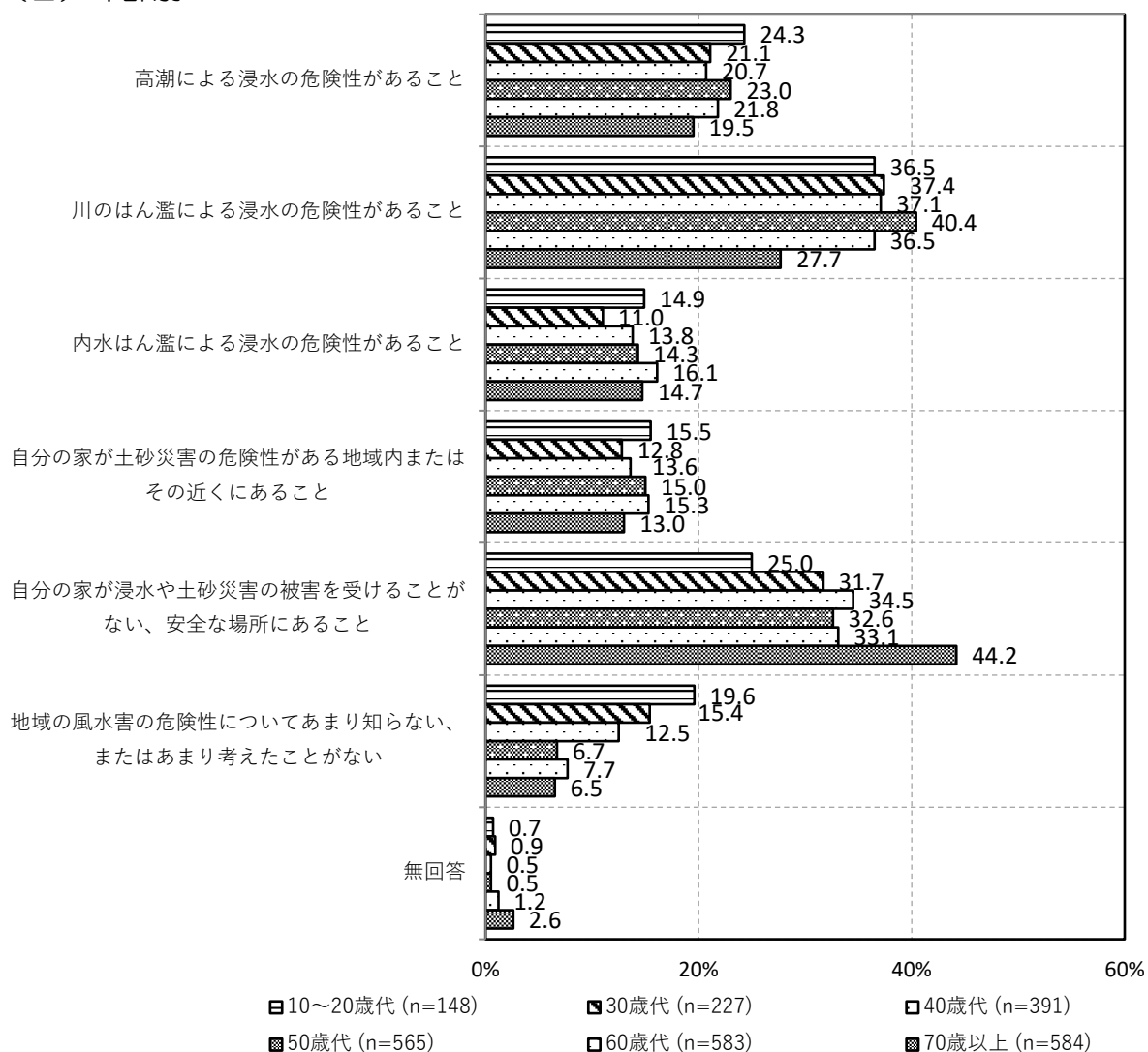
《集計結果》



(1) 地域別



(2) 年齢別



○「地域の風水害の危険性についてあまり知らない、またはあまり考えたことがない」と答えた方の割合は 9.4%となっており、多くの方が自宅周辺の風水害の危険性について把握していると答えています。

○地域別に見ると、「地域の風水害の危険性についてあまり知らない、またはあまり考えたことがない」と答えた方の割合が、伊勢志摩地域において 4.7%と他の地域に比べて低くなっている一方で、伊賀地域においては 14.3%と他の地域に比べて高くなっています。

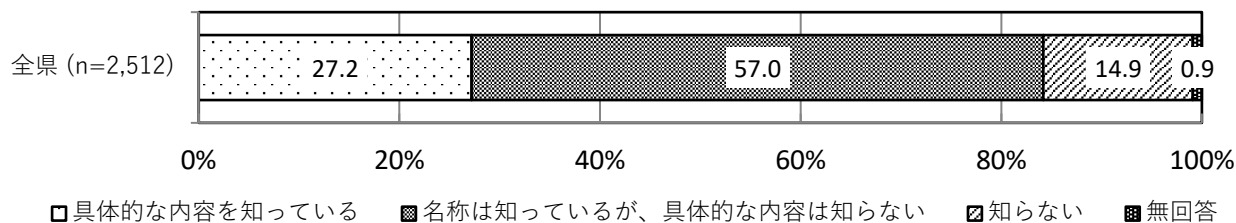
○年齢別に見ると、年齢が低いほど「地域の風水害の危険性についてあまり知らない、またはあまり考えたことがない」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

3-2 避難情報（警戒レベル）の認知度

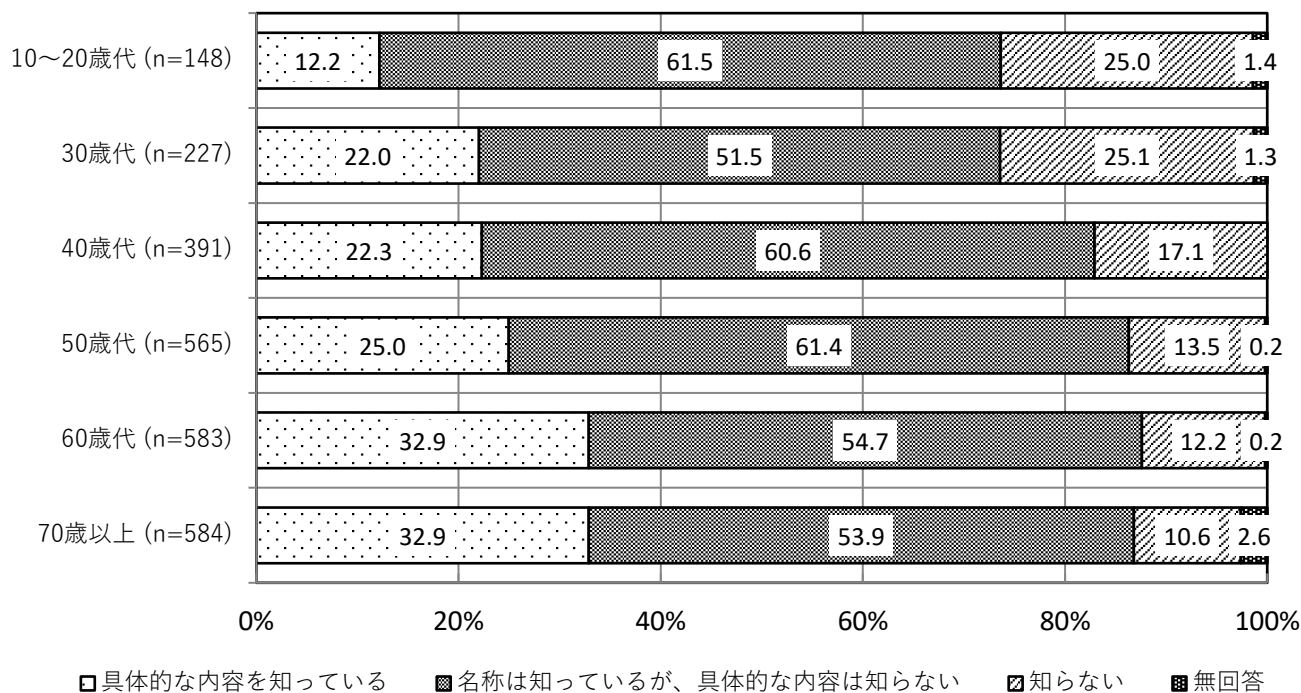
【問7】市町が発令する避難情報について、5段階の警戒レベルを用いて伝達することとなっていますが、この警戒レベルを知っていますか。（一つだけ〇）

1. 具体的な内容を知っている
2. 名称は知っているが、具体的な内容は知らない
3. 知らない

《集計結果》



(1) 年齢別



○避難情報（警戒レベル）の認知度について、27.2%の方が「具体的な内容を知っている」と答えている一方で、71.9%の方が「名称は知っているが、具体的な内容は知らない」、「知らない」と答えています。

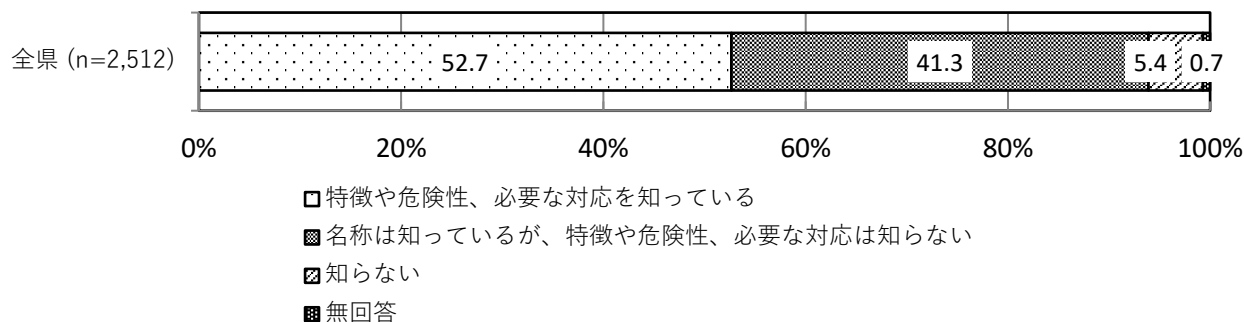
○年齢別に見ると、年齢が高いほど「具体的な内容を知っている」と答えた方の割合が高く、年齢が低いほど「知らない」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

3-3 線状降水帯の認知度

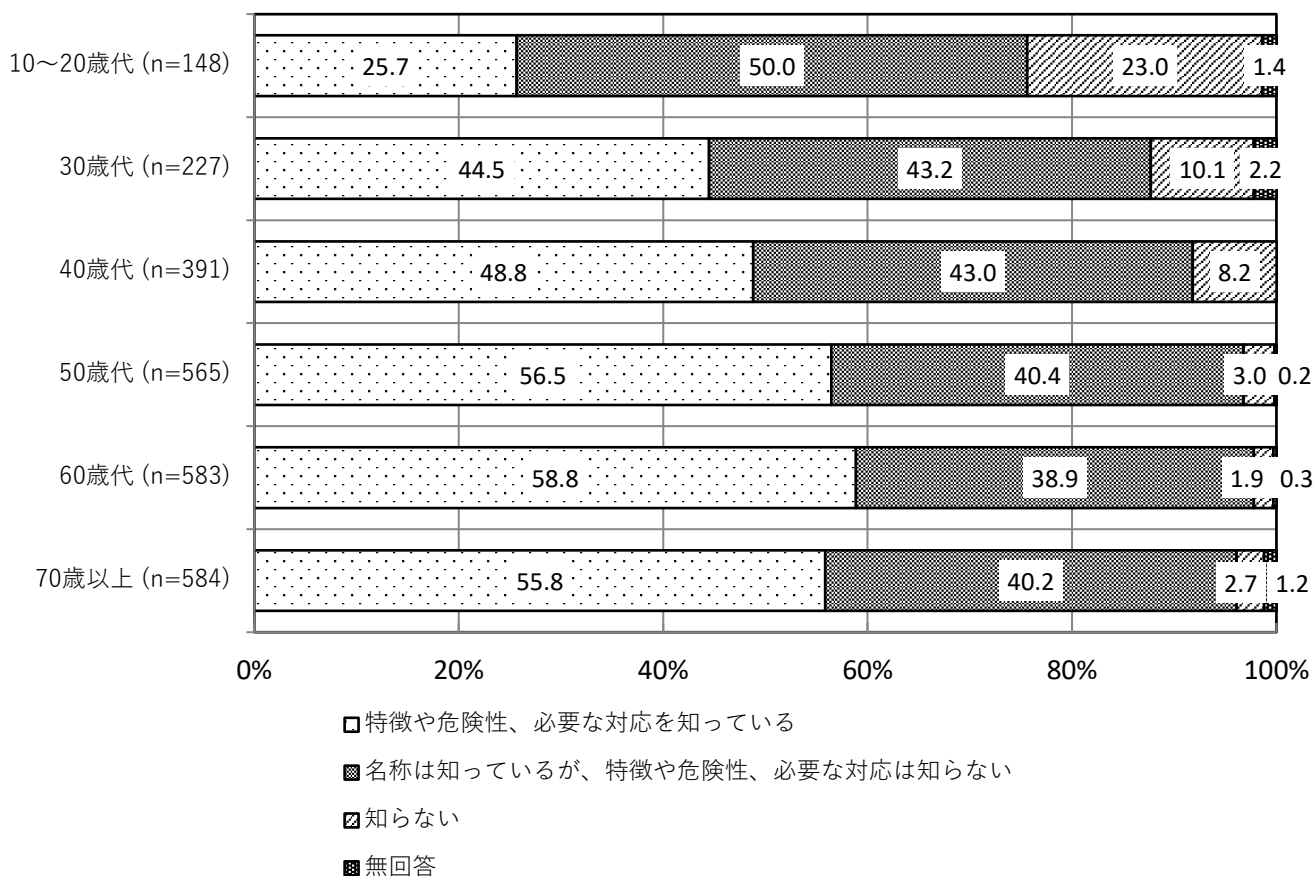
【問8】近年各地で発生し、被害をもたらしている「線状降水帯」について、その特徴や危険性、必要な対応について知っていますか。（一つだけ○）

1. 特徴や危険性、必要な対応を知っている
2. 名称は知っているが、特徴や危険性、必要な対応は知らない
3. 知らない

《集計結果》



(1) 年齢別



○線状降水帯の認知度について、52.7%の方が、「特徴や危険性、必要な対応を知っている」と答えている一方で、46.7%の方が「名称は知っているが、特徴や危険性、必要な対応は知らない」、「知らない」と答えています。

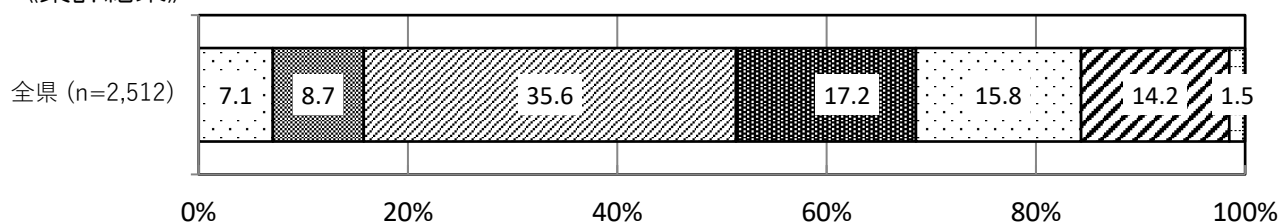
○年齢別に見ると、10～20歳代において「特徴や危険性、必要な対応を知っている」と答えた方の割合が25.7%と他の年代に比べて低くなっています。

3-4 紀伊半島大水害後の防災意識の移り変わり

【問9】平成23年の紀伊半島大水害の発生から12年が経過しましたが、あなたの風水害に対する防災意識に変化はありますか。(一つだけ○)

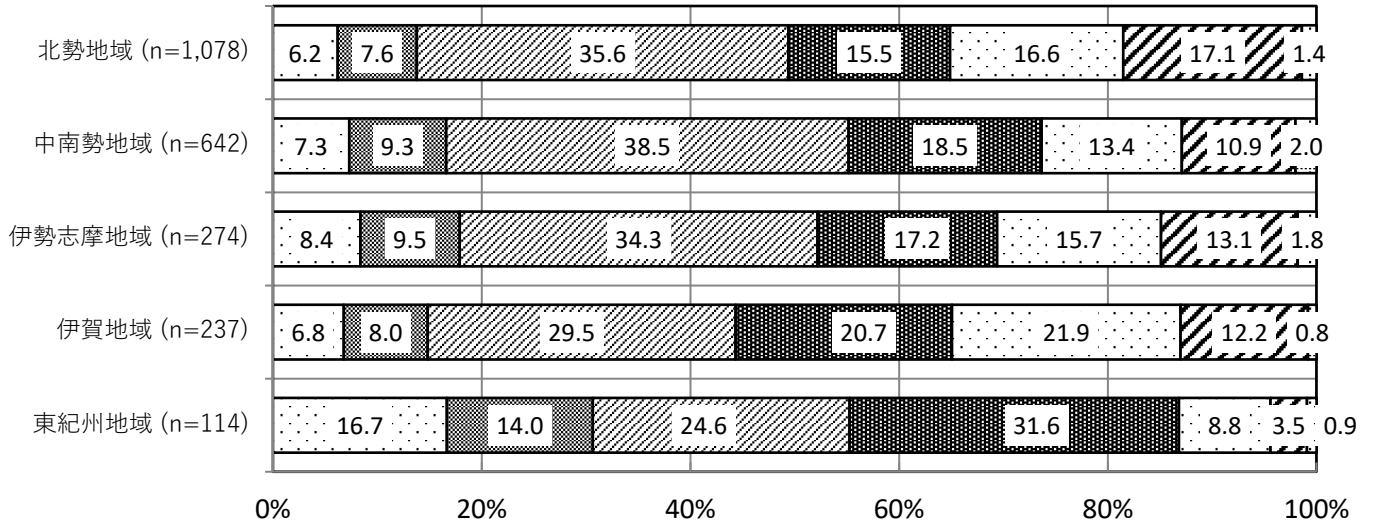
1. 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
2. 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている (またはさらに高まった)
3. 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
4. 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
5. 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった
6. 紀伊半島大水害当時に、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった

《集計結果》



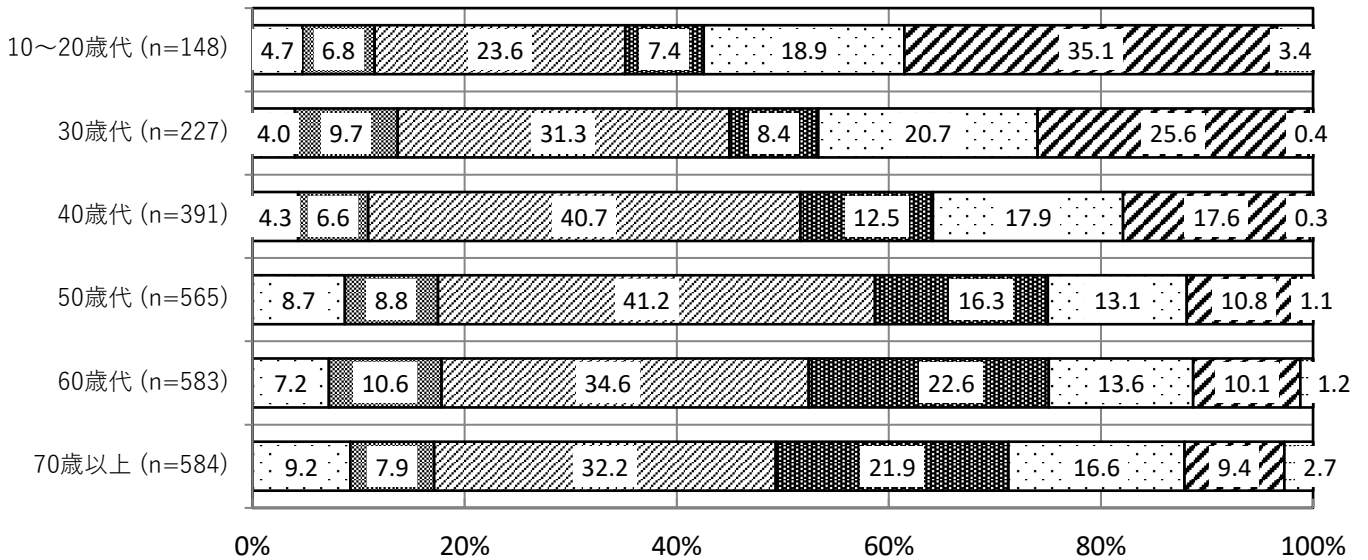
- 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
- 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている (またはさらに高まった)
- 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
- 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
- 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった。
- 紀伊半島大水害当時に、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった
- 無回答

(1) 地域別



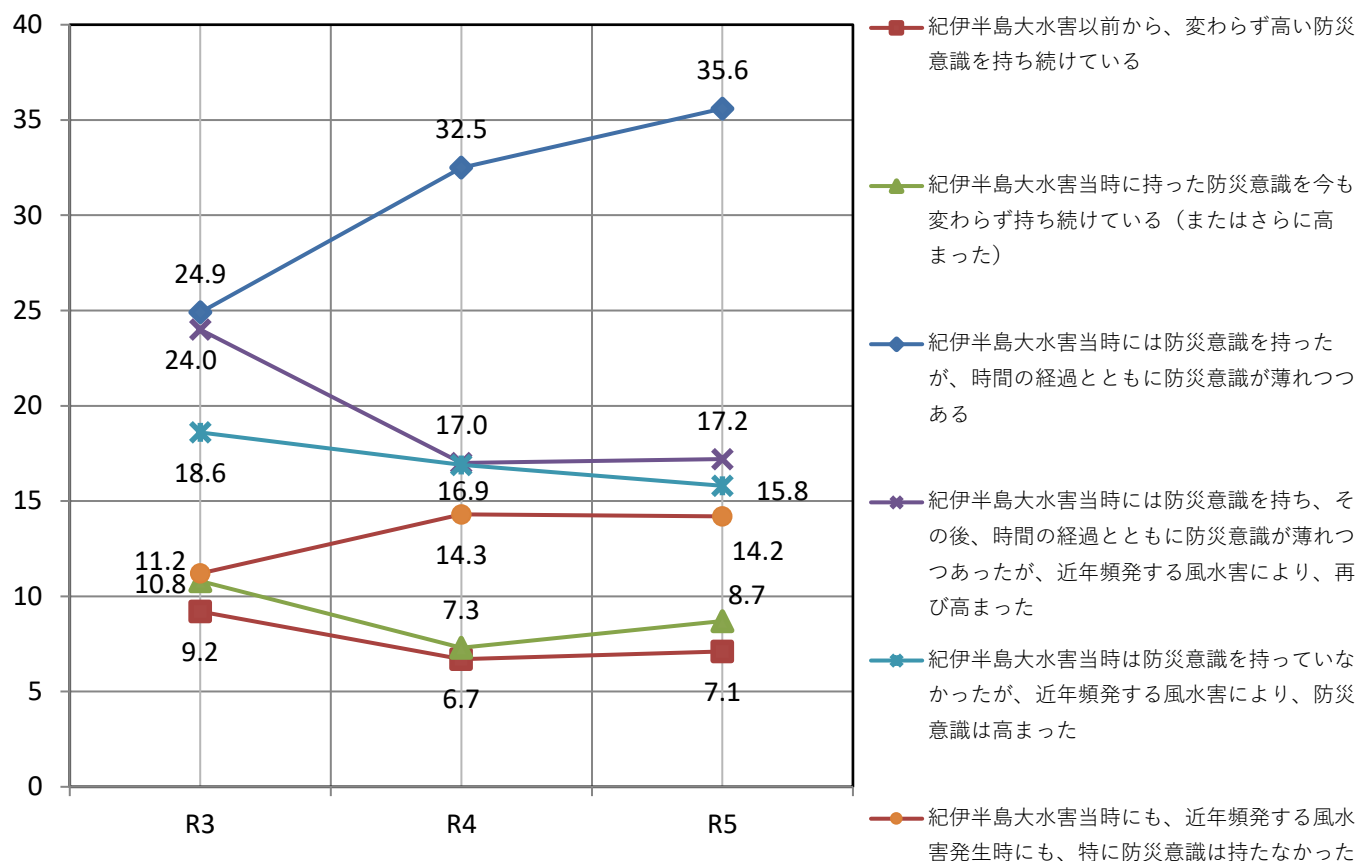
- 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
- 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）
- 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
- 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
- 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった。
- 紀伊半島大水害当時に、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった
- 無回答

(2) 年齢別



- 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
- 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）
- 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
- 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
- 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった。
- 紀伊半島大水害当時に、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった
- 無回答

(3) 経年変化



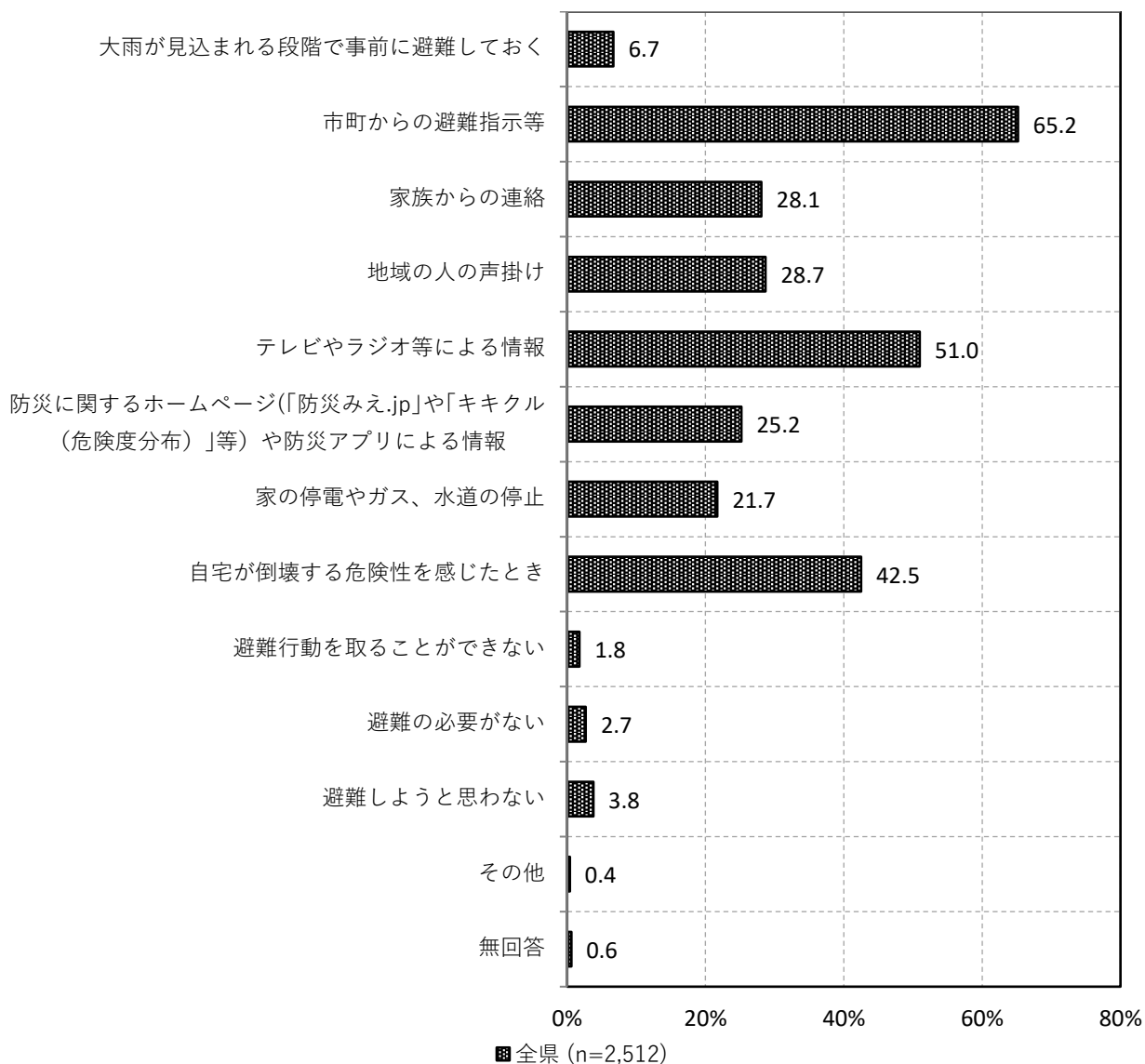
- 紀伊半島大水害発生後の防災意識について、「紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに薄れつつある」と答えた方の割合が 35.6%と最も高くなっています。
- 地域別に見ると、東紀州地域において「紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を維持している」、「紀伊半島大水害当時を持った防災意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）」、「紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった」と答えた方の割合が他の地域に比べて高くなっています。
- 年齢別に見ると、年齢が低いほど「紀伊半島大水害当時にも、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった」と答えた方の割合が高い傾向にあります。
- 経年変化を見ると、「紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある」と答えた方の割合が、令和3年度以降増加傾向にあります。

3-5 風水害に対する避難行動のきっかけ（複数回答）

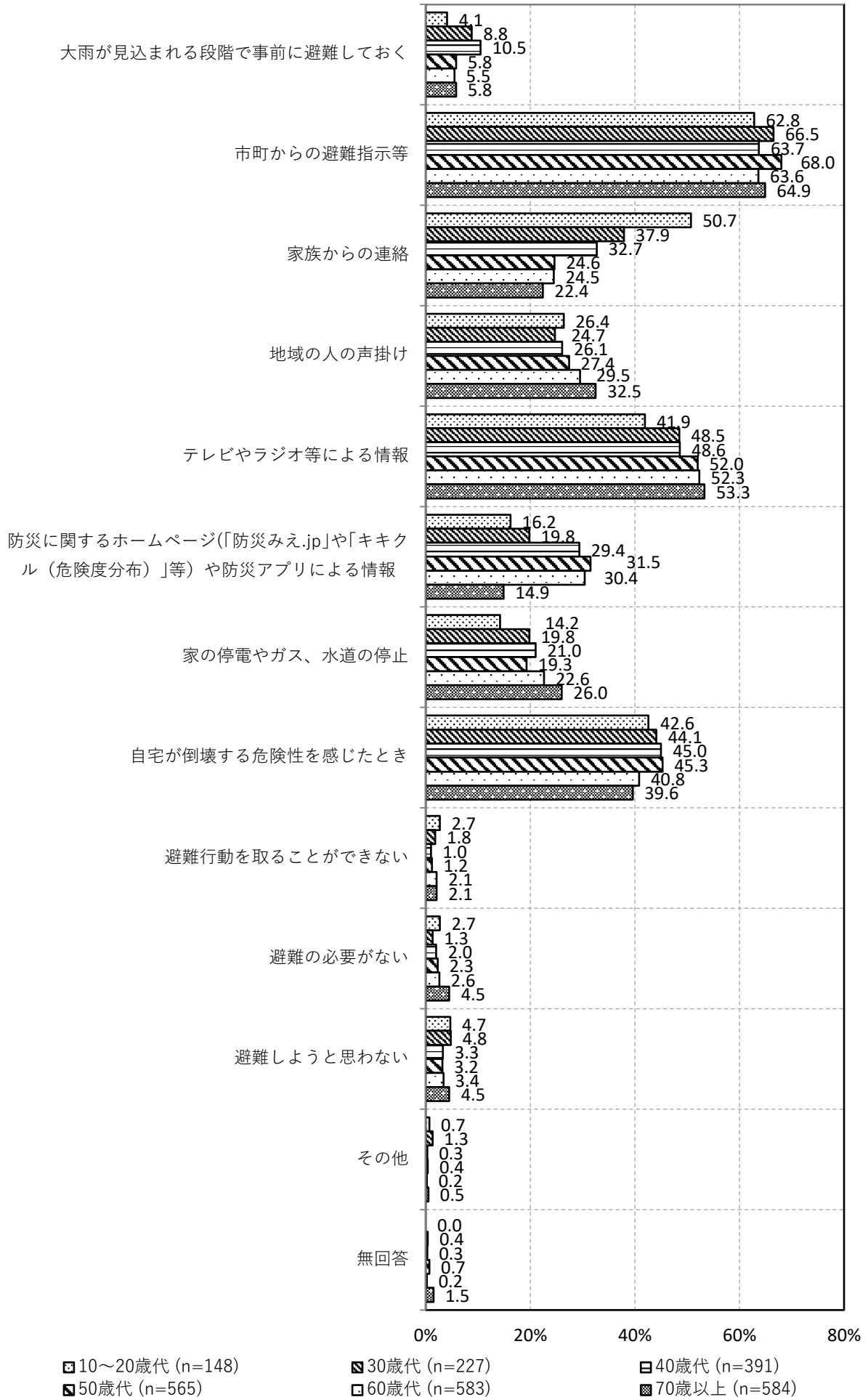
【問 10-1】被害の発生が予測されるような大雨が降っている場合、あなたは何をきっかけに避難しますか。（いくつでも〇）

1. 大雨が見込まれる段階で事前に避難しておく
2. 市町からの避難指示等
3. 家族からの連絡
4. 地域の人の声掛け
5. テレビやラジオ等による情報
6. 防災に関するホームページ（「防災みえ.jp」や「キキクル（危険度分布）」等）や防災アプリによる情報
7. 自宅の停電やガス、水道の停止
8. 自宅が倒壊する危険性を感じたとき
9. 避難行動を取ることができない
10. 避難の必要がない
11. 避難しようと思わない
12. その他

《集計結果》



(1) 年齢別



○風水害に対する避難行動のきっかけとして、「市町からの避難指示等」と答えた方の割合が65.2%と最も高く、次いで「テレビやラジオ等による情報」が51.0%、「自宅が倒壊する危険性を感じたとき」が42.5%となっています。

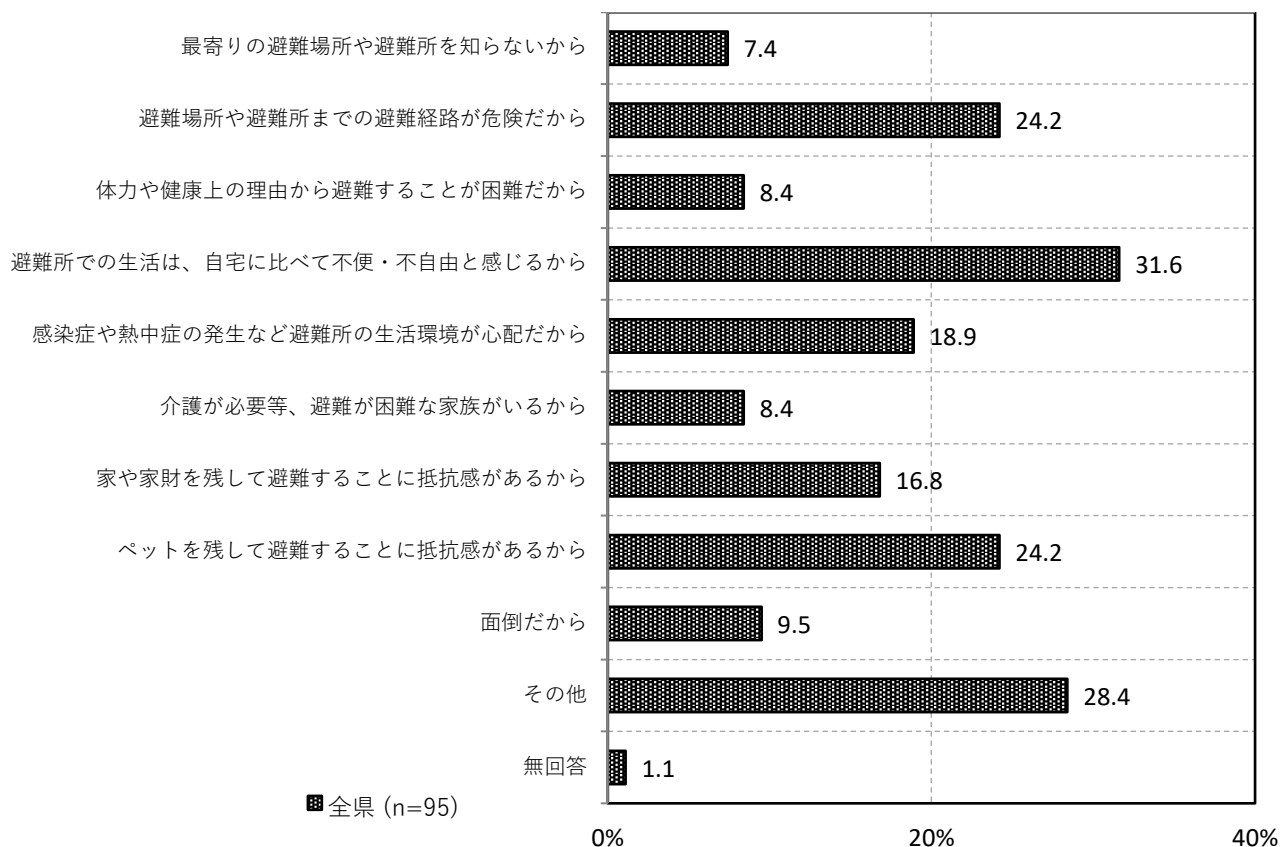
○年齢別に見ると、年齢が低いほど「家族からの連絡」と答えた方の割合が高い傾向にあります。また、10～20歳代において「テレビやラジオ等による情報」と答えた方の割合が41.9%と他の年代に比べて低くなっています。さらに、10～20歳代、30歳代、70歳以上において「防災に関するホームページや防災アプリ」と答えた方の割合が他の年代に比べて低くなっています。

3-6 風水害に対して避難しない理由（複数回答）

【問 10-2】問 10-1 で「11. 避難しようと思わない」と回答された方にお尋ねします。避難しない理由は何ですか。（いくつでも○）

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難経路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由とを感じるから
5. 感染症や熱中症の発生など避難所の生活環境が心配だから
6. 介護が必要等、避難が困難な家族がいるから
7. 家や家財を残して避難することに抵抗感があるから
8. ペットを残して避難することに抵抗感があるから
9. 面倒だから
10. その他

《集計結果》



○風水害に対して避難しない理由として、「避難所での生活が不便・不自由とを感じる」と答えた方の割合が31.6%と最も高くなっています。

4 災害時の情報収集について

4-1 災害時の情報の入手先（現在）（複数回答）

4-2 災害時の情報の入手先（今後）（複数回答）

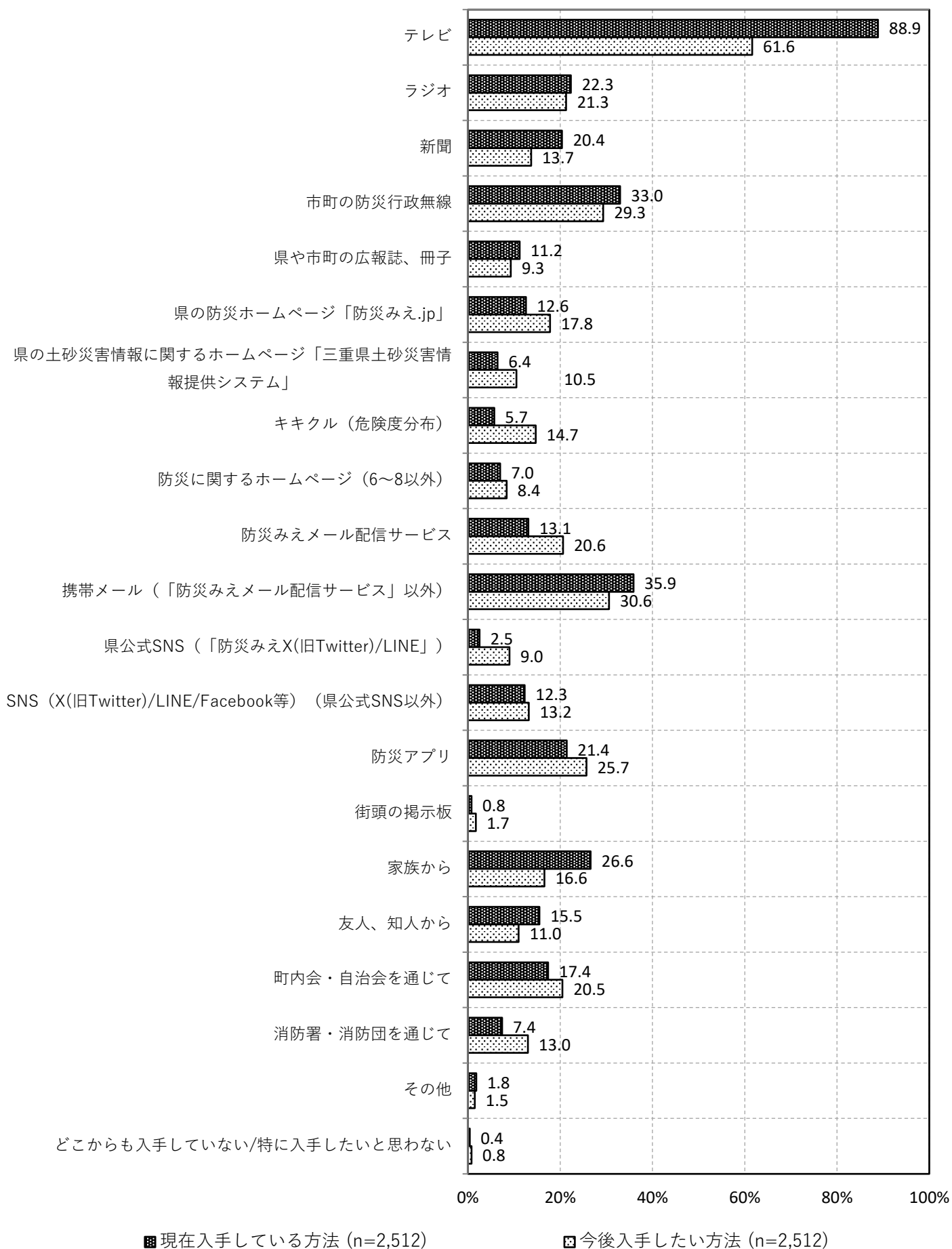
気象や災害についての情報の入手先についてお尋ねします。

【問 11】現在どこから入手することが多いかお答えください。（いくつでも○）

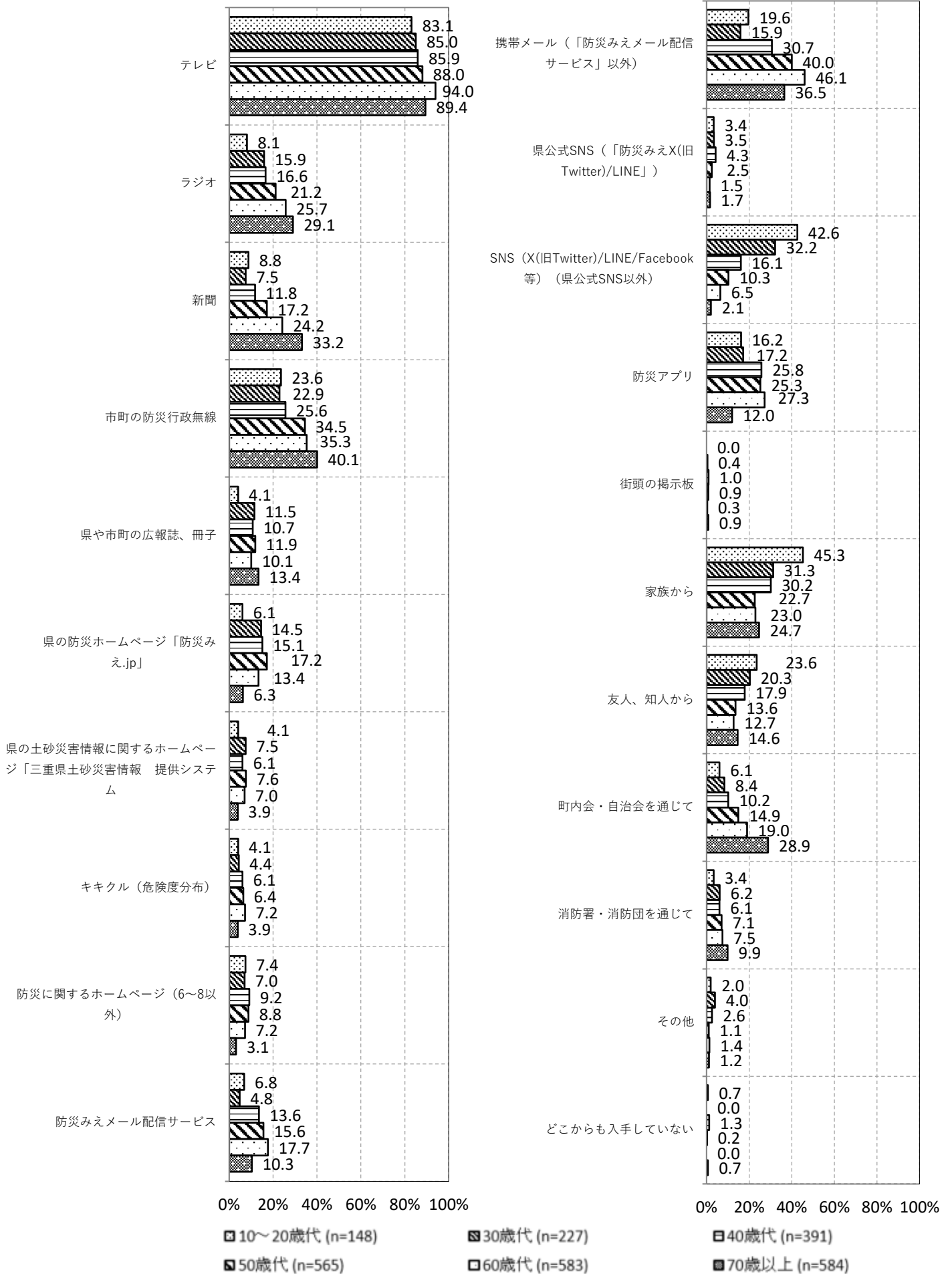
【問 12】今後どこから入手したいかお答えください。（いくつでも○）

1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞
4. 市町の防災行政無線
5. 県や市町の広報誌、冊子
6. 県の防災ホームページ「防災みえ.jp」
7. 県の土砂災害情報に関するホームページ「三重県土砂災害情報提供システム」
8. キキクル（危険度分布）
9. 防災に関するホームページ（6～8 以外）
10. 防災みえメール配信サービス
11. 携帯メール（「防災みえメール配信サービス」以外）
12. 県公式 SNS（「防災みえ X(旧 Twitter)/LINE」）
13. SNS（X(旧 Twitter)/LINE/Facebook 等）（県公式 SNS 以外）
14. 防災アプリ
15. 街頭の掲示板
16. 家族から
17. 友人、知人から
18. 町内会・自治会を通じて
19. 消防署・消防団を通じて
20. その他
21. どこからも入手していない／特に入手したいと思わない

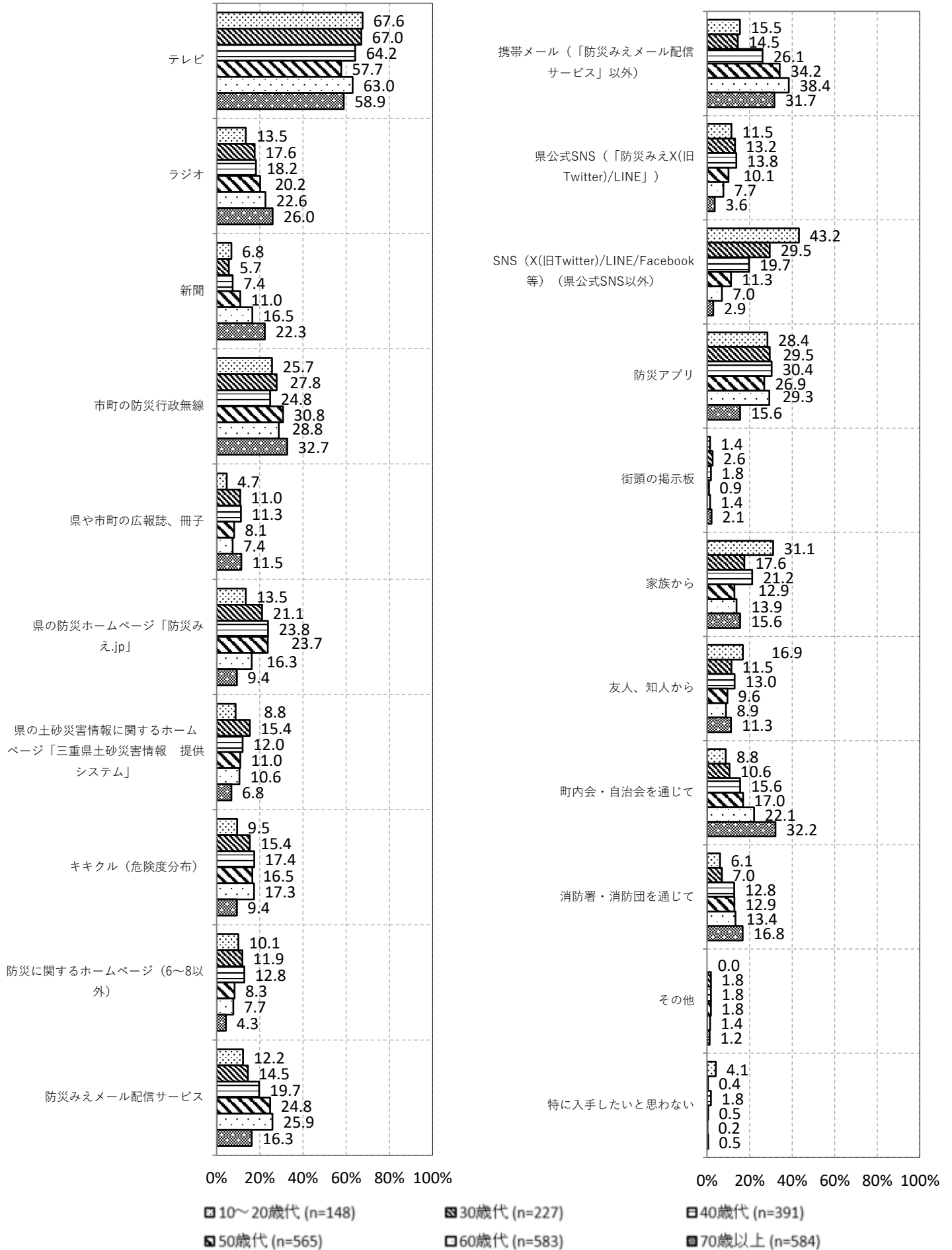
《集計結果》



(1) 年齢別【現在】



(2) 年齢別【今後】



【現在】

- 現在利用している災害時の情報の入手先について、「テレビ」と答えた方の割合が88.9%と最も高く、次いで、「携帯メール（「防災みえメール配信サービス」以外）」が35.9%、「市町の防災行政無線」が33.0%、「家族から」が26.6%、「ラジオ」が22.3%となっています。
- 年齢別に見ると、年齢が高くなるほど「ラジオ」、「新聞」、「市町の防災行政無線」、「携帯メール（防災みえメール配信サービス以外）」、「町内会・自治会を通じて」と答えた方の割合が高い傾向にあります。一方で、年齢が低くなるほど「SNS（県公式 SNS 以外）」、「家族から」、「友人、知人から」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

【今後】

- 今後利用したい災害時の情報の入手先について、「テレビ」と答えた方の割合が61.6%と最も高く、次いで、「携帯メール（「防災みえメール配信サービス」以外）」が30.6%、「市町の防災行政無線」が29.3%、「防災アプリ」が25.7%、「ラジオ」が21.3%となっています。
- 年齢別に見ると、年齢が高くなるほど「ラジオ」、「新聞」、「防災みえメール配信サービス」、「携帯メール（防災みえメール配信サービス以外）」、「町内会・自治会を通じて」、「消防署・消防団を通じて」と答えた方の割合が高い傾向にあります。一方で、年齢が低くなるほど「SNS（県公式 SNS 以外）」、「家族から」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

【現在と今後の比較】

- 現在利用している入手先と今後利用したい入手先を比較すると、現在よりも今後の方が「テレビ」、「新聞」、「家族から」と答えた方の割合が低くなっており、「県の防災ホームページ「防災みえ.jp」」、「キキクル（危険度分布）」、「防災みえメール配信サービス」、「県公式 SNS」、「消防署・消防団を通じて」と答えた方の割合が高くなっています。

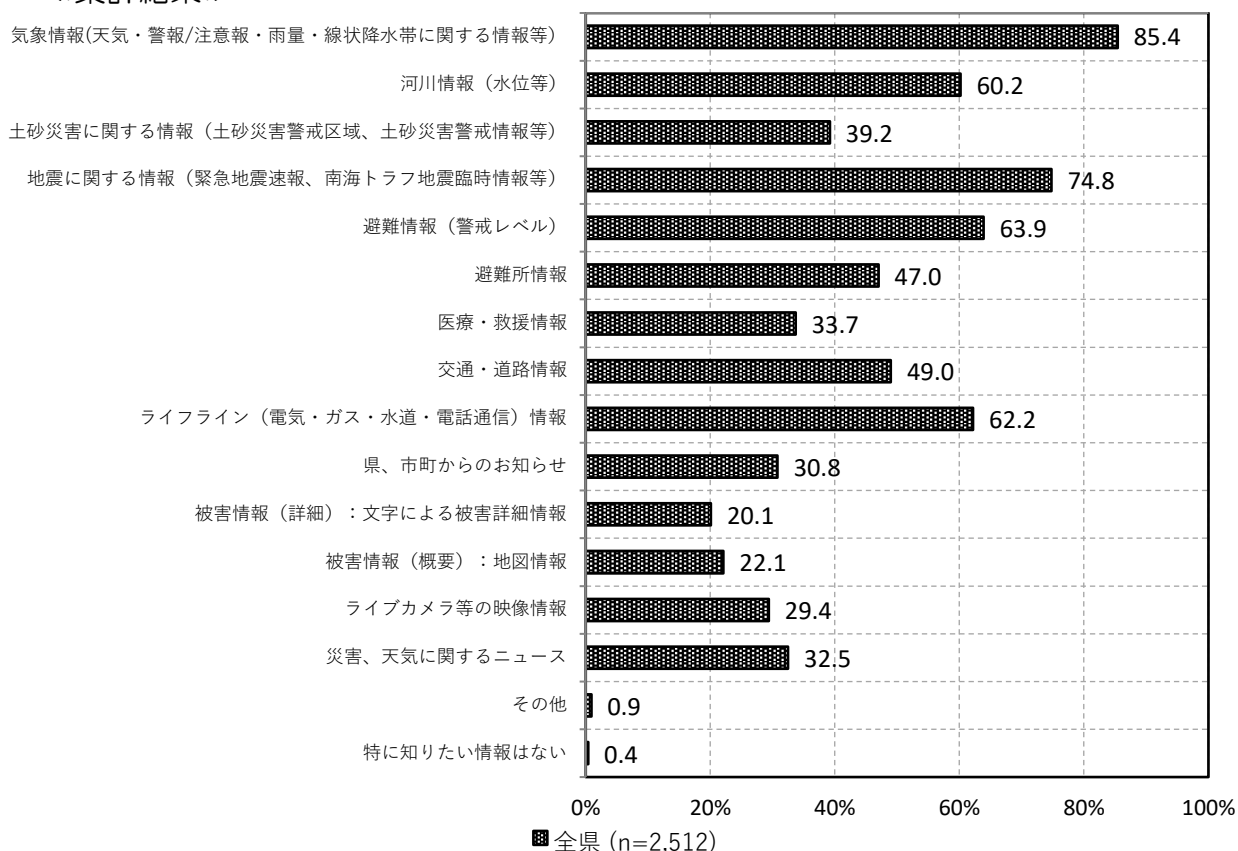
4-3 災害時に知りたい情報（複数回答）

【問 13】 災害発生時やそのおそれがあるときにどのような情報を知りたいですか。

（いくつでも○）

1. 気象情報（天気・警報/注意報・雨量・線状降水帯に関する情報等）
2. 河川情報（水位等）
3. 土砂災害に関する情報（土砂災害警戒区域、土砂災害警戒情報等）
4. 地震に関する情報（緊急地震速報、南海トラフ地震臨時情報等）
5. 避難情報（警戒レベル）
6. 避難所情報
7. 医療・救援情報
8. 交通・道路情報
9. ライフライン（電気・ガス・水道・電話通信）情報
10. 県、市町からのお知らせ
11. 被害情報（詳細）：文字による被害詳細情報
12. 被害情報（概要）：地図情報
13. ライブカメラ等の映像情報
14. 災害、天気に関するニュース
15. その他
16. 特に知りたい情報はない

《集計結果》



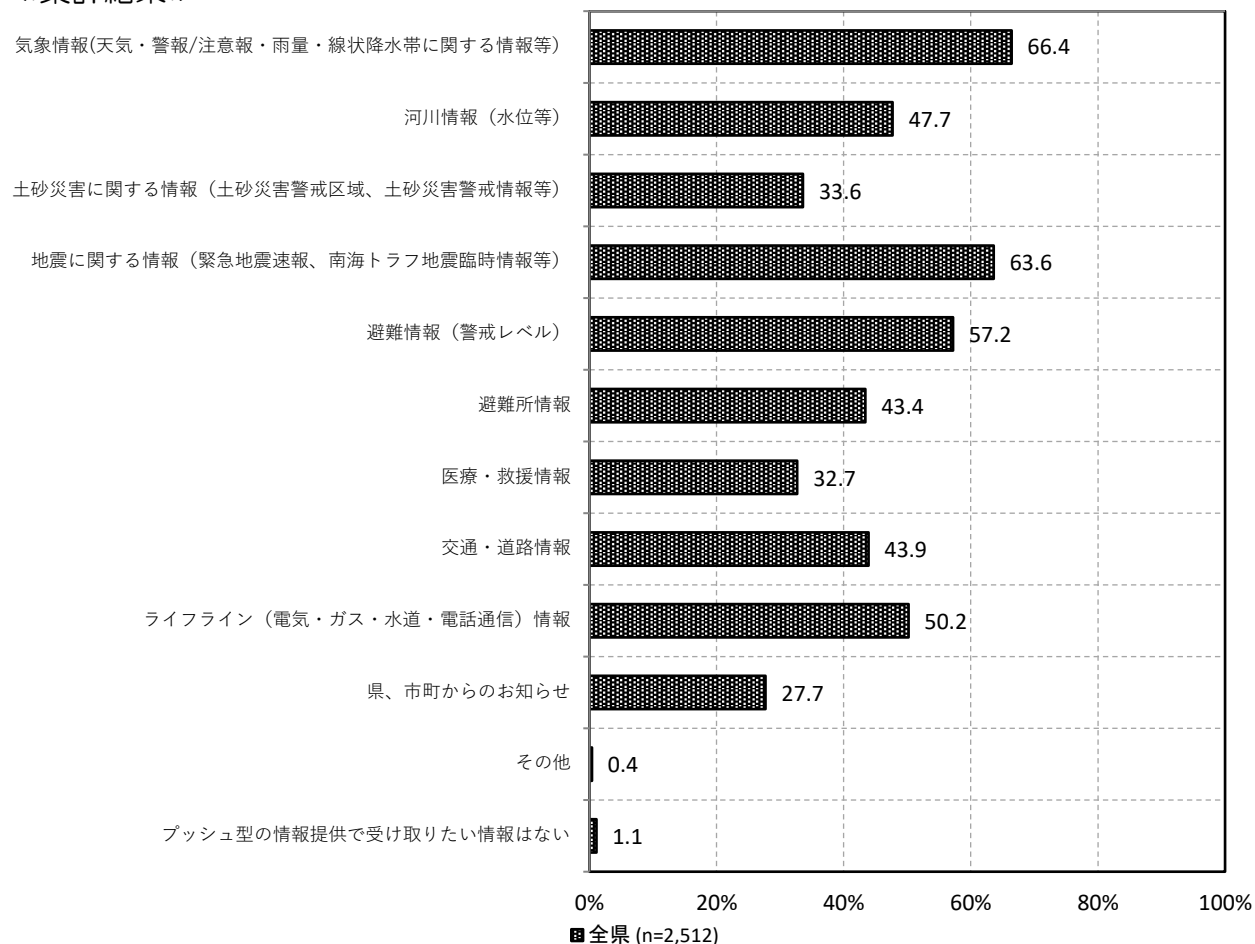
○災害時に知りたい情報について、「気象情報」と答えた方の割合が85.4%と最も高く、次いで、「地震に関する情報」が74.8%、「避難情報（警戒レベル）」が63.9%、「ライフライン情報」が62.2%、「河川情報」が60.2%となっています。

4-4 プッシュ型で受け取りたい情報（複数回答）

【問14】スマートフォン等で通知が受け取れるプッシュ型の情報提供を受ける場合、どのような情報を受け取りたいですか。（いくつでも○）

1. 気象情報(天気・警報/注意報・雨量・線状降水帯に関する情報等)
2. 河川情報（水位等）
3. 土砂災害に関する情報（土砂災害警戒区域、土砂災害警戒情報等）
4. 地震に関する情報（緊急地震速報、南海トラフ地震臨時情報等）
5. 避難情報（警戒レベル）
6. 避難所情報
7. 医療・救援情報
8. 交通・道路情報
9. ライフライン（電気・ガス・水道・電話通信）情報
10. 県、市町からのお知らせ
11. その他
12. プッシュ型の情報提供で受け取りたい情報はない

《集計結果》



○プッシュ型で受け取りたい情報について、「気象情報」と答えた方の割合が66.4%と最も高く、次いで、「地震に関する情報」が63.6%、「避難情報（警戒レベル）」が57.2%、「ライフライン情報」が50.2%、「河川情報」が47.7%となっています。

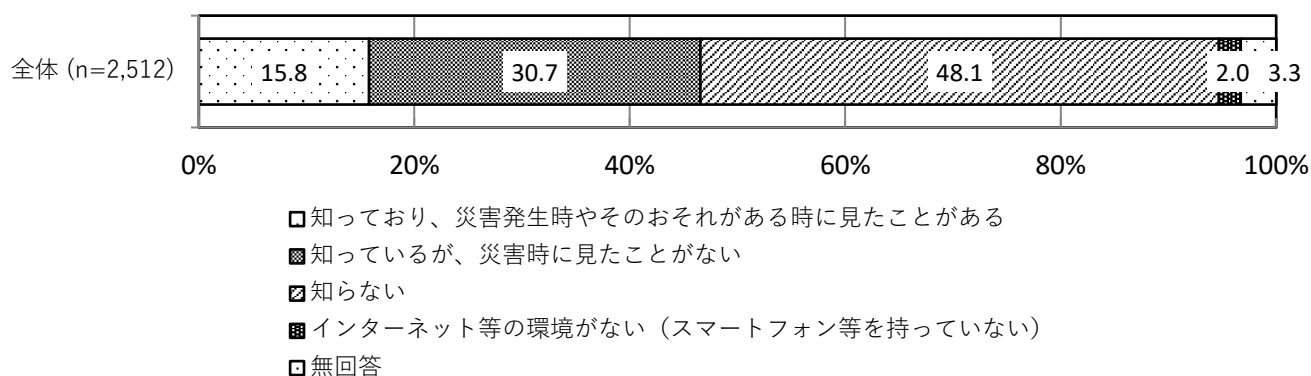
4-5 「防災みえ.jp」の認知度

【問 15-1】県では、気象情報や台風・地震に関する情報、災害時の避難情報等をホームページ「防災みえ.jp」で提供しています。「防災みえ.jp」を知っていますか。

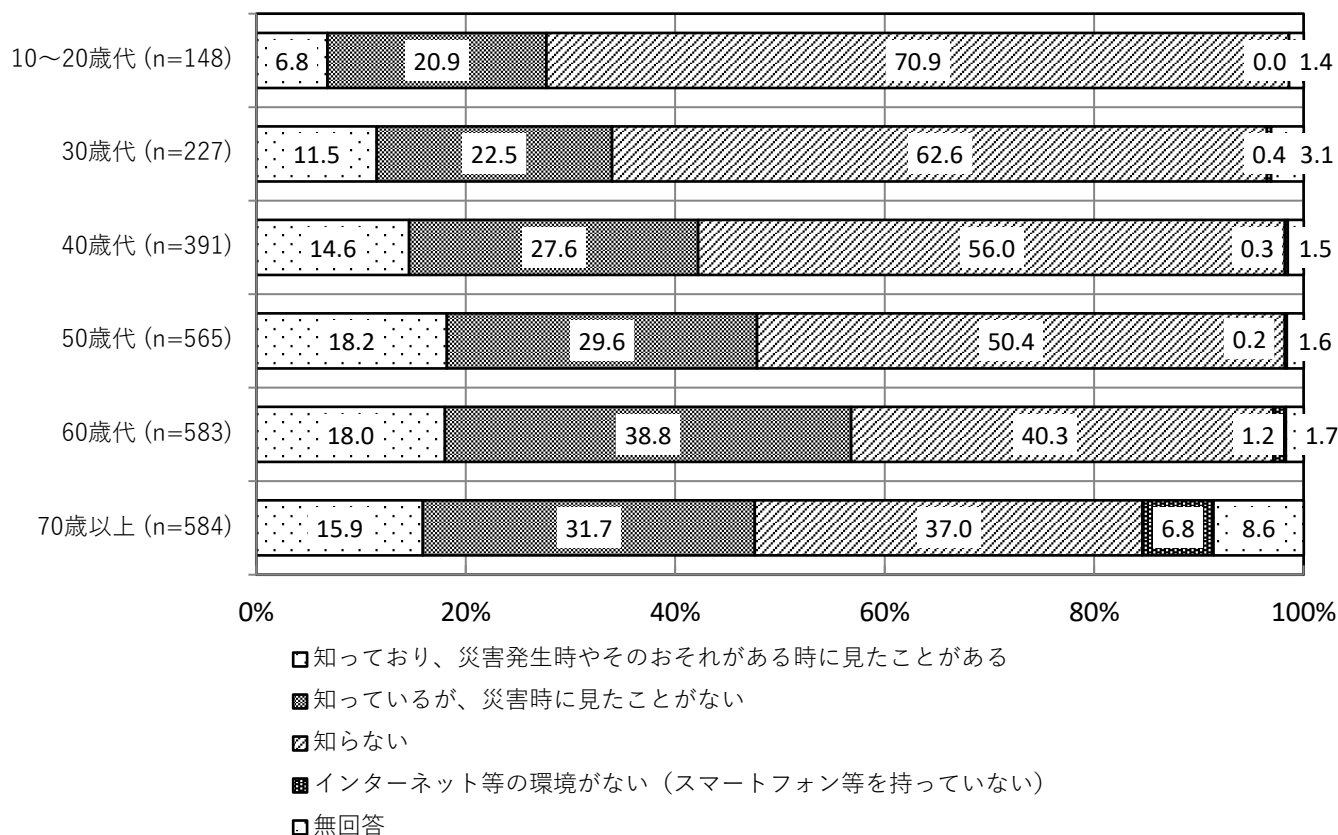
(一つだけ○)

1. 知っており、災害発生時やそのおそれがある時に見たことがある
2. 知っているが、災害時に見たことがない
3. 知らない
4. インターネット等の環境がない（スマートフォン等を持っていない）

《集計結果》



(1) 年齢別



○県ホームページ「防災みえ.jp」について、「知らない」と答えた方の割合が48.1%と最も高く、「知っているが、災害時に見たことがない」が30.7%、「知っており、災害発生時やそのおそれがある時に見たことがある」が15.8%となっています。

○年齢別に見ると、年齢が低くなるほど「知らない」と答えた方の割合が高くなっています。

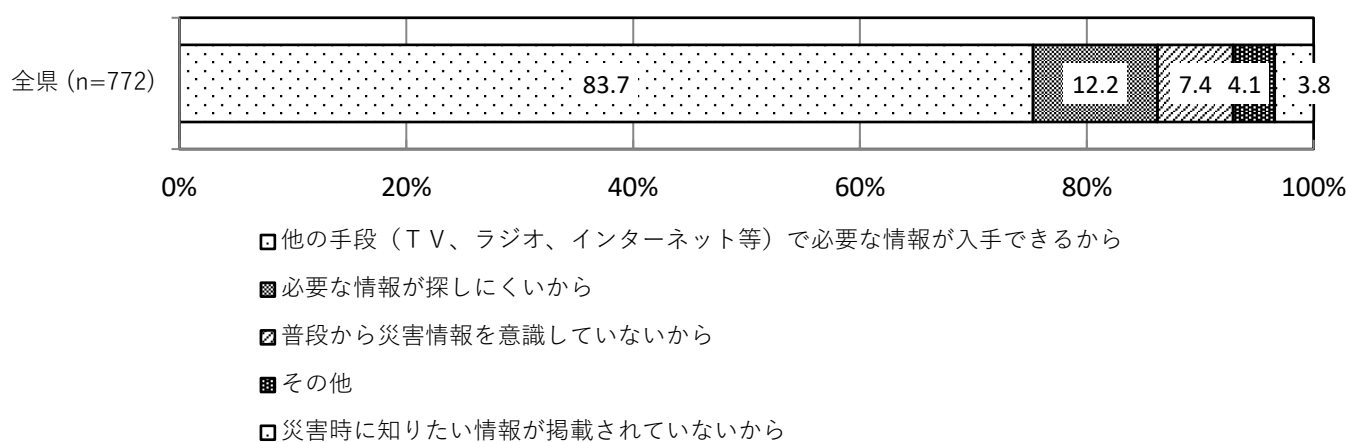
4-6 「防災みえ.jp」を活用しない理由（複数回答）

【問 15-2】 問 15-1 で、「2.知っているが、災害時に見たことがない」と回答された方にお尋ねします。

災害時に「防災みえ.jp」ホームページを活用しない理由をお聞かせください。
（いくつでも○）

1. 他の手段(TV、ラジオ、インターネット等)で必要な情報が入手できるから
2. 災害時に知りたい情報が掲載されていないから
3. 必要な情報が探しにくいから
4. 普段から災害情報を意識していないから
5. その他

《集計結果》



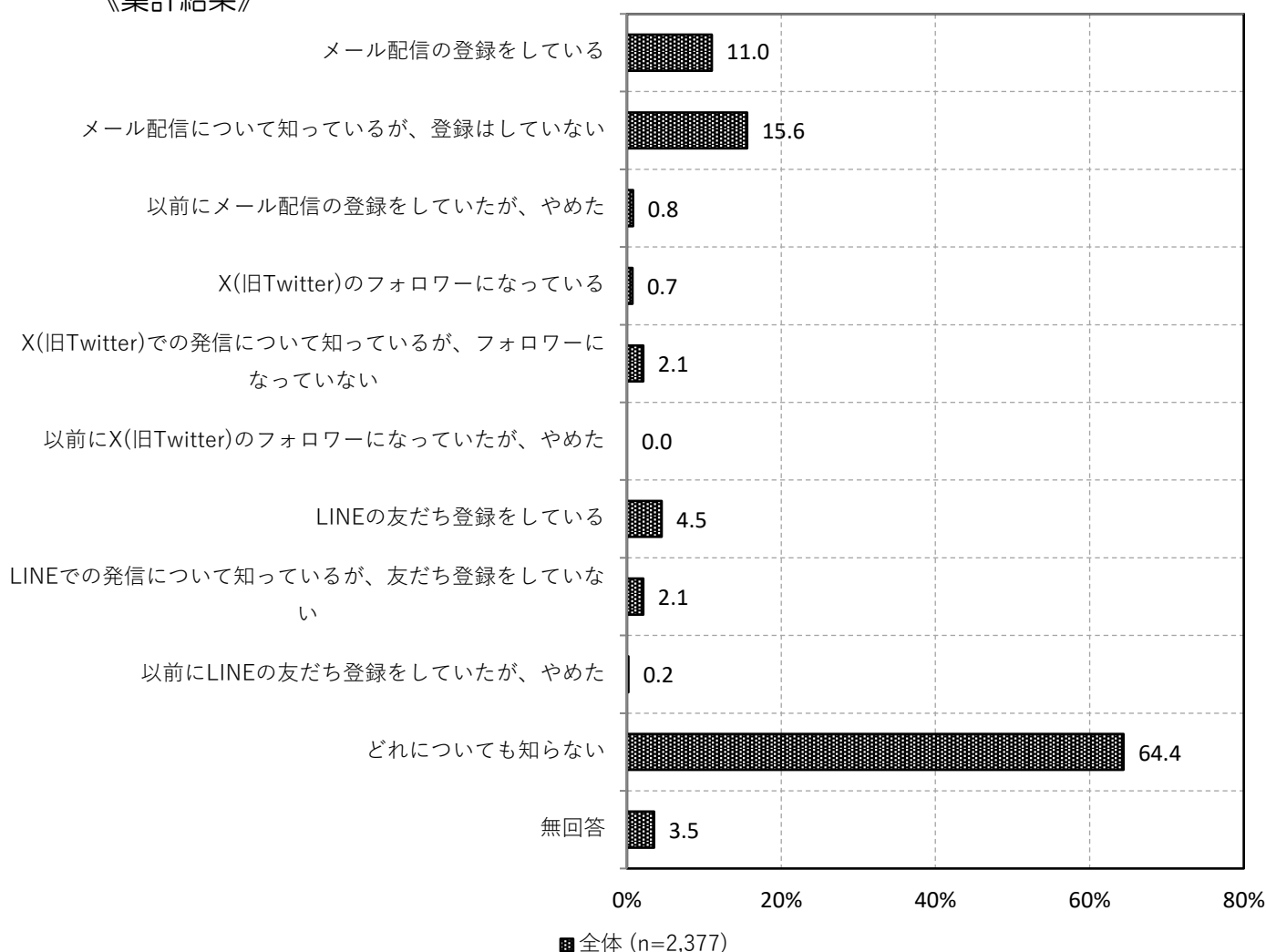
○災害時に「防災みえ.jp」を活用しない理由について、「他の手段(TV、ラジオ、インターネット等)で必要な情報が入手できるから」が83.7%と最も高くなっています。

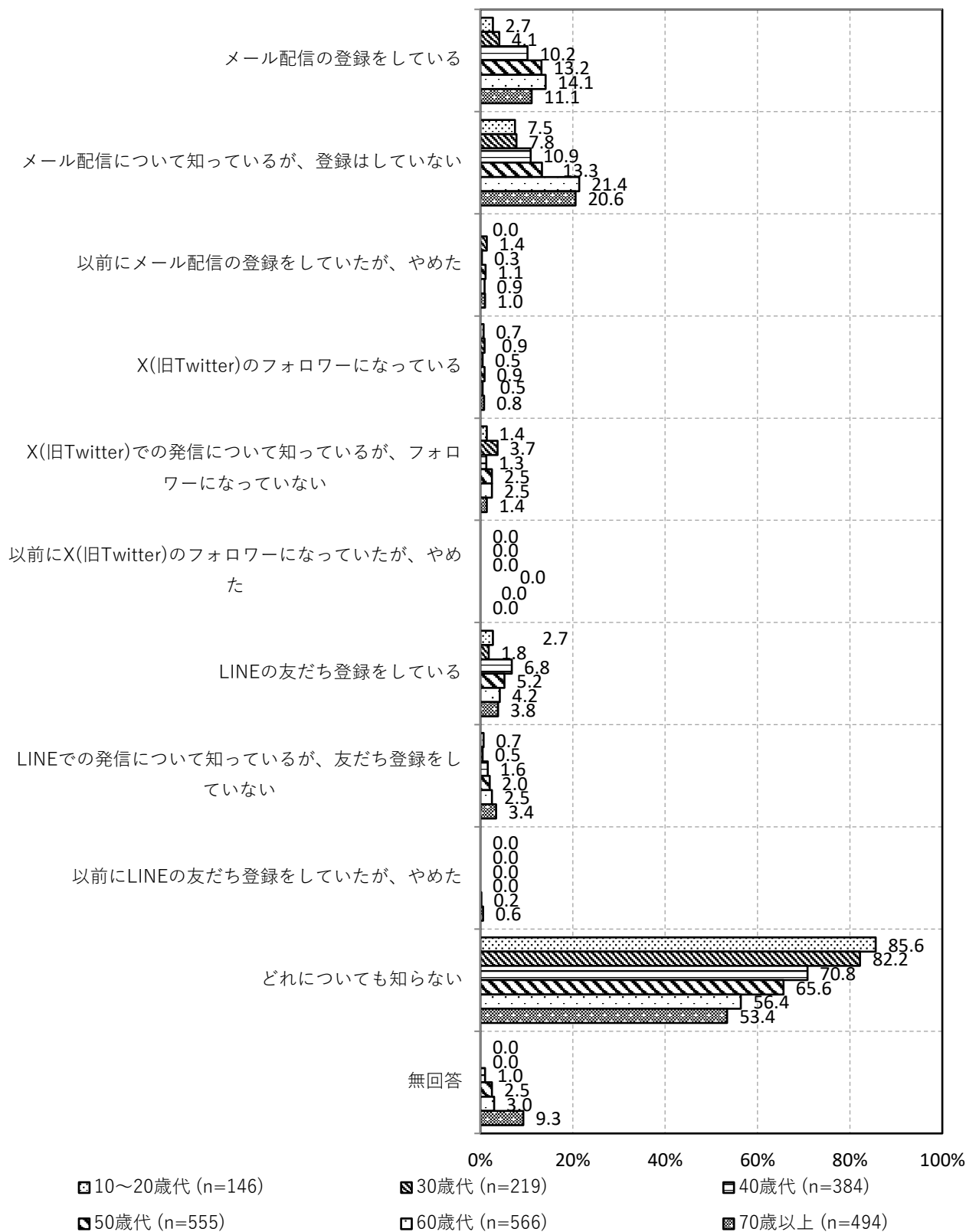
4-7 県の防災情報発信の認知度（複数回答）

【問 16】県では、「防災みえ」のメール配信サービス、X（旧 Twitter）、LINE を活用し、防災情報の発信を行っていますが、このことを知っていますか。（いくつでも○）

1. メール配信の登録をしている
2. メール配信について知っているが、登録はしていない
3. 以前にメール配信の登録をしていたが、やめた
4. X(旧 Twitter)のフォロワーになっている
5. X(旧 Twitter)での発信について知っているが、フォロワーになっていない
6. 以前にX(旧 Twitter)のフォロワーになっていたが、やめた
7. LINE の友だち登録をしている
8. LINE での発信について知っているが、友だち登録をしていない
9. 以前にLINE の友だち登録をしていたが、やめた
10. どれについても知らない

《集計結果》





○「防災みえ」のメール配信サービス、X（旧 Twitter）、LINE について、「どれについても知らない」と答えた方の割合が 64.4%となっている一方で、「メール配信の登録をしている」は 11.0%、「X のフォロワーになっている」は 0.7%、「LINE の友だち登録をしている」は 4.5%となっています。

○年齢別に見ると、年齢が低くなるほど「どれについても知らない」と答えた方の割合が高くなっています。

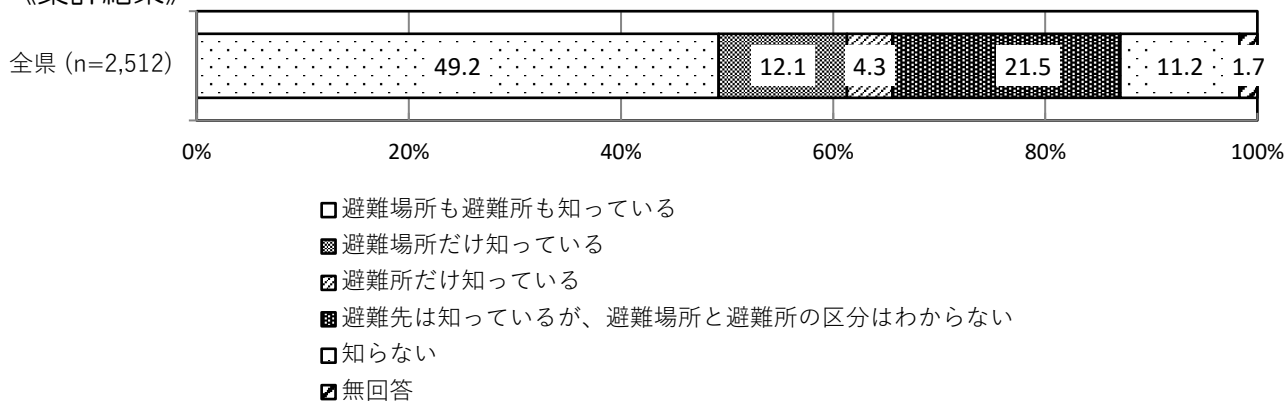
5 避難場所・避難所について

5-1 避難場所や避難所の認知度

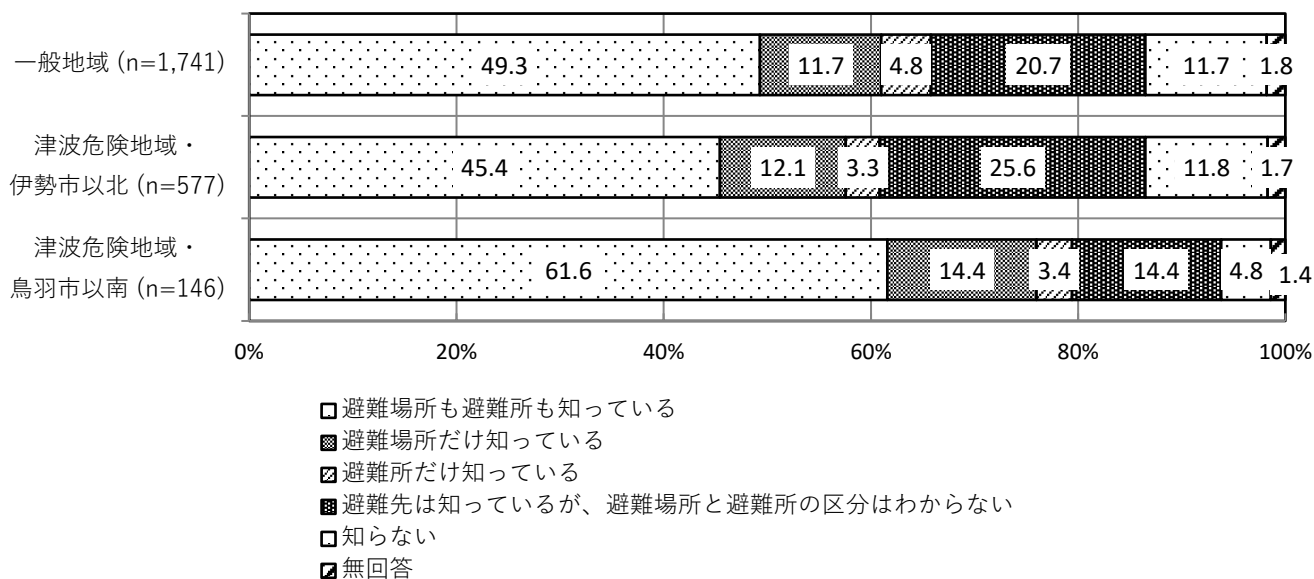
【問 17-1】 自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるか知っていますか。(一つだけ○)

1. 避難場所も避難所も知っている
2. 避難場所だけ知っている
3. 避難所だけ知っている
4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない
5. 知らない

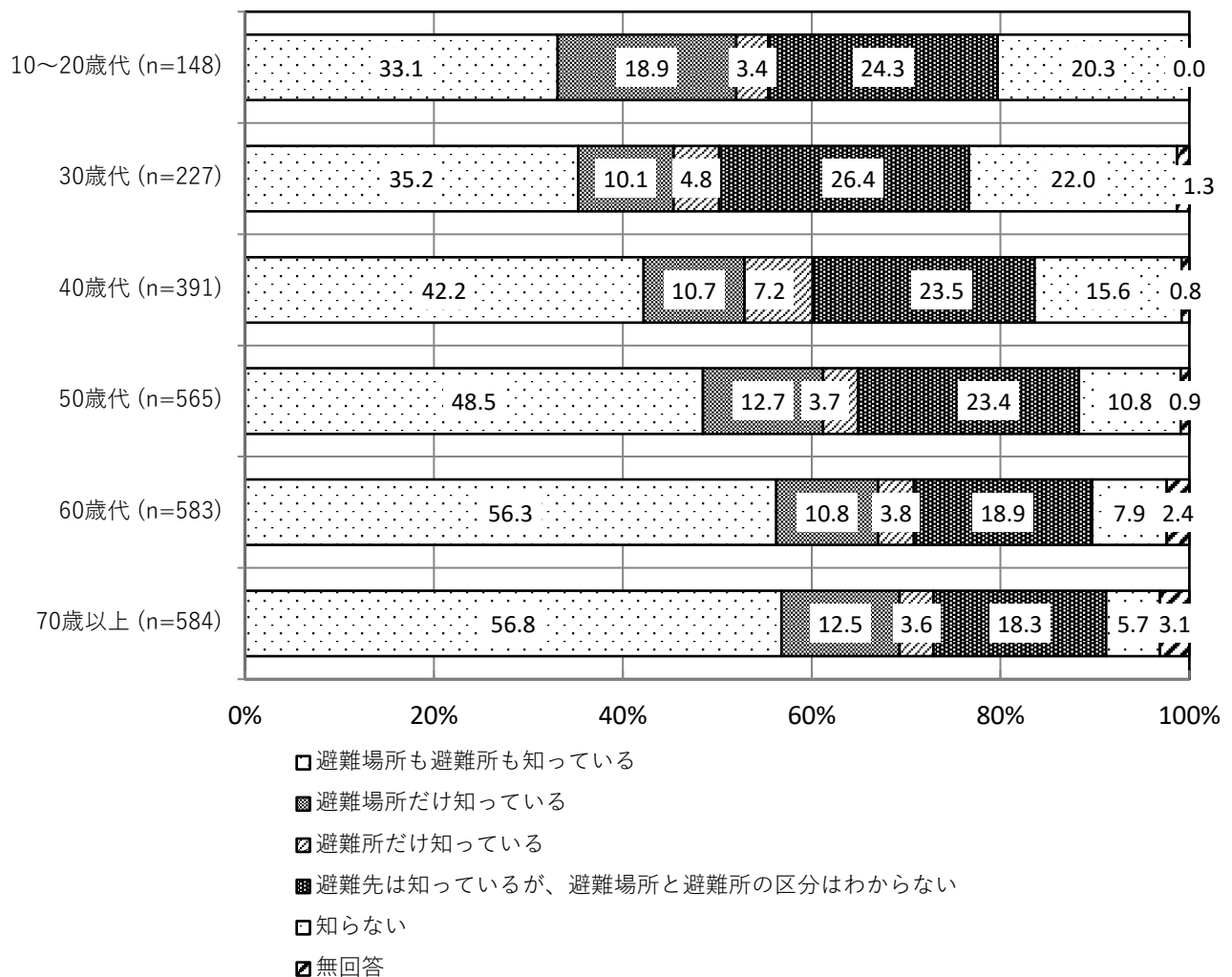
《集計結果》



(1) 地域別



(2) 年齢別



- 自宅付近の避難場所や避難所について、「避難場所も避難所も知っている」と答えた方が49.2%と最も高くなっている一方で、11.2%の方が「知らない」と答えています。
- 地域別に見ると、鳥羽市以南の津波危険地域において、「避難場所も避難所も知っている」と答えた方が61.6%と他の地域と比べて高くなっています。
- 年齢別に見ると、年齢が高くなるほど「避難場所も避難所も知っている」と答えた方の割合が高くなるとともに、「知らない」と答えた方の割合が低くなっています。

5-2 避難場所や避難所を知った経緯（複数回答）

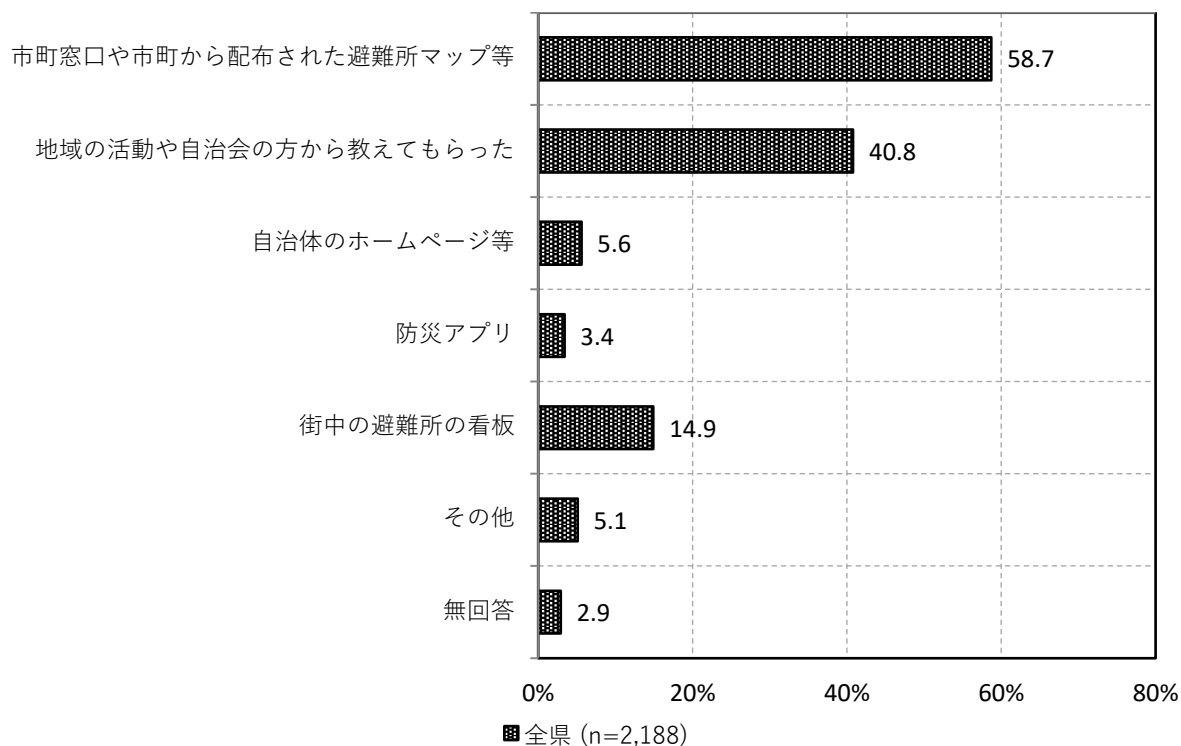
【問 17-2】 問 17-1 で、「1.避難場所も避難所も知っている」、「2.避難場所だけ知っている」、「3.避難所だけ知っている」、「4.避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない」と回答された方にお尋ねします。

自宅付近の避難場所や避難所について、何によって知りましたか。

（いくつでも○）

1. 市町窓口や市町から配布された避難所マップ等
2. 地域の活動や自治会の方から教えてもらった
3. 自治体のホームページ等
4. 防災アプリ
5. 街中の避難所の看板
6. その他

《集計結果》



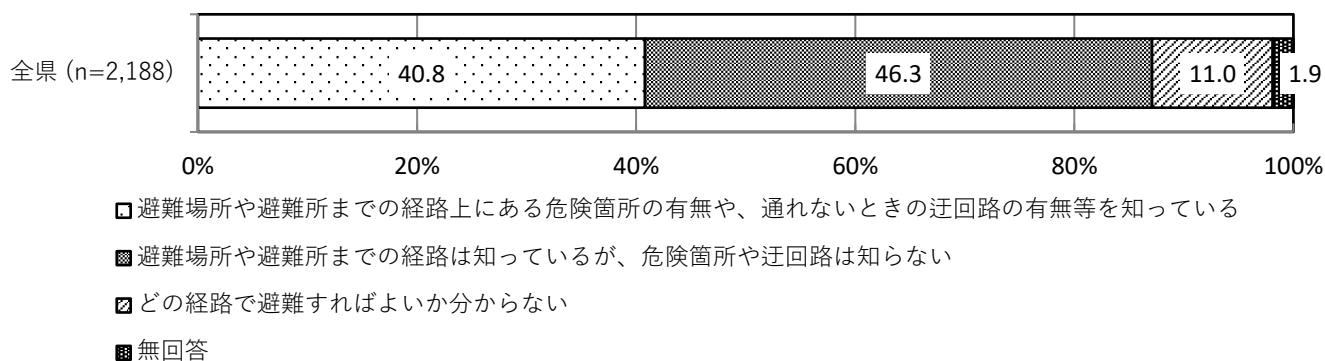
○避難場所や避難所を知った経緯について、「市町窓口や市町から配布された避難所マップ等」と答えた方が58.7%と最も高くなっており、次いで「地域の活動や自治会の方から教えてもらった」が40.8%となっています。

5-3 避難経路の認知度

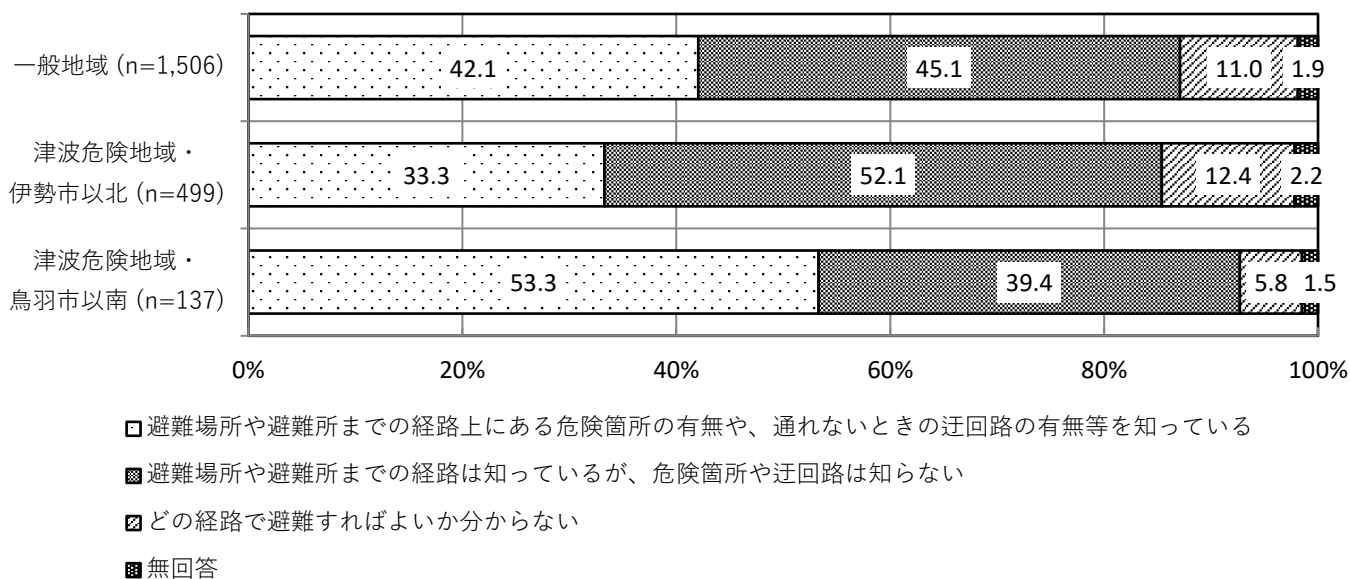
【問 17-3】 自宅付近の避難場所や避難所までの避難経路について、どのくらい知っていますか。(一つだけ○)

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない
3. どの経路で避難すればよいか分からない

《集計結果》



(1) 地域別



○避難場所や避難所までの経路について、知っている（「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている」、「避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない」と答えた方の割合が 87.1% となっています。

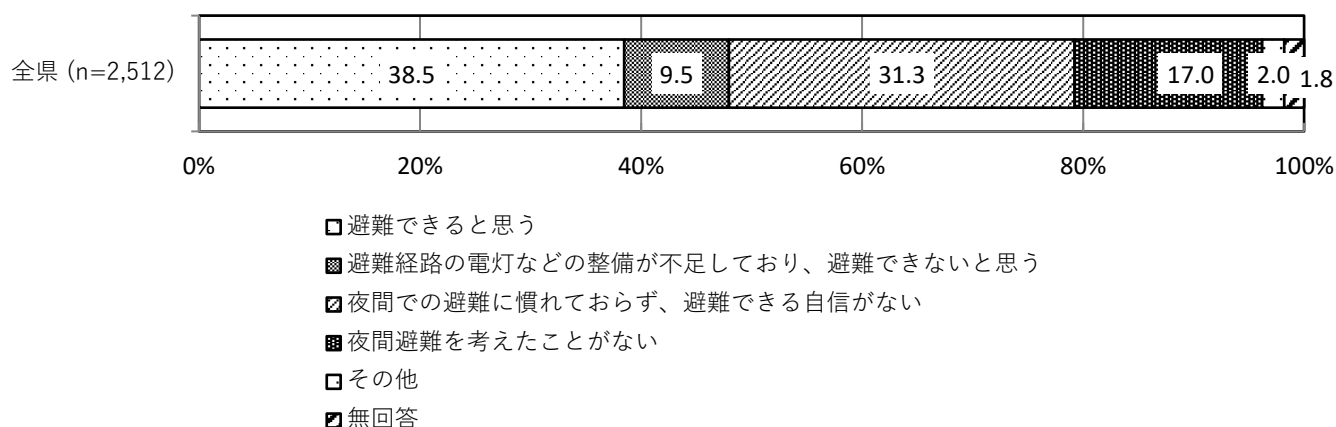
○地域別に見ると、鳥羽市以南の津波危険地域では、知っていると答えた方の割合が 92.7% と他の地域に比べて高くなっており、特に「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている」と答えた方の割合が 53.3% と高くなっていきます。

5-4 夜間など避難が困難な状況での避難

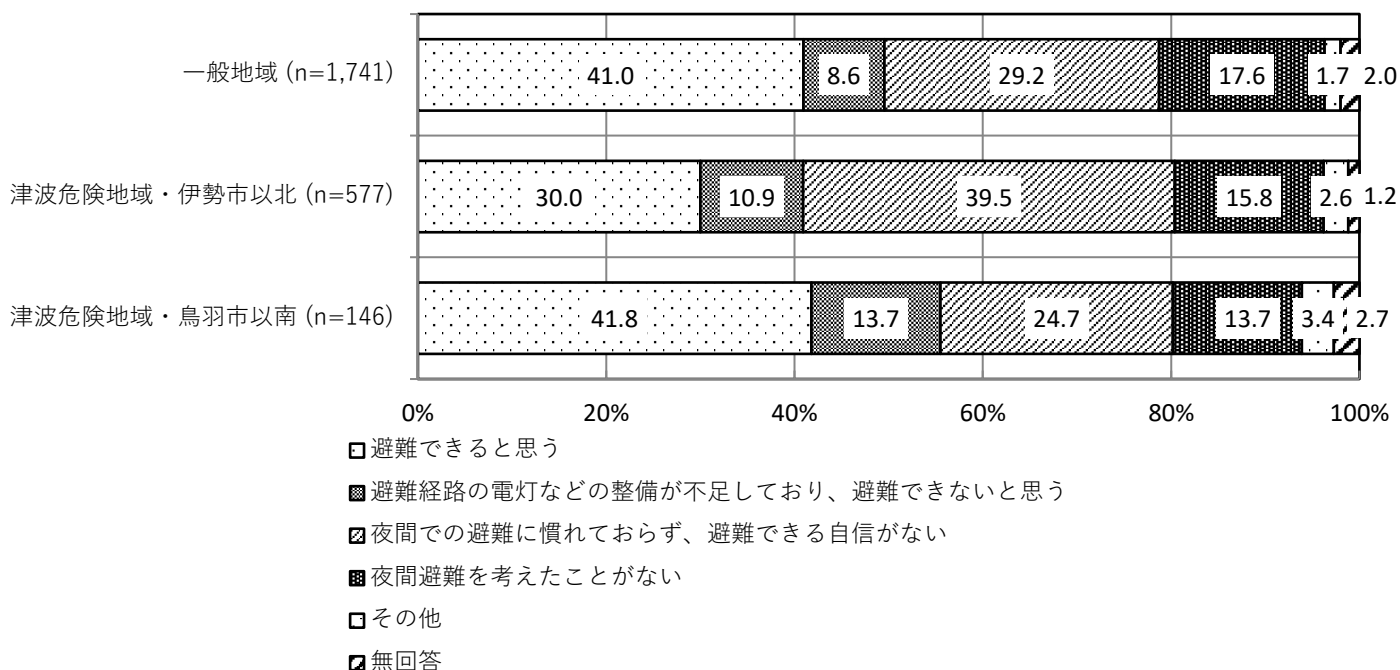
【問 18】夜間など避難が困難な状況で災害が発生した場合においても、円滑に避難できると思いますか。（一つだけ○）

1. 避難できると思う
2. 避難経路の電灯などの整備が不足しており、避難できないと思う
3. 夜間での避難に慣れておらず、避難できる自信がない
4. 夜間避難を考えたことがない
5. その他

《集計結果》



(1) 地域別



○夜間など避難が困難な状況での避難について、「避難できると思う」と答えた方の割合が38.5%と高くなっている一方で、31.3%の方が「夜間での避難に慣れておらず、避難できる自信がない」、17.0%の方が「夜間避難を考えたことがない」と答えています。

○地域別に見ると、伊勢市以北の津波危険地域において「避難できると思う」と答えた方の割合が30.0%と他の地域に比べて低くなっており、「夜間での避難に慣れておらず、避難できる自信がない」と答えた方の割合が39.5%と他の地域に比べて高くなっています。

6 日頃の防災対策について

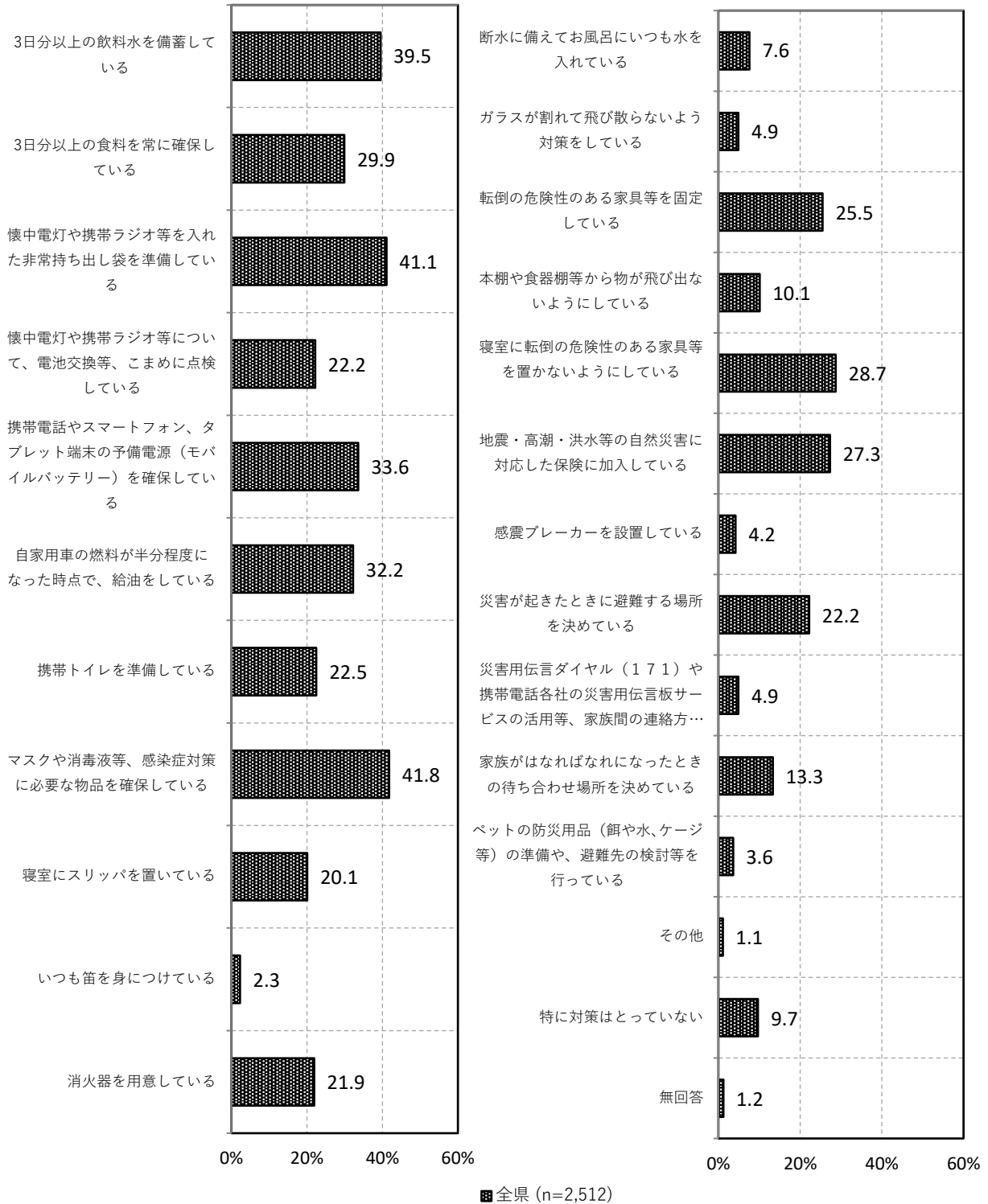
6-1 家庭での防災対策の状況（複数回答）

【問 19】あなたの家では災害に備えて、どのような防災対策を行っていますか。

（いくつでも○）

1. 3日分以上の飲料水を備蓄している（ひとり一日あたり3Lを目安としてください。）
2. 3日分以上の食料を常に確保している
3. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
4. 懐中電灯や携帯ラジオ等について、電池交換等、こまめに点検している
5. 携帯電話やスマートフォン、タブレット端末の予備電源（モバイルバッテリー）を確保している
6. 自家用車の燃料が半分程度になった時点で、給油をしている
7. 携帯トイレを準備している
8. マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している
9. 寝室にスリッパを置いている
10. いつも笛を身につけている
11. 消火器を用意している
12. 断水に備えてお風呂にいつも水を入れている
13. ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている
14. 転倒の危険性のある家具等を固定している
15. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
16. 寝室に転倒の危険性のある家具等を置かないようにしている
17. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
18. 感震ブレーカーを設置している
19. 災害が起きたときに避難する場所を決めている
20. 災害用伝言ダイヤル（171）や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
21. 家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている
22. ペットの防災用品（餌や水、ケージ等）の準備や、避難先の検討等を行っている
23. その他
24. 特に対策はとっていない

《集計結果》

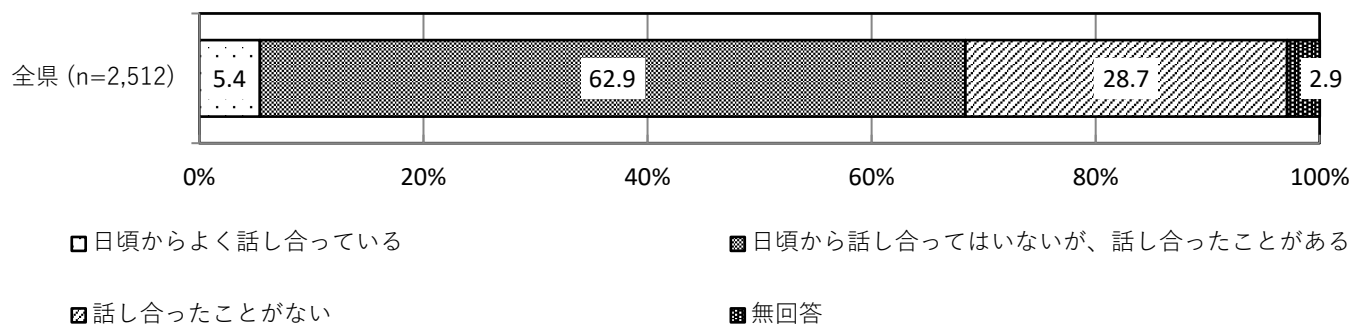


○家庭での防災対策について、「感染症対策に必要な物品を確保している」と答えた方の割合が41.8%と最も高く、次いで、「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」が41.1%、「3日以上の飲料水を備蓄している」が39.5%、「携帯電話やスマートフォン等の予備電源を確保している」が33.6%、「自家用車の燃料が半分程度になった時点で給油をしている」が32.2%となっています。

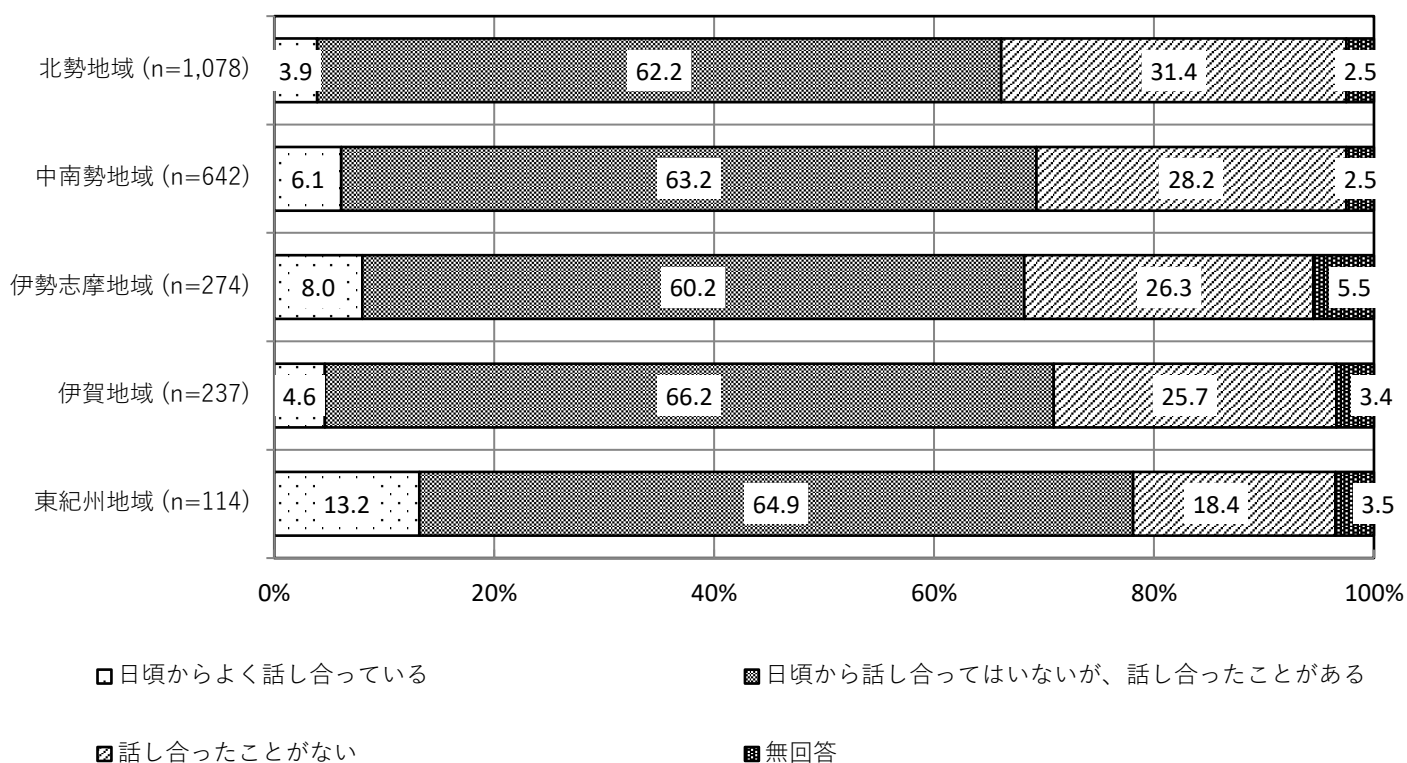
6-2 防災対策についての身近な人との話し合いの状況

- 【問 20】あなたは日頃の防災対策について家族や親戚、知人などの身近な人と話し合っていますか。(一つだけ〇)
1. 日頃からよく話し合っている
 2. 日頃から話し合っていないが、話し合ったことがある
 3. 話し合ったことがない

《集計結果》



(1) 地域別



○日頃の防災対策について、68.3%の方が身近な人と話し合ったことがある（「日頃からよく話し合っている」、「日頃から話し合っていないが、話し合ったことがある」と答えています）、そのうち「日頃からよく話し合っている」と答えた方は5.4%にとどまっています。

○地域別に見ると、東紀州地域において、「日頃からよく話し合っている」と答えた方の割合が13.2%と他の地域に比べて高くなっています。

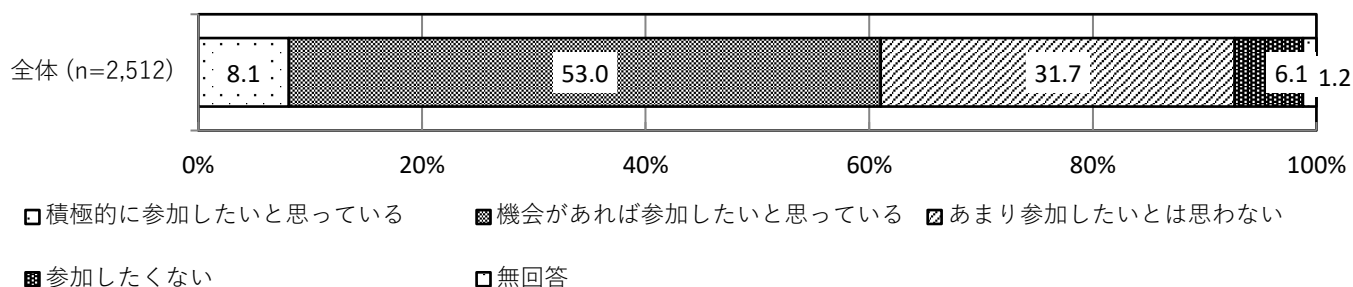
7 地域・職場での防災活動について

7-1 地域の防災活動への参加意識

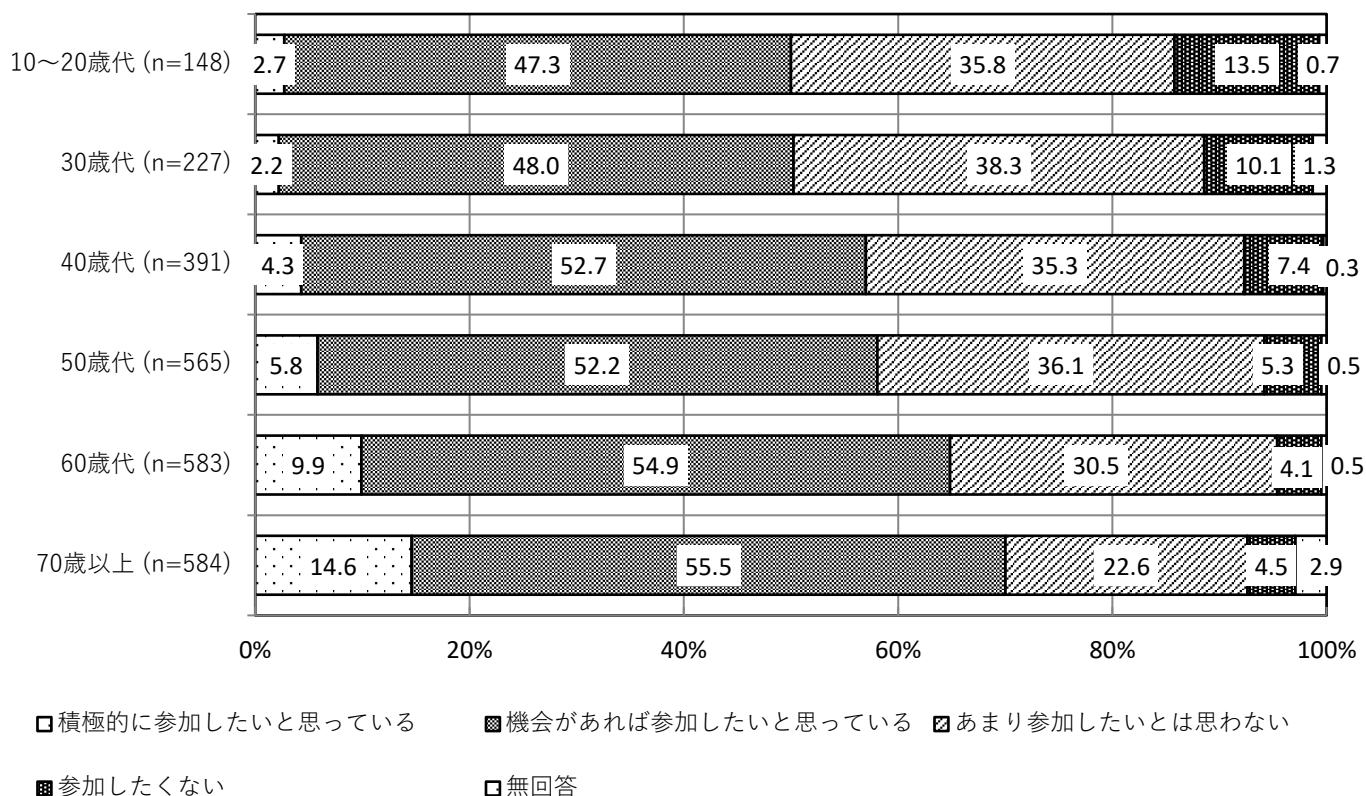
【問 21】地域で実施される防災活動に参加しようと思いますか（一つだけ〇）

1. 積極的に参加したいと思っている
2. 機会があれば参加したいと思っている
3. あまり参加したいとは思わない
4. 参加したくない

《集計結果》



(1) 年齢別



○地域の防災活動への参加意識について、「積極的に参加したいと思っている」、「機会があれば参加したいと思っている」と答えた方の割合が61.1%となっている一方で、36.8%の方が「あまり参加したいとは思わない」、「参加したくない」と答えています。

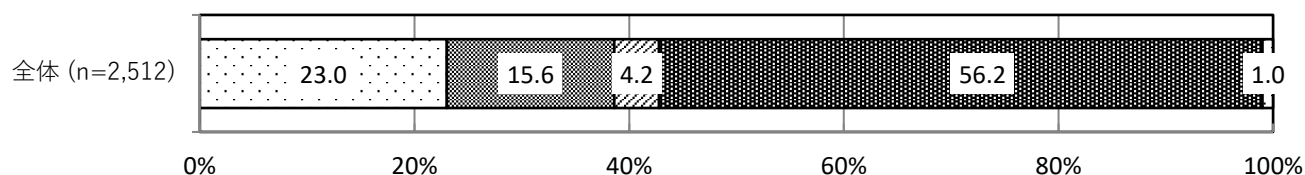
○年齢別に見ると、年齢が低くなるほど「積極的に参加したいと思っている」、「機会があれば参加したいと思っている」と答えた方の割合が低い傾向にあります。

7-2 地域や職場における防災活動への参加状況

【問 22-1】過去1年間に、お住まいの地域や職場での防災活動に参加したことがありますか。(一つだけ○)

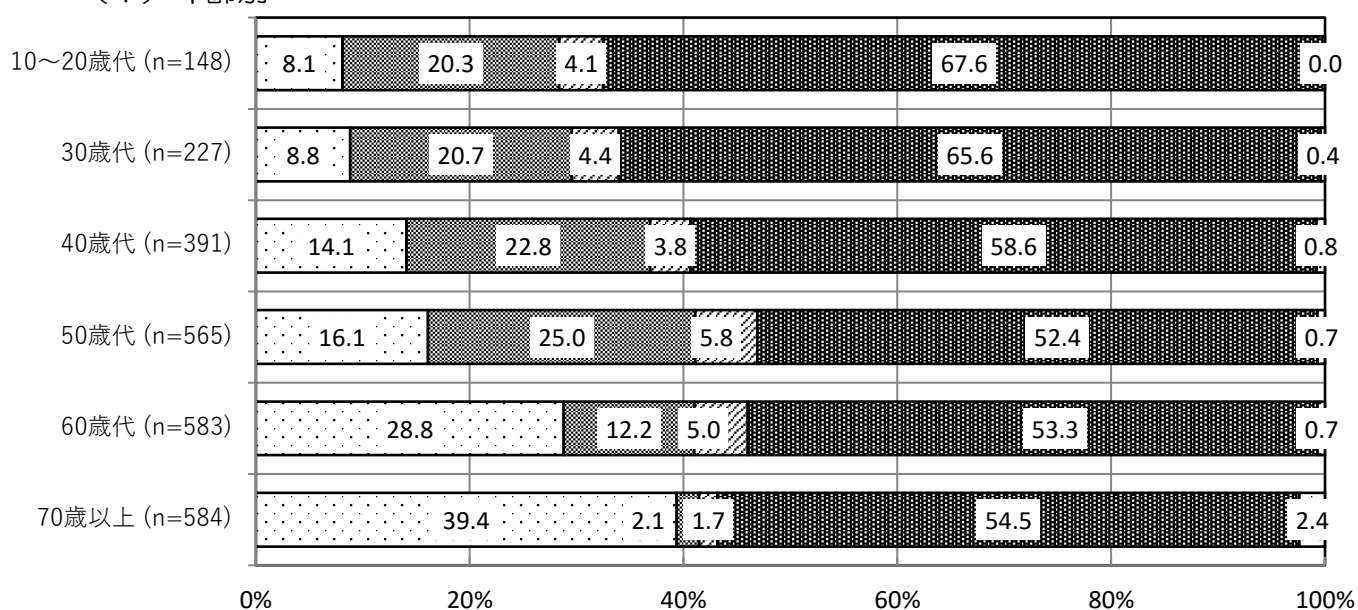
1. 地域の防災活動に参加した
2. 職場の防災活動に参加した
3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した
4. 参加していない

《集計結果》



- 地域の防災活動に参加した
- ▨ 職場の防災活動に参加した
- ▩ 地域と職場、両方の防災活動に参加した
- 参加していない
- 無回答

(1) 年齢別



- 地域の防災活動に参加した
- ▨ 職場の防災活動に参加した
- ▩ 地域と職場、両方の防災活動に参加した
- 参加していない
- 無回答

○地域や職場における防災活動について、「地域の防災活動に参加した」、「職場の防災活動に参加した」、「地域と職場、両方の防災活動に参加した」と答えた方の割合がそれぞれ 23.0%、15.6%、4.2%となっている一方で、「参加していない」と答えた方の割合が 56.2%と最も高くなっています。

○年齢別に見ると、年齢が高くなるほど「地域の防災活動に参加した」と答えた方の割合が高くなっている一方で、10～20歳代、30歳代は他の年齢に比べて「参加していない」と答えた方の割合が高くなっています。

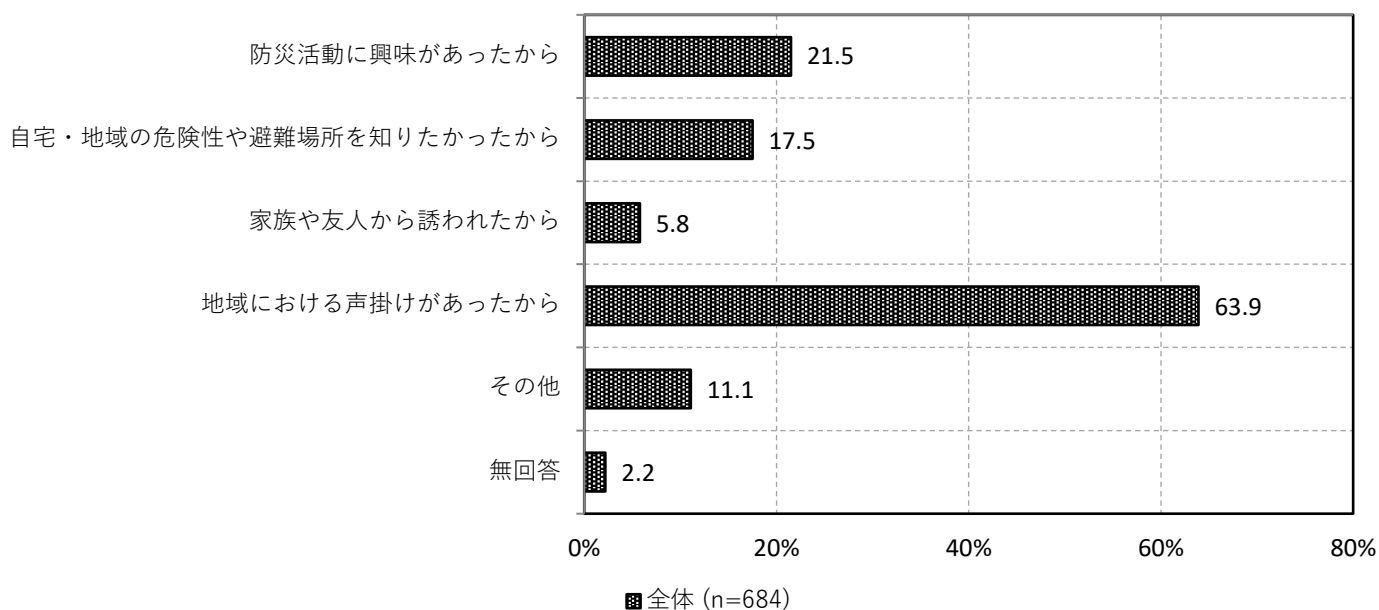
7-3 地域の防災活動に参加したきっかけ（複数回答）

【問 22-2】 問 22-1 で、「1.地域の防災活動に参加した」、「3.地域と職場、両方の防災活動に参加した」と回答された方にお尋ねします。

地域の防災活動に参加したきっかけはなんですか。（いくつでも○）

1. 防災活動に興味があったから
2. 自宅・地域の危険性や避難場所を知りたかったから
3. 家族や友人から誘われたから
4. 地域における声掛けがあったから
5. その他

《集計結果》



○地域の防災活動に参加したきっかけについて、「地域における声掛けがあったから」が 63.9%と最も高く、「防災活動に興味があったから」が 21.5%、「自宅・地域の危険性や避難場所を知りたかったから」が 17.5%となっています。

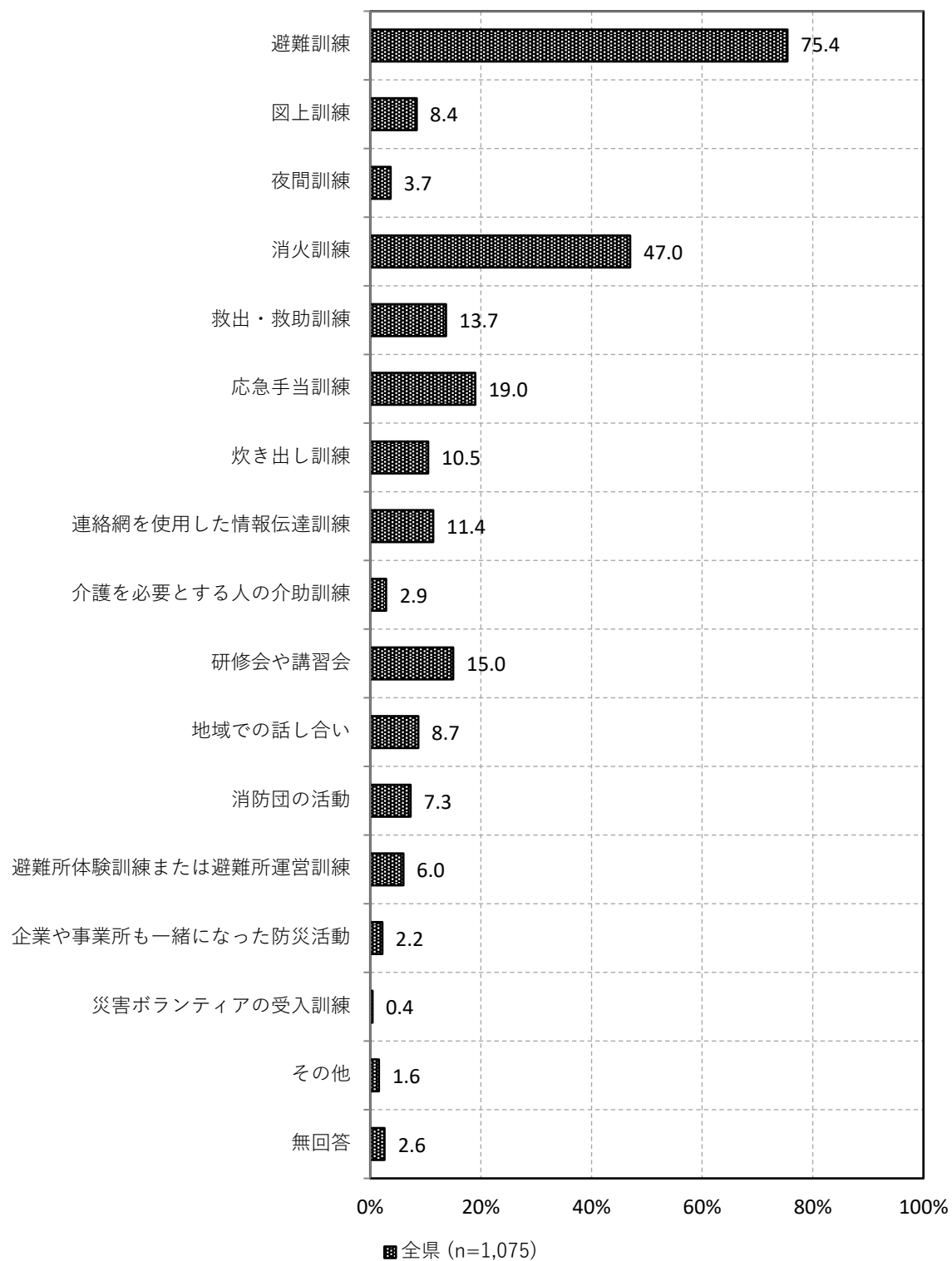
7-4 参加した防災活動の内容（複数回答）

【問 22-3】問 22-1 で、「1.地域の防災活動に参加した」、「2.職場の防災活動に参加した」、「3.地域と職場、両方の防災活動に参加した」と回答された方にお尋ねします。

参加した防災活動は、どのようなものでしたか。（いくつでも○）

1. 避難訓練
2. 図上訓練（災害状況を想定し、机上で対応する形式の訓練）
3. 夜間訓練（夜間に行ったものに限らず、夜間の避難等を想定した訓練等を含む）
4. 消火訓練
5. 救出・救助訓練
6. 応急手当訓練
7. 炊き出し訓練
8. 連絡網を使用した情報伝達訓練
9. 介護を必要とする人の介助訓練
10. 研修会や講習会
11. 地域での話し合い
12. 消防団の活動
13. 避難所体験訓練または避難所運営訓練
14. 企業や事業所も一緒になった防災活動
15. 災害ボランティアの受入訓練
16. その他

《集計結果》



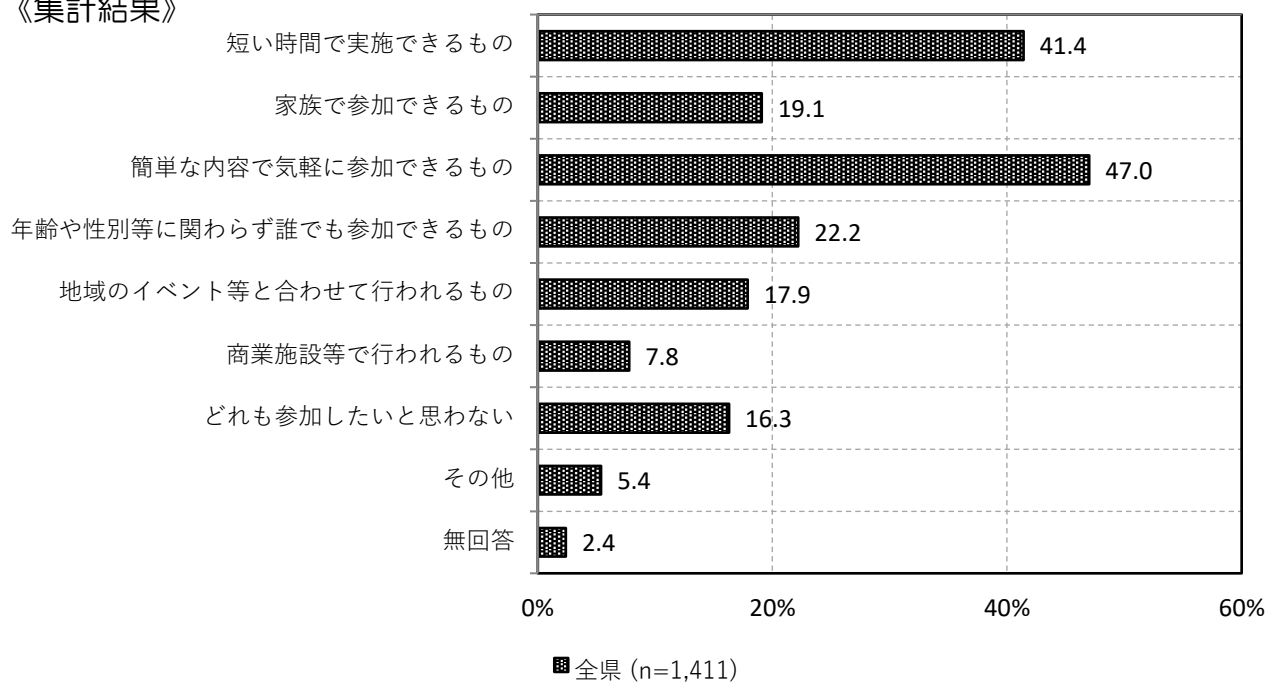
○参加した防災活動の内容について、「避難訓練」と答えた方の割合が75.4%と最も高く、次いで「消火訓練」が47.0%となっています。

7-5 参加したい防災活動（複数回答）

【問 22-4】 問 22-1 で、「4.参加していない」と回答された方にお尋ねします。
 どのような防災活動であれば参加したいと思いますか。（いくつでも〇）

1. 短い時間で実施できるもの
2. 家族で参加できるもの
3. 簡単な内容で気軽に参加できるもの
4. 年齢や性別等に関わらず誰でも参加できるもの
5. 地域のイベント等と合わせて行われるもの
6. 商業施設等で行われるもの
7. どれも参加したいと思わない
8. その他

《集計結果》



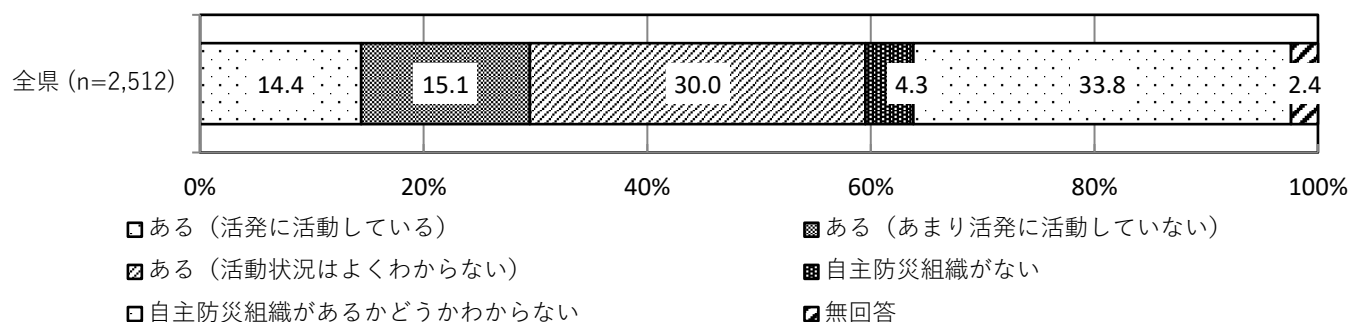
○問 22-1 で地域や職場の防災活動に「参加していない」と答えた方が、参加したいと思う防災活動について、「簡単な内容で気軽に参加できるもの」の割合が 47.0%と最も高く、次いで「短い時間で実施できるもの」が 41.4%となっています。

7-6 お住まいの地域の自主防災組織の認知度と活動状況

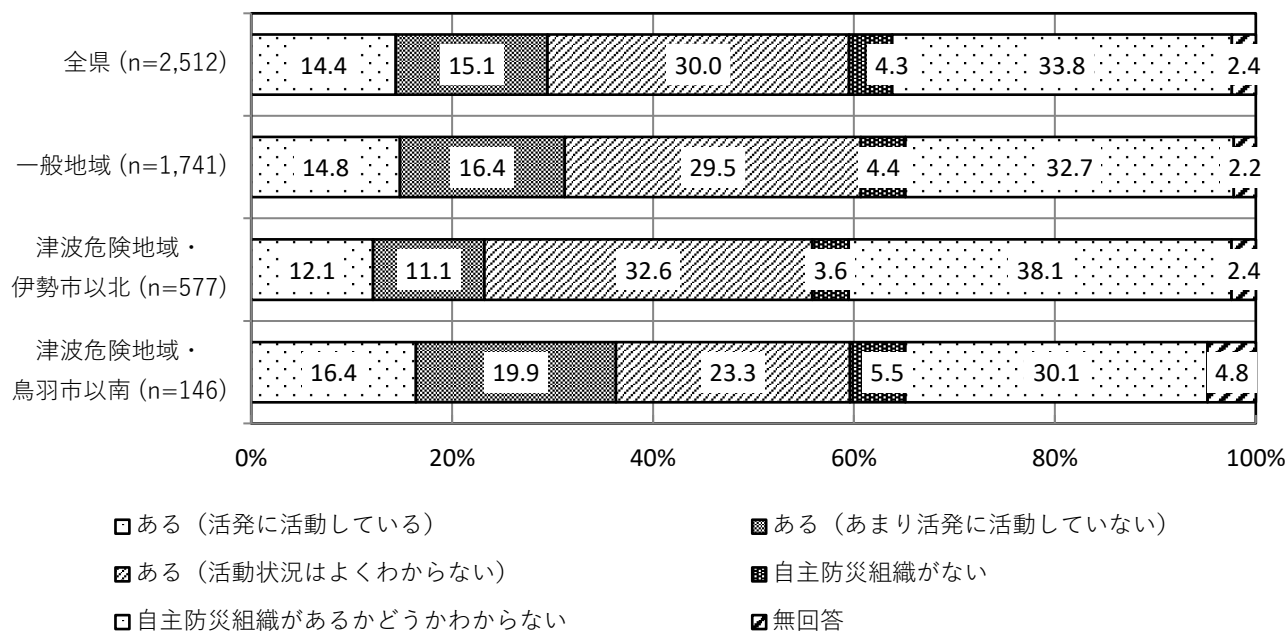
【問 23】あなたのお住まいの地域は、自主防災組織（町内会・自治会等を母体とした地域の住民が防災活動をする組織）がありますか。また、活動状況はどうかですか。
（一つだけ〇）

1. ある（活発に活動している）
2. ある（あまり活発に活動していない）
3. ある（活動状況はよくわからない）
4. 自主防災組織がない
5. 自主防災組織があるかどうかわからない

《集計結果》



（1）地域別



○住んでいる地域における自主防災組織について、「自主防災組織があるかどうかわからない」と答えた方の割合が33.8%と最も高く、「ある（活動状況はよくわからない）」が30.0%となっています。

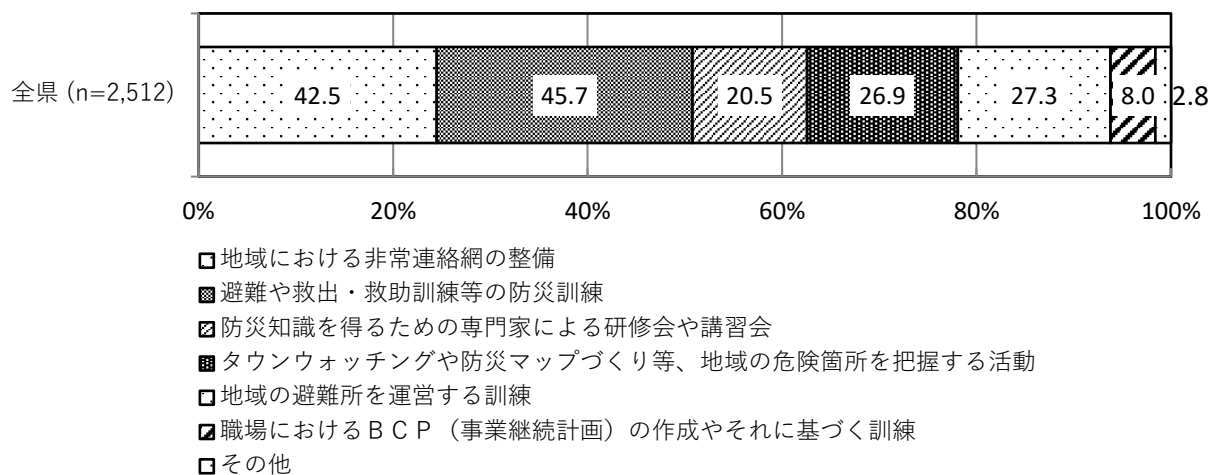
○地域別に見ると伊勢市以北の津波危険地域において、自主防災組織の活動状況を把握している（「ある（活発に活動している）」、「ある（あまり活発に活動していない）」）と答えた方の割合が他の地域に比べて低くなっています。

7-7 地域や職場で必要だと思う防災活動（複数回答）

【問 24】 どのような防災活動が地域や職場で実施されることが必要だと思いますか。
（いくつでも○）

1. 地域における非常連絡網の整備
2. 避難や救出・救助訓練等の防災訓練
3. 防災知識を得るための専門家による研修会や講習会
4. タウンウォッチングや防災マップづくり等、地域の危険箇所を把握する活動
5. 地域の避難所を運営する訓練
6. 職場におけるBCP（事業継続計画）の作成やそれに基づく訓練
7. その他

《集計結果》



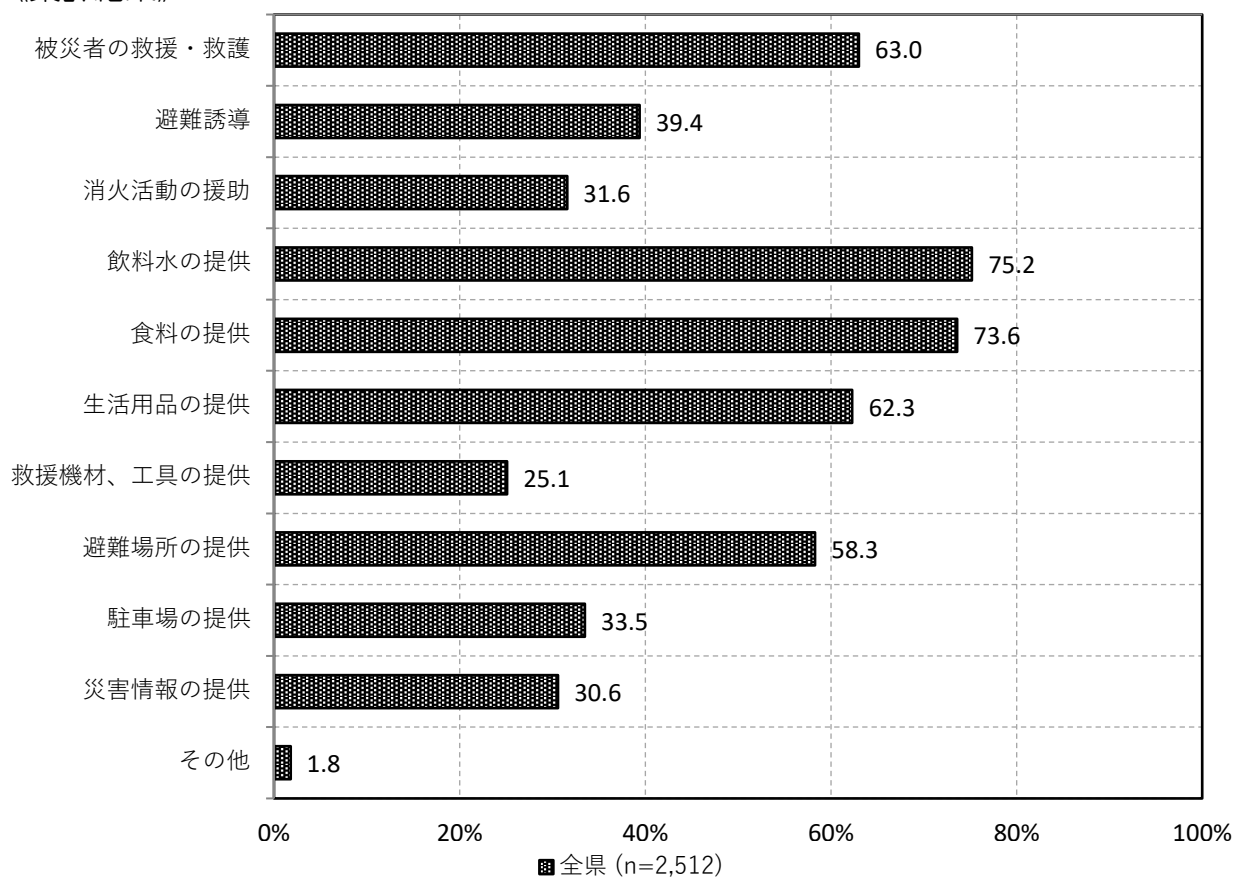
○地域や職場で必要だと思う防災活動について、「避難や救出・救助訓練等の防災訓練」と答えた方の割合が45.7%と最も高く、次いで「地域における非常連絡網の整備」が42.5%、「地域の避難所を運営する訓練」が27.3%となっています。

7-8 企業・事業所に期待すること（複数回答）

【問 25】地域の防災活動や防災対策について、地域の企業・事業所に期待することは何ですか。（いくつでも○）

1. 被災者の救援・救護
2. 避難誘導
3. 消火活動の援助
4. 飲料水の提供
5. 食料の提供
6. 生活用品の提供
7. 救援機材、工具の提供
8. 避難場所の提供
9. 駐車場の提供
10. 災害情報の提供
11. その他

《集計結果》



○企業・事業所に期待することについて、「飲料水の提供」と答えた方の割合が75.2%と最も高く、次いで「食料の提供」が73.6%、「被災者の救援・救護」が63.0%、「生活用品の提供」が62.3%、「避難場所の提供」が58.3%となっています。

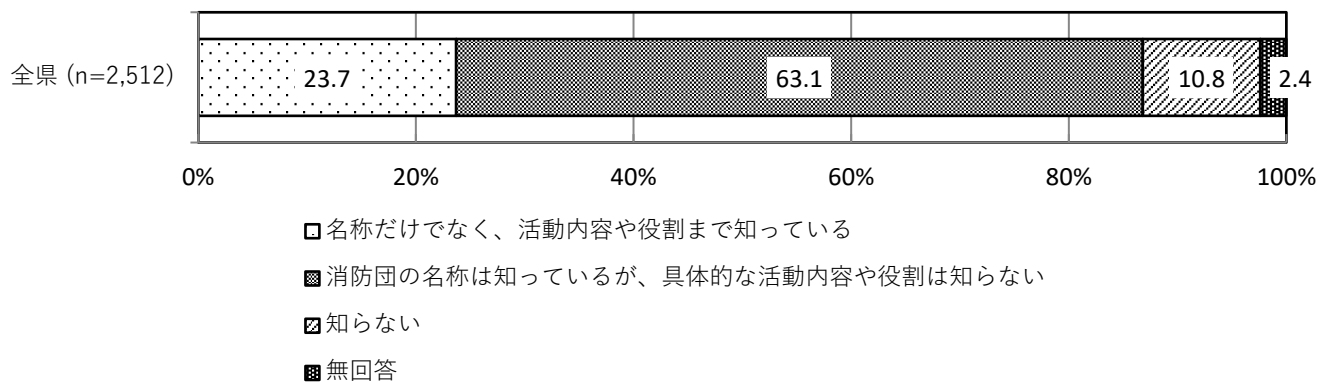
8 消防団について

8-1 消防団の認知度

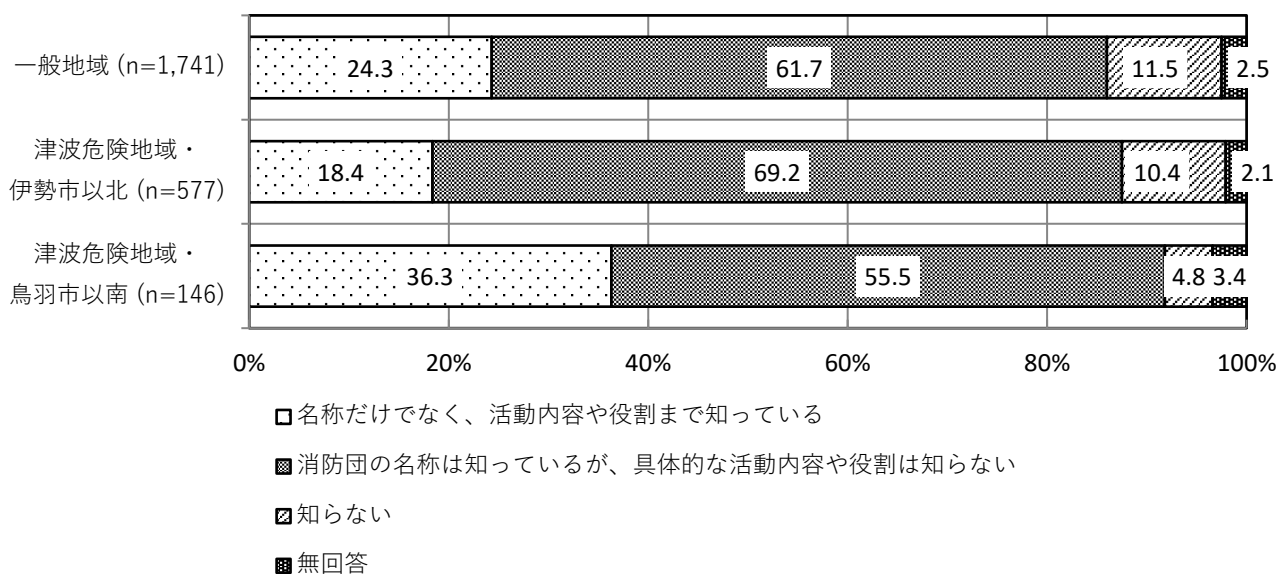
【問 26】 消防団について知っていますか。(一つだけ〇)

1. 名称だけでなく、活動内容や役割まで知っている
2. 消防団の名称は知っているが、具体的な活動内容や役割は知らない
3. 知らない

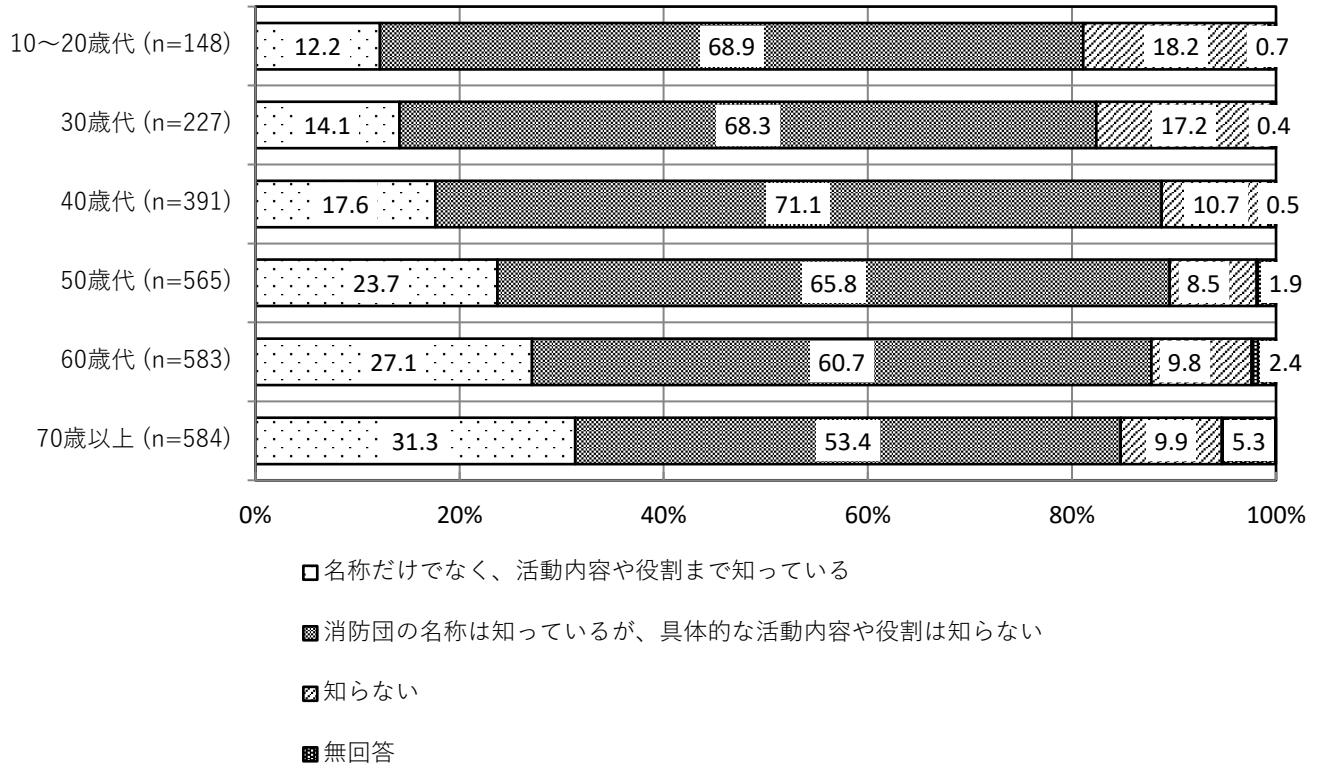
《集計結果》



(1) 地域別



(2) 年齢別



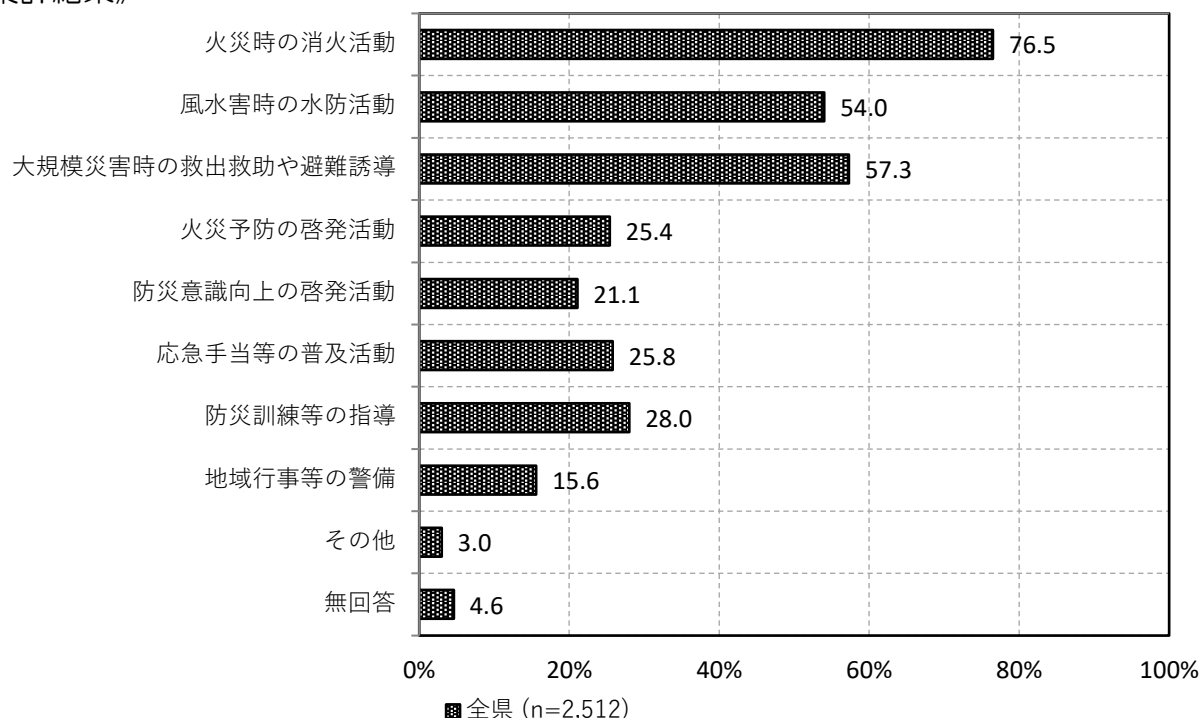
- 消防団について86.8%の方が知っている（選択肢1,2）と回答し、23.7%の方は「名称だけでなく、活動内容や役割まで知っている」と回答しています。
- 地域別に見ると、鳥羽市以南の津波危険地域において「名称だけでなく、活動内容や役割まで知っている」と答えた方の割合が36.3%と他の地域に比べて高くなっています。
- 年齢別に見ると、年齢が高くなるほど「名称だけでなく、活動内容や役割まで知っている」と答えた方の割合が高くなっています。

8-2 消防団に期待する活動（複数回答）

【問 27】 消防団は地域防災におけるさまざまな活動を行っていますが、お住まいの地域の消防団に期待する活動はどのようなものですか。（いくつでも○）

1. 火災時の消火活動
2. 風水害時の水防活動
3. 大規模災害時の救出救助や避難誘導
4. 火災予防の啓発活動
5. 防災意識向上の啓発活動
6. 応急手当等の普及活動
7. 防災訓練等の指導
8. 地域行事等の警備
9. その他

《集計結果》



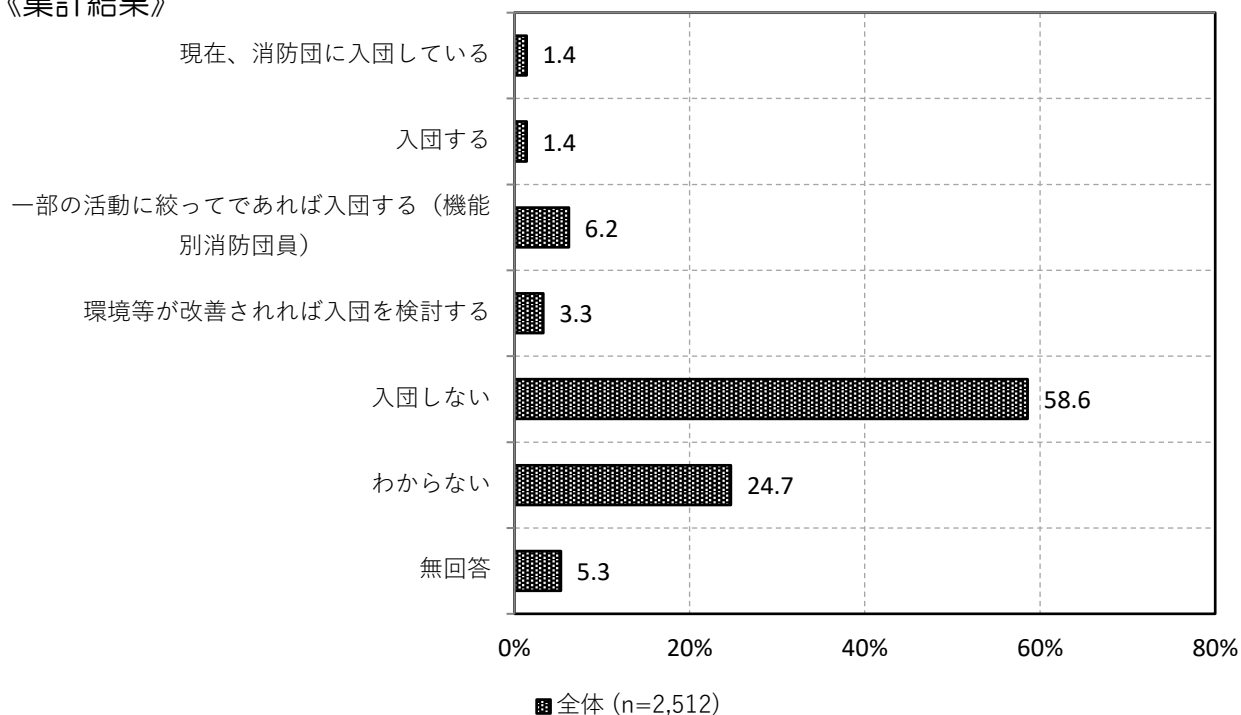
○消防団に期待する活動について「火災時の消火活動」と答えた方の割合が76.5%と最も高く、次いで「大規模災害時の救出救助や避難誘導」が57.3%、「風水害時の水防活動」が54.0%となっています。

8-3 消防団への入団意思（複数回答）

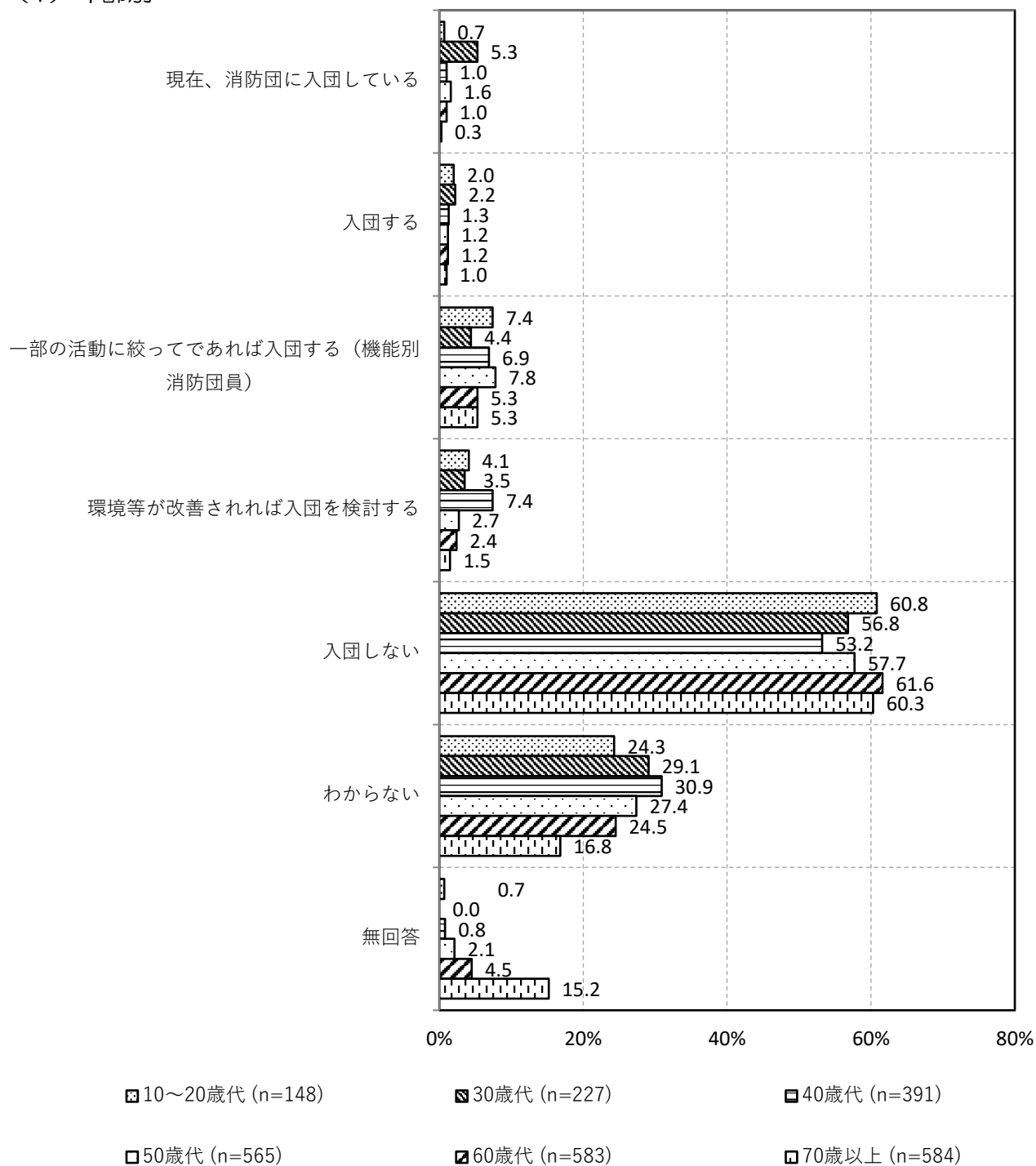
【問 28-1】消防団への入団を勧められた場合、どうされますか。（いくつでも○）

1. 現在、消防団に入団している
2. 入団する
3. 一部の活動に絞ってであれば入団する（機能別消防団員）
4. 環境等が改善されれば入団を検討する
5. 入団しない
6. わからない

《集計結果》



(1) 年齢別



○消防団への入団意思について、「入団しない」と答えた方の割合が58.6%と最も高くなっています。

○一方で、「入団する」(1.4%)「一部の活動に絞ってであれば入団する」(6.2%)「環境等が改善されれば入団を検討する」(3.3%)と入団に関心がある方の割合があわせて10.9%となっています。

○年齢別に見ると、40歳代において「入団しない」と答えた方の割合が53.2%と他の年代に比べて低くなっており、「環境等が改善されれば入団を検討する」と答えた方の割合が7.4%と他の年代に比べて高くなっています。

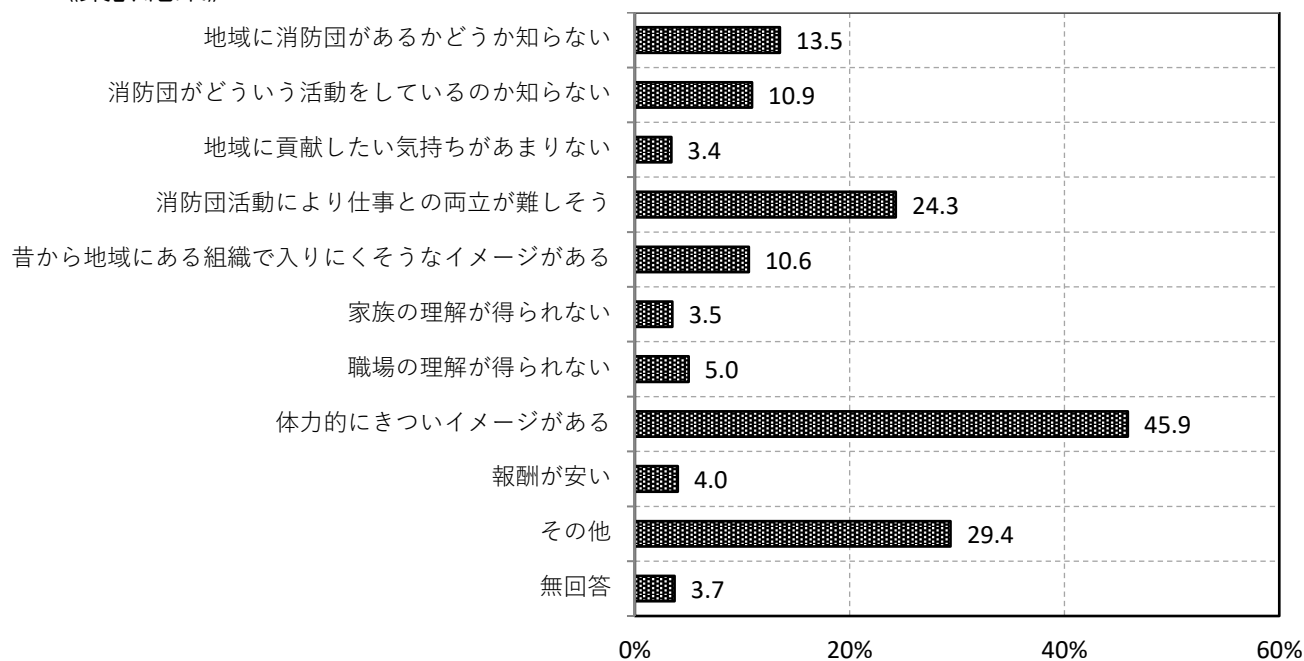
8-4 消防団に入団しない理由（複数回答）

【問 28-2】問 28-1 で「4.環境等が改善されれば入団を検討する」、「5.入団しない」と回答された方にお尋ねします。

消防団に入団しない理由は何ですか。（いくつでも〇）

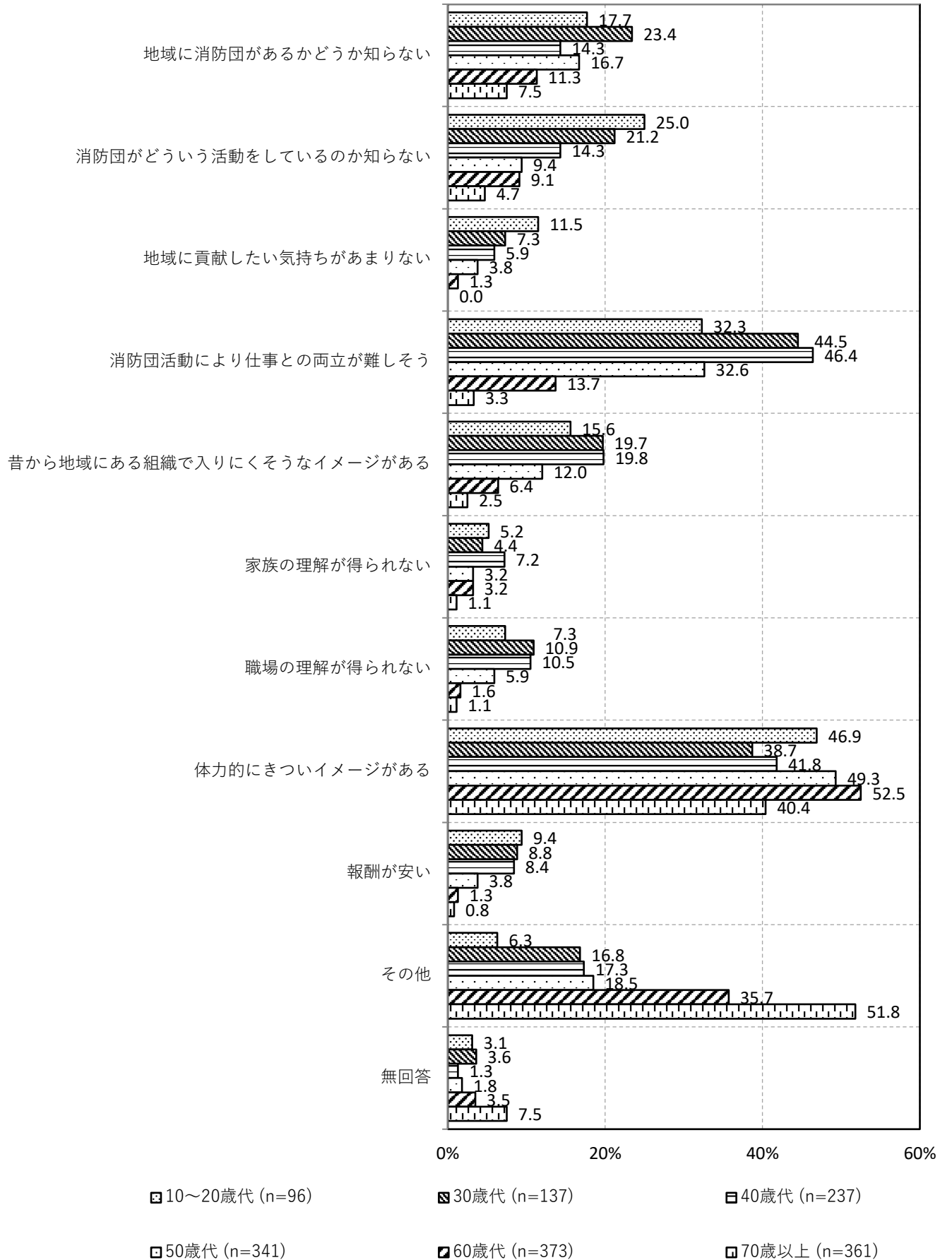
1. 地域に消防団があるかどうか知らない
2. 消防団がどういう活動をしているのか知らない
3. 地域に貢献したい気持ちがあまりない
4. 消防団活動により仕事との両立が難しそう
5. 昔から地域にある組織で入りにくそうなイメージがある
6. 家族の理解が得られない
7. 職場の理解が得られない
8. 体力的にきついイメージがある
9. 報酬が安い
10. その他

《集計結果》



■ 全体 (n=1,553)

(1) 年齢別



- 消防団に入団しない理由について、「体力的にきついイメージがある」と答えた方の割合が45.9%と最も高く、次いで「消防団活動と仕事の両立が難しそう」が24.3%となっています。
- 年齢別に見ると、年齢が低くなるほど「消防団がどういう活動をしているのか知らない」と答えた方の割合が高くなっています。
- また、30歳代、40歳代は、他の年代に比べて「消防団活動により仕事との両立が難しそう」と答えた方の割合が高くなっており、10～20歳代、50歳代、60歳代は他の年代に比べて「体力的にきついイメージがある」と答えた方の割合が高くなっています。
- 「その他」の内容について、具体的には「高齢のため」という回答が多数を占めています。

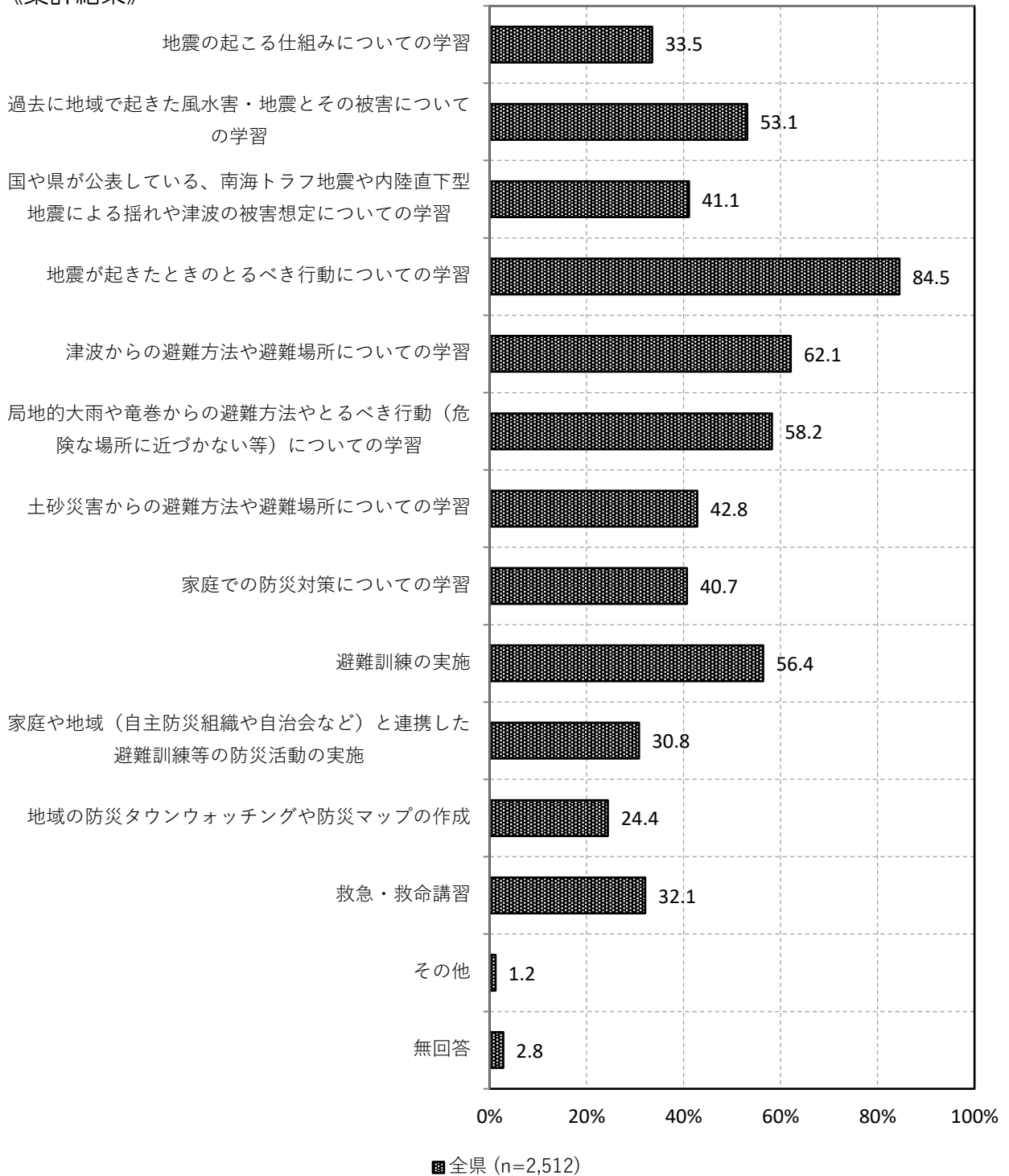
9 学校の防災教育について

9-1 学校で特に力を入れて取り組むべき防災教育（複数回答）

【問 29】子どもたちが災害から自分の命を守る力を身につけるとともに、災害時に地域の一員として行動できる力を身につけていくために、学校においてどのようなことに特に力を入れて取り組むことが必要だと思いますか。（いくつでも○）

1. 地震の起こる仕組みについての学習
2. 過去に地域で起きた風水害・地震とその被害についての学習
3. 国や県が公表している、南海トラフ地震や内陸直下型地震による揺れや津波の被害想定についての学習
4. 地震が起きたときにとるべき行動についての学習
5. 津波からの避難方法や避難場所についての学習
6. 局地的大雨や竜巻からの避難方法やとるべき行動（危険な場所に近づかない等）についての学習
7. 土砂災害からの避難方法や避難場所についての学習
8. 家庭での防災対策についての学習
9. 避難訓練の実施
10. 家庭や地域（自主防災組織や自治会など）と連携した避難訓練等の防災活動の実施
11. 地域の防災タウンウォッチングや防災マップの作成
12. 救急・救命講習
13. その他

《集計結果》

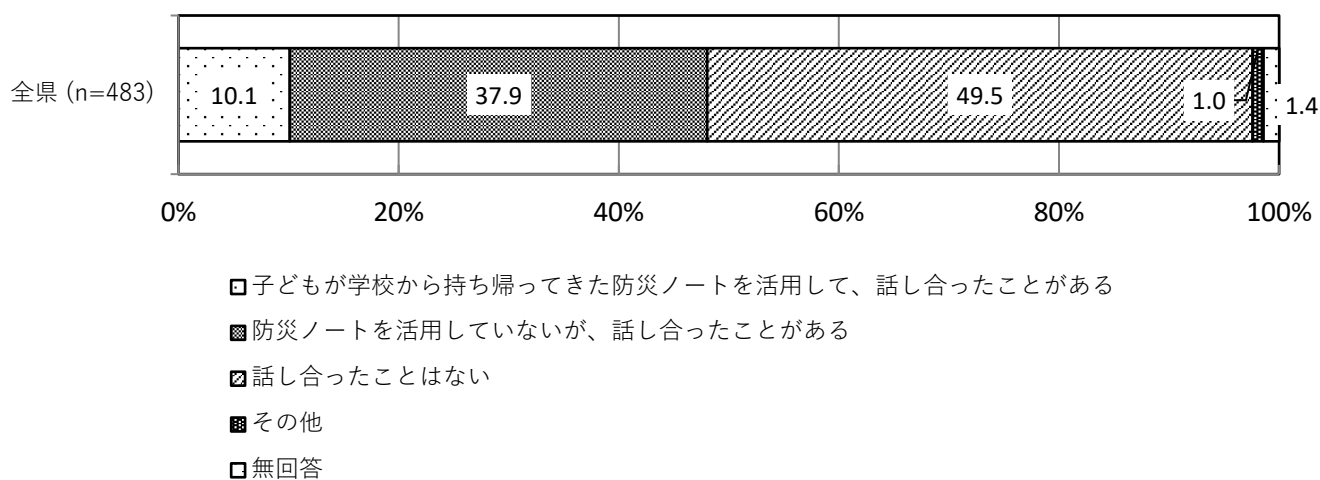


○学校において特に力を入れて取り組むことが必要だと思う防災教育について、「地震が起きたときの取るべき行動についての学習」と答えた方の割合が84.5%と最も高く、次いで「津波からの避難方法や避難場所についての学習」が62.1%、「局地的大雨や竜巻からの避難方法やとりべき行動についての学習」が58.2%、「避難訓練の実施」が56.4%、「過去に地域で起きた風水害・地震とその被害についての学習」が53.1%となっています。

9-2 防災ノート等を活用した家庭での話し合いの状況

- 【問 30】同居家族に小学生、中学生、高校生がいる方にお尋ねします。
防災ノート等を活用しながら家庭の防災対策について話し合ったことはありますか。(一つだけ〇)
1. 子どもが学校から持ち帰ってきた防災ノートを活用して、話し合ったことがある
 2. 防災ノートを活用していないが、話し合ったことがある
 3. 話し合ったことはない

《集計結果》



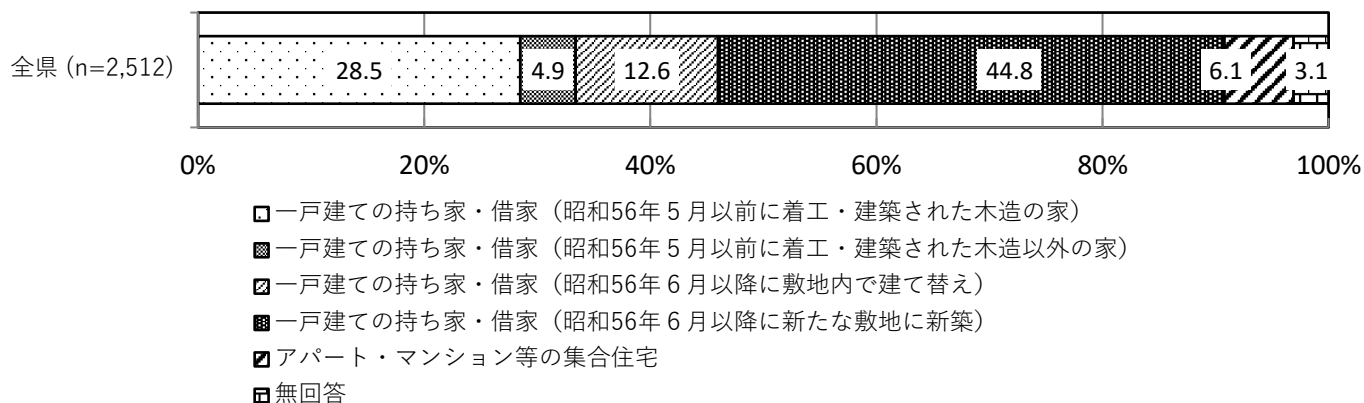
○同居家族に小学生、中学生、高校生がいる方における防災ノート等を活用した家庭での話し合いの状況について、「話し合ったことはない」と答えた方の割合が 49.5%と最も高く、次いで、「防災ノートを活用していないが、話し合ったことがある」が 37.9%となっています。

10 あなたのお住まいの耐震化について

10-1 お住まいの状況

- 【問31】 あなたのお住まいは次のうちのどれにあたりますか。(一つだけ○)
1. 一戸建ての持ち家・借家（昭和56年5月以前に着工・建築された木造の家）
 2. 一戸建ての持ち家・借家（昭和56年5月以前に着工・建築された木造以外の家）
 3. 一戸建ての持ち家・借家（昭和56年6月以降に敷地内で建て替え）
 4. 一戸建ての持ち家・借家（昭和56年6月以降に新たな敷地に新築）
 5. アパート・マンション等の集合住宅

《集計結果》



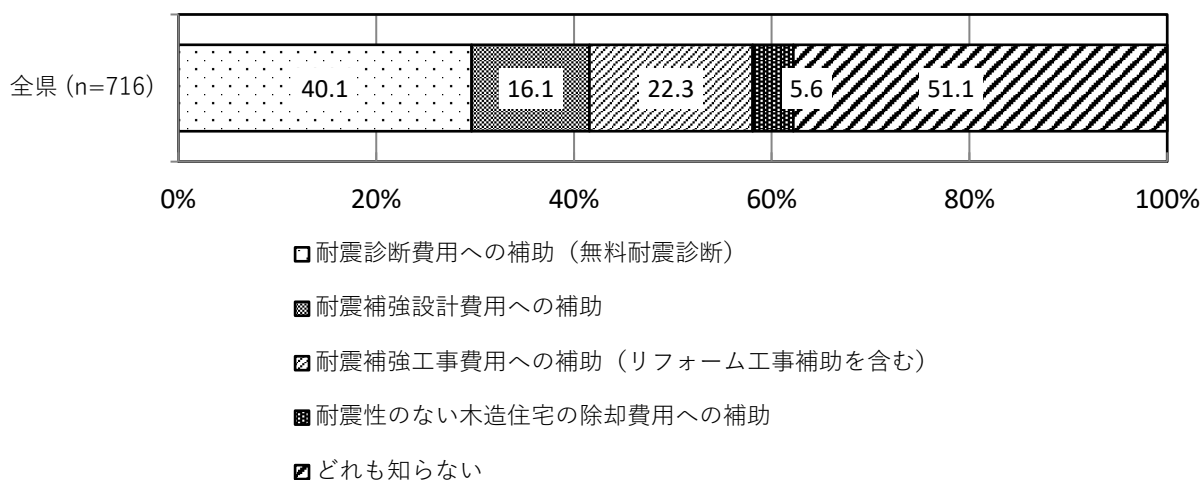
○住まいの状況について、「一戸建ての持ち家・借家（昭和56年6月以降に新たな敷地に新築）」が44.8%、「一戸建ての持ち家・借家（昭和56年5月以前に着工・建築された木造の家）」が28.5%、「一戸建ての持ち家・借家（昭和56年6月以降に敷地内で建て替え）」が12.6%、「アパート・マンション等の集合住宅」が6.1%、「一戸建ての持ち家・借家（昭和56年5月以前に着工・建築された木造以外の家）」が4.9%となっています。

10-2 木造住宅の耐震化に向けた補助制度の認知度（複数回答）

【問 32】 県及び市町では、昭和 56 年 5 月 31 日以前に建築された（着工を含む）木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度をご存知ですか。（いくつでも○）

1. 耐震診断費用への補助（無料耐震診断）
2. 耐震補強設計費用への補助
3. 耐震補強工事費用への補助（リフォーム工事補助を含む）
4. 耐震性のない木造住宅の除却費用への補助
5. どれも知らない

《集計結果》



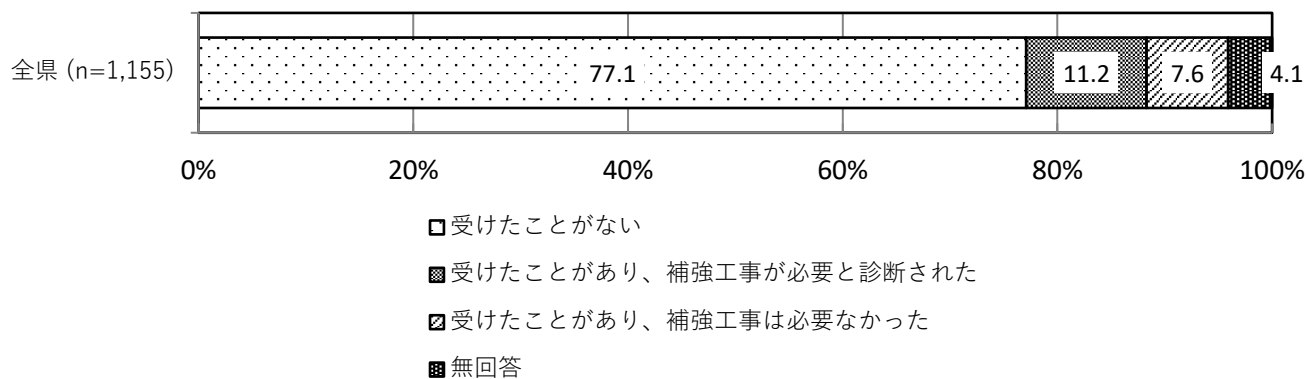
○昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の一戸建てに住んでいる方における木造住宅の耐震化に向けた補助制度の認知度について、「どれも知らない」と答えた方の割合が 51.1%と最も高く、「耐震診断費用への補助（無料耐震診断）」が 40.1%、「耐震補強工事費用への補助（リフォーム工事補助を含む）」が 22.3%となっています。

10-3 ご自宅の耐震診断

【問 33】あなたのご自宅（同じ敷地内で建替えを行った場合、建替え前の住宅を含む、借家も含む）は、耐震診断を受けたことがありますか。受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。（一つだけ〇）

1. 受けたことがない
2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された
3. 受けたことがあり、補強工事は必要なかった

《集計結果》



○昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された一戸建てや昭和 56 年 6 月以降に敷地内で建て替えた一戸建てに住んでいる方において、自宅の耐震診断を「受けたことがない」と答えた方の割合は 77.1%、「受けたことがある」と答えた方の割合は 18.8%となっています。

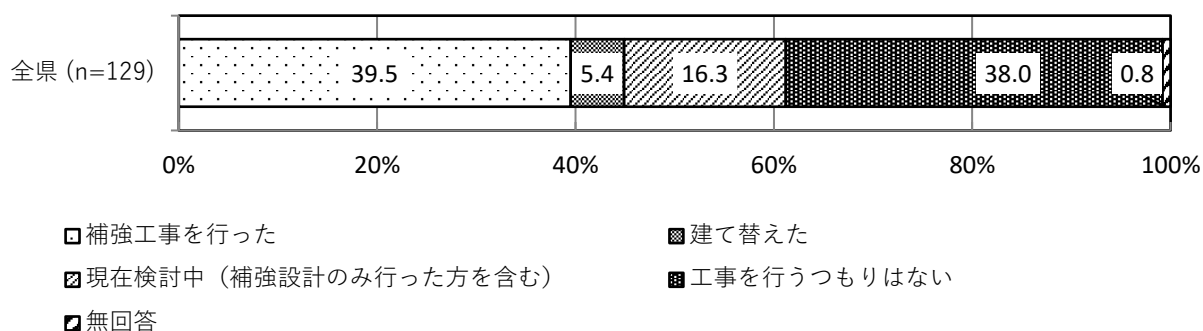
10-4 耐震補強工事

【問 34】問 33 で、「2.受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された方にお尋ねします。

耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。(一つだけ〇)

1. 補強工事を行った
2. 建て替えた
3. 現在検討中（補強設計のみ行った方を含む）
4. 工事を行うつもりはない

《集計結果》



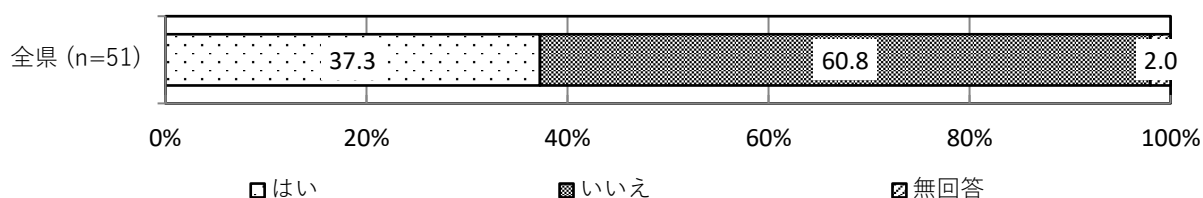
○自宅の耐震診断を受けたことがあり、補強工事が必要と診断された方において、「補強工事を行った」と答えた方の割合は39.5%、「工事を行うつもりはない」と答えた方の割合は38.0%、「現在検討中」と答えた方の割合は16.3%となっています。

10-5 耐震補強工事の補助制度の利用の有無

【問 33】問 34 で、「1.補強工事を行った」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事に対する行政の補助制度を利用されましたか。(一つだけ〇)

1. はい
2. いいえ

《集計結果》

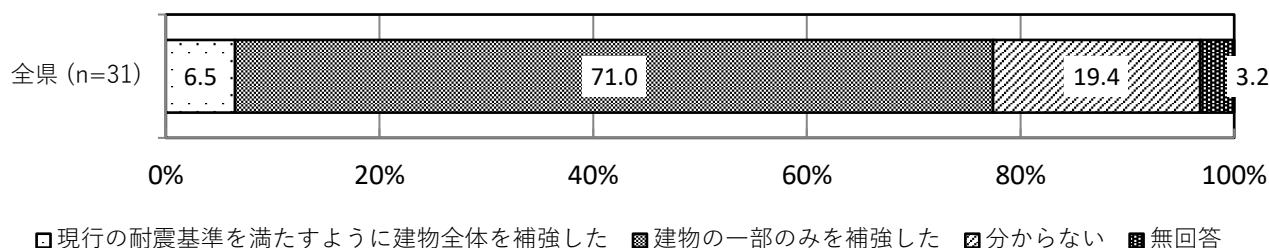


○耐震補強工事を行った方における補助制度の利用について、60.8%の方が「いいえ」と答えています。

10-6 耐震補強工事の内容

- 【問 36】 問 35 で、「2.いいえ」と回答された方にお尋ねします。
 どのような耐震補強工事を行いましたか。（一つだけ〇）
1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した
 2. 建物の一部のみを補強した
 3. 分からない

《集計結果》

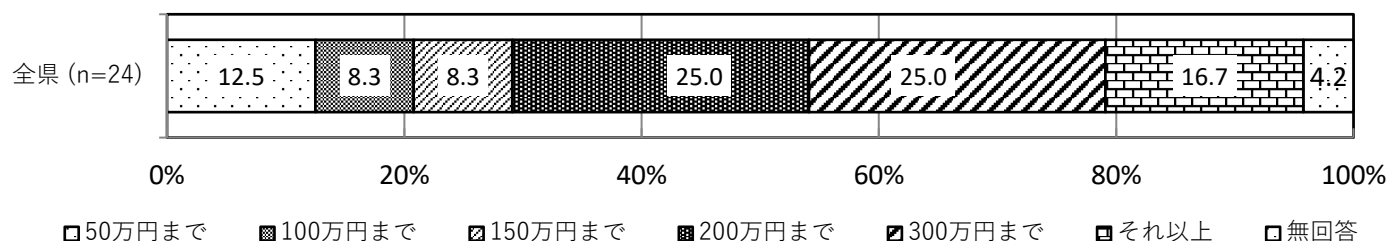


〇補助制度を利用しなかった方が行った耐震補強工事について、「建物の一部のみを補強した」と答えた方の割合が71.0%となっています。

10-7 補強工事を行った時の工事費

- 【問 37】 問 36 で、「1.現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」、「2.建物の一部のみを補強した」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事費はいくら位かかりましたか。（一つだけ〇）
1. 50万円まで
 2. 100万円まで
 3. 150万円まで
 4. 200万円まで
 5. 300万円まで
 6. それ以上

《集計結果》



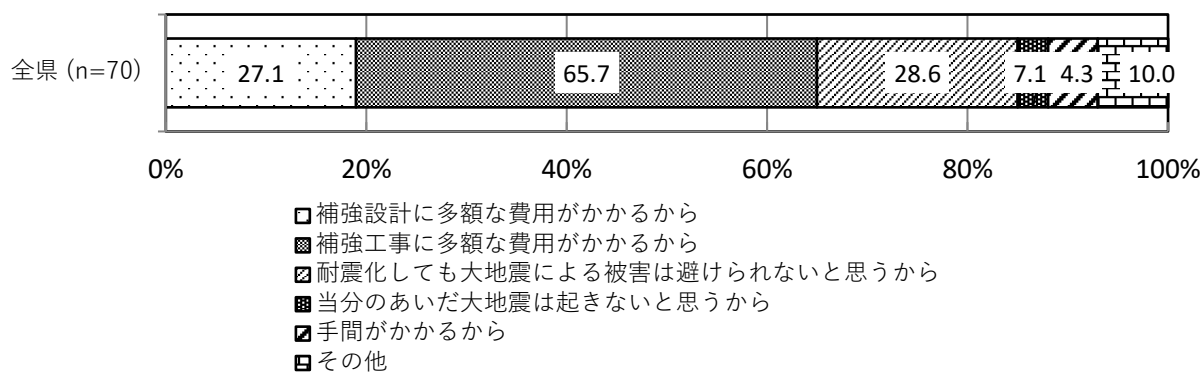
〇補助制度を利用せずに建物の耐震補強工事を行った方における工事費について、「200万円まで」、「300万円まで」がともに25.0%、「300万円以上」が16.7%、「50万円まで」が12.5%となっています。

10-8 耐震補強工事をしない理由（複数回答）

【問 38】 問 34 で、「3.現在検討中（補強設計のみ行った方を含む）」、「4.工事を行うつもりはない」と回答された方にお尋ねします。耐震補強の決心がつかない、耐震補強をしない理由は何ですか。（いくつでも〇）

1. 補強設計に多額な費用がかかるから
2. 補強工事に多額な費用がかかるから
3. 耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから
4. 当分のあいだ大地震は起きないと思うから
5. 手間がかかるから
6. その他

《集計結果》



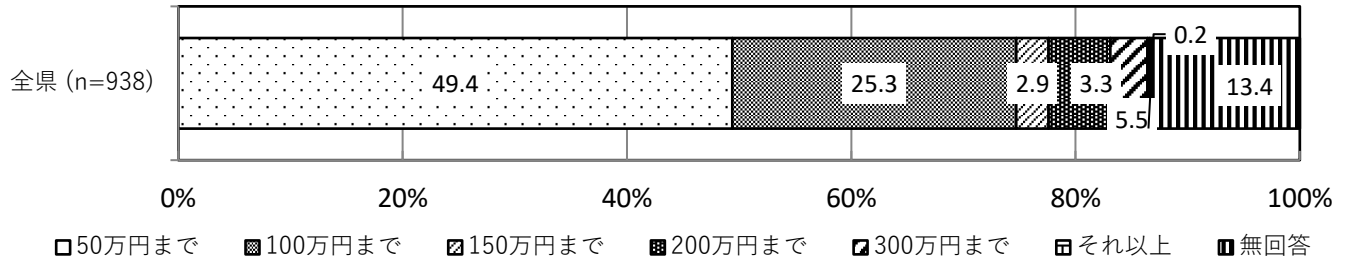
○耐震補強工事が必要と診断されたものの、工事を行うつもりはない、または現在検討中と答えた方が耐震補強をしない（決心がつかない）理由として、「補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方の割合が65.7%と最も高く、次いで「耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから」が28.6%、「補強設計に多額な費用がかかるから」が27.1%となっています。

10-9 耐震補強工事が可能な自己負担額

【問 39】 ご自宅の補強工事が必要とされた場合、自己負担がいくら位までなら耐震補強を行いますか。（一つだけ〇）

1. 50万円まで
2. 100万円まで
3. 150万円まで
4. 200万円まで
5. 300万円まで
6. それ以上

《集計結果》



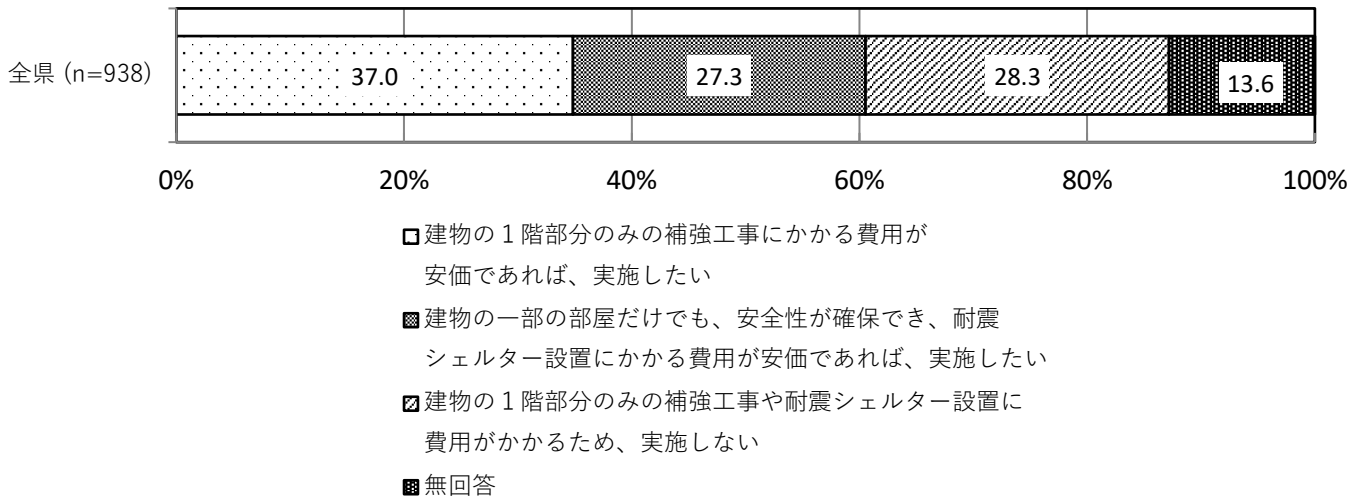
○耐震補強工事が可能な自己負担額について、「50万円まで」と答えた方の割合が49.4%と最も高く、次いで「100万円まで」と答えた方の割合が25.3%となっています。

10-10 1階部分のみの耐震補強や耐震シェルターによる補強の意思(複数回答)

【問 40】建物の1階部分のみを耐震補強する、又は耐震シェルターを設置することで少しでも安全性が向上するのであれば、補強したいと思いますか。
(いくつでも○)

1. 建物の1階部分のみの補強工事にかかる費用が安価であれば、実施したい
2. 建物の一部の部屋だけでも、安全性が確保でき、耐震シェルター設置にかかる費用が安価であれば、実施したい
3. 建物の1階部分のみの補強工事や耐震シェルター設置に費用がかかるため、実施しない

《集計結果》



○耐震補強工事を実施していない方における、建物の1階部分のみの補強工事や耐震シェルターによる補強の意思について、「建物の1階部分に係る費用が安価であれば、実施したい」と答えた方の割合は37.0%、「耐震シェルター設置にかかる費用が安価であれば実施したい」と答えた方の割合は27.3%となっている一方で、「どちらも費用がかかるため実施しない」と答えた方の割合は28.3%となっています。

資料

○津波危険地域一覧

以下の「対象町名」は、三重県が平成24年3月に公表した予測において浸水が想定される町名（部分的な浸水を含む）で、平成24年度の調査の際に各市町確認の上で分類し、「津波危険地域」として統計しました。

市町名	対象町名
津市	白塚町、栗真小川町、栗真中山町、栗真町屋町、一身田中野、一身田豊野、一身田平野、栄町、桜橋、上浜町、江戸橋、島崎町、港町、海岸町、末広町、高洲町、住吉町、藤枝町、津興、藤方、高茶屋小森町、高茶屋小森上野町、雲出本郷町、雲出長常町、雲出伊倉津町、雲出鋼管町、河芸町中別保、河芸町一色、河芸町影重、河芸町上野、河芸町東千里、河芸町中瀬、香良洲町
四日市市	稲葉町、大協町1丁目、大協町2丁目、高砂町、尾上町、千歳町、末広町、東邦町、塩浜町、大字塩浜、石原町、三田町、川合町、天力須賀1丁目、天力須賀2丁目、天力須賀3丁目、天力須賀4丁目、天力須賀5丁目、住吉町、平町、松原町、富州原町、富田一色町、天力須賀新町、富双1丁目、富双2丁目、東富田町、富田1丁目、富田2丁目、富田3丁目、富田4丁目、南富田町、茂福町、東茂福町、富田浜元町、富田浜町、浜園町、霞1丁目、霞2丁目、大字茂福、羽津町、午起3丁目、三郎町、楠町南五味塚、楠町北五味塚、楠町吉崎、楠町小倉
伊勢市	楠部町、下野町、竹ヶ鼻町、神社港、馬瀬町、大湊町、朝熊町、東豊浜町、檜原町、西豊浜町、磯町、有滝町、村松町、東大淀町、二見町松下、二見町江、二見町茶屋、二見町三津、二見町山田原、二見町溝口、二見町荘、二見町西、二見町今一色、二見町光の街、御園町上條、御園町小林、御園町新開
松阪市	大口町、東久保町、新松ヶ島町、町平尾町、獺師町、松崎浦町、松ヶ島町、六軒町、西黒部町、松名瀬町、高須町、東黒部町、柿木原町、土古路町、出間町、大垣内町、蓮花寺町、神守町、牛草町、垣内田町、乙部町、市場庄町、曾原町、中道町、小津町、喜多村新田町、笠松町、星合町、五主町
桑名市	吉之丸、三之丸、片町、江戸町、川口町、船馬町、清水町、宝殿町、春日町、風呂町、本町、北魚町、三崎通、相生町、殿町、田町、南魚町、油町、職人町、宮通、京町、吉津屋町、鍛冶町、入江葎町、紺屋町、内堀、伊賀町、柳原、新屋敷、八幡町、外堀、萱町、伝馬町、新町、一色町、矢田磧、西鍋屋町、北鍋屋町、東鍋屋町、南寺町、北寺町、今片町、堤原、今中町、今北町、太一丸、住吉町、大字赤須賀、大字江場、掛樋、大字大福、大字桑名、大央町、中央町一丁目、中央町三丁目、中央町四丁目、中央町五丁目、新築町、常盤町、京橋町、三栄町、八間通、寿町一丁目、寿町二丁目、寿町三丁目、末広町、桑栄町、有楽町、駅元町、参宮通、蓮見町、福島新町、大字東方、大字播磨、大字東汰上、大字蠣塚新田、大字福島、大字上之輪、大字上深谷部、大字今島、大字安永、大字和泉、大字小泉、大字大貝須、大字小貝須、大字福地、大字福江、大字地藏、大字東野、大字萱町、大字立田町、大字太平町、大字福岡町、長島町長島萱町、長島町長島中町、長島町長島下町、長島町又木、長島町源部外面、長島町殿名、長島町東殿名、長島町押付、長島町小島、長島町大倉、長島町出口、長島町間々、長島町高座、長島町中川、長島町平方、長島町西外面、長島町十日外面、長島町大島、長島町駒江、長島町松ヶ島、長島町千倉、長島町下坂手、長島町上坂手、長島町杉江、長島町松之木、長島町新所、長島町西川、長島町鎌ヶ地、長島町葎ヶ須、長島町赤地、長島町福豊、長島町福吉、長島町白鷄、長島町横満蔵、長島町松蔭、長島町浦安、長島町老松
鈴鹿市	寺家町、寺家1丁目、寺家2丁目、寺家3丁目、寺家4丁目、白子1丁目、白子本町、江島本町、東江島町、南長太町、長太新町3丁目、長太新町4丁目、長太旭町6丁目、長太栄町4丁目、長太栄町5丁目、中箕田町、北堀江町、下箕田町、下箕田1丁目、下箕田2丁目、下箕田3丁目、南若松町、北若松町、若松中1丁目、若松東1丁目、若松東2丁目、若松東3丁目、若松北3丁目、磯山町、東磯山1丁目、東磯山2丁目、東磯山3丁目、東磯山4丁目、磯山1丁目、磯山2丁目、磯山3丁目

市町名	対象町名
尾鷲市	林町、中央町、朝日町、港町、中井町、栄町、中村町、野地町、坂場町、宮ノ上町、北浦町、大字天満浦、大字向井、大字大曾根浦、大字行野浦、須賀利町、九鬼町、早田町、三木里町、名柄町、小脇町、三木浦町、古江町、賀田町、曾根町、梶賀町、小川東町、瀬木山町、中川、矢浜1丁目、矢浜3丁目、矢浜4丁目、北浦西町、北浦東町、矢浜大道、国市松泉町
鳥羽市	鳥羽1丁目、鳥羽2丁目、鳥羽3丁目、鳥羽4丁目、鳥羽5丁目、小浜町、堅神町、池上町、安楽島町、大明東町、大明西町、船津町、相差町、国崎町、畔蛸町、千賀町、堅子町、石鏡町、浦村町、桃取町、答志町、菅島町、神島町、坂手町
熊野市	須野町、甫母町、二木島里町、二木島町、遊木町、新鹿町、波田須町、磯崎町、大泊町、木本町、井戸町、有馬町、久生屋町
志摩市	阿児町鶴方、阿児町神明、阿児町立神、阿児町志島、阿児町甲賀、阿児町国府、阿児町安乗、浜島町浜島、浜島町南張、浜島町檜山路、浜島町塩屋、浜島町迫子、大王町波切、大王町船越、大王町畔名、大王町名田、志摩町片田、志摩町布施田、志摩町和具、志摩町越賀、志摩町御座、磯部町下之郷、磯部町飯浜、磯部町六川、磯部町坂崎、磯部町の矢、磯部町三ヶ所、磯部町渡鹿野
桑名郡木曾岬町	全域
三重郡朝日町	大字縄生、大字小向、大字柿
三重郡川越町	全域
多気郡明和町	大字川尻、大字北藤原、大字浜田、大字八木戸、大字根倉、大字養川、大字中村、大字南藤原、大字内座、大字大堀川新田、大字大淀甲、大字大淀乙、大字山大淀、大字大淀
度会郡大紀町	錦
度会郡南伊勢町	五ヶ所浦、船越、中津浜浦、飯満、内瀬、伊勢路、迫間浦、礪浦、相賀浦、田曾浦、宿浦、泉、神津佐、下津浦、木谷、棚橋竈、新桑竈、古和浦、栃木竈、小方竈、方座浦、神前浦、村山、河内、東宮、奈屋浦、贅浦、慥柄浦、道方、大江、道行竈、阿曾浦、大方竈
北牟婁郡紀北町	三浦、道瀬、海野、長島、東長島、相賀、引本浦、矢口浦、白浦、島勝浦、古里
南牟婁郡御浜町	大字阿田和、大字下市木、大字志原
南牟婁郡紀宝町	井田、鶴殿、北檜杖、成川、鮎田

防災に関する県民意識調査

この調査は、県内市町の選挙人名簿から18歳以上の県民の皆さん5,000人を無作為に抽出し、皆さんの防災に関する意識を把握することで、今後の三重県の防災・減災対策に活用することを目的に行います。このたび、この調査票をお受け取りいただいたあなたに、令和5年度の「防災に関する県民意識調査」へのご協力をお願いいたします。

近い将来発生が危惧されている南海トラフ地震や、近年の気候変動で激甚化・頻発化している豪雨などにより、いつどこで災害が発生してもおかしくない状況です。


今年度も石川県能登地方で発生した最大震度6強の地震をはじめ、全国各地で地震が発生しています。また、台風等に伴う大雨による災害も各地で発生しており、三重県でも6月に南部地域で発生した線状降水帯や8月に紀伊半島に上陸した台風第7号などにより被害が発生しています。

このような自然災害による被害を最小限に抑えるためには、県民の皆さんをはじめ、自主防災組織、消防団、事業者、行政等がそれぞれ「自助」・「共助」・「公助」の責務と役割を理解し、お互いに連携して災害に備えることが大切です。

調査結果は、今後、三重県が防災施策を適切に進めるにあたって、重要な基礎データとなるものであり、個人を特定しない統計情報として利用するものです。お忙しいところ誠に恐れ入りますが、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和5年10月

三重県防災対策部

調査機関 (連絡先)	三重県防災対策部 防災対策総務課 企画調整班	
	電話 059-224-2181 ファクス 059-224-2199 e-mail bitsoum@pref.mie.lg.jp	

— ご回答にあたってのお願い —

1. この調査は、できるだけだけ名にある「ご本人」がお答えください。(※)
(※) ご本人様による回答が難しい場合は、ご家族やお知り合いの方等がご自身の立場でご回答いただきますようお願いいたします。

2. 本アンケートは、以下のいずれかによる方法でご回答をお願いします。

(1) 調査票(郵送)によるご回答

・ 回答を、直接、調査票にご記入ください。
・ 選択肢の中から当てはまるものを選び、その番号を○で囲んでください。
また、「その他()」に当てはまる場合には、ご面倒ですが詳しくご記入ください。

・ 回答によっては、次の質問を飛ばしていくところがありますので、ご注意ください。
・ 回答いただいた調査票は、10月30日(月)までに同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに郵便ポストへ投函してください。

(2) インターネットによるご回答

・ 下記のURLもしくはQRコードからWEB画面にアクセスしていただき、下記のID・パスワードを入力の上、ご回答ください。
・ 10月30日(月)までにご回答いただきますようお願いいたします。

オンライン回答URL	オンライン回答二次元コード
https://logoform.jp/form/8MX/359425	

ID	
パスワード	

※ID・パスワードは調査票(郵送)による回答とインターネットによる回答の重複を防ぐためのものであり、回答者様個人を特定するものではありません。

3. この調査に関するご質問は、表紙に記載の連絡先までお問い合わせいただけますようお願いいたします。

【調査票】防災に関する県民意識調査

★あなた自身とご家族について

最初に、あなたご自身とご家族等についてお尋ねします。それぞれにあてはまる番号に○を付けてください。
 これらは、回答を統計的に分析するために必要な情報です。無記名式であり、集計した結果のみを使用しますので、個人の情報特定されることは一切ありません。ご協力をお願いします。

F 1 ご自宅のある市町をお答えください。(一つだけ○)

【北勢地域】	2. いなべ市	3. 四日市市	4. 鈴鹿市
1. 桑名市	6. 木曽岬町	7. 東員町	8. 孤野町
5. 桑山市	9. 川越町		
【中南勢地域】	12. 松阪市	13. 多気町	14. 明和町
11. 津市			
15. 大台町			
【伊勢志摩地域】	17. 鳥羽市	18. 志摩市	19. 玉城町
16. 伊勢市	21. 大紀町	22. 南伊勢町	
20. 度会町			
【伊賀地域】	24. 名張市		
23. 伊賀市			
【東紀州地域】	26. 熊野市	27. 紀北町	28. 御浜町
25. 尾鷲市			
29. 紀宝町			

F 2 あなたの性別をお答えください。(一つだけ○)

1. 男性	2. 女性	3. ()
-------	-------	--------

F 3 あなたの現在の年齢をお答えください。(一つだけ○)

1. 10～20 歳代	2. 30 歳代	3. 40 歳代
4. 50 歳代	5. 60 歳代	6. 70 歳以上

F 4 あなたの主な職業は何ですか。(一つだけ○)

1. 農林水産業(家族従事者も含みます)	2. 自営業、自由業(家族従事者も含みます)
3. 企業、役所、団体などの正社員	4. パート、アルバイト、派遣社員など
5. その他、収入のある仕事	6. 学生(アルバイトなどをしていの方も含みます)
7. 専業主婦、専業主夫	8. 無職

F 5 あなたを含めた同居家族の中に、以下のような方はいらっしゃいますか。(○はいくつでも)

1. 乳幼児	2. 小学生	3. 中学生
4. 高校生	5. 75歳以上の方	6. 介護・介助が必要な方
7. 妊産婦	8. 当てはまる人はいない	

1

★地震・津波対策について

【問1】 あなたの住んでいる地域で、今後10年程度の間に大規模な地震が起こると思いますか。(一つだけ○)

1. 思う	→問2へ
2. 思わない	

【問2】 三重県では南海トラフ地震や内陸直下型地震が発生した際の地震被害想定調査の結果を公表していますが、お住まいの地域における震度予測や津波浸水予測など被害想定を知っていますか。(一つだけ○)

1. 具体的に知っている	→問3へ
2. ある程度は知っている	
3. 知らない	

※「三重県地震被害想定調査結果」では、津波浸水予測図のほか、津波からの避難行動がとれなくなる「津波により浸水深3.0cmに到達するまでの到達予測時間分布図」を公表しています。
 ▶三重県地震被害想定調査結果(県HP) : <https://www.pref.mie.lg.jp/DIBOSHL/84544007861.htm>



【問3】 南海トラフ地震臨時情報※について、地震発生から津波到達までに避難が間に合わない地域では事前に避難することになっていますが、このことを知っていますか。(一つだけ○)

1. 知っている	→問4へ
2. 名称は知っているが、具体的な内容(何をすべきか)は知らない	
3. 知らない	

※南海トラフ地震臨時情報：南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについて、気象庁から発表されるもの
 ▶南海トラフ地震臨時情報について(県HP) : <http://www.pref.mie.lg.jp/STMSAKU/HP/m0099500047.htm>



【問4】 平成23年の東日本大震災の発生から12年が経過しましたが、あなたの地震に対する防災意識に変化はありますか。(一つだけ○)

1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている	→問5-1へ
2. 東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている(またはさらに高まった)	
3. 東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある	
4. 東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった	
5. 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に防災意識は持たなかった	

2

【問5-1】 大きな地震が発生した場合、あなたは何をきっかけに避難しますか。
(いくつでも○)

1. 地震の揺れが収まったら即座に避難する	} 問6へ
2. 市町からの避難指示等	
3. 家族からの連絡	
4. 地域の人の声掛け	
5. テレビやラジオ等による情報	
6. 防災に関するホームページや防災アプリによる情報	
7. 自宅の停電やガス、水道の停止	
8. 自宅が倒壊する危険性を感じたとき	
9. 避難行動を取ることができない(理由:)	
10. 避難の必要がない(理由:)	
11. 避難しようと思わない	→問5-2へ
12. その他	→問6へ

【問5-2】 問5-1で「11. 避難しようと思わない」と回答された方にお尋ねします。
避難しない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 最寄りの避難場所や避難所*を知らないから	} 問6へ
2. 避難場所や避難所までの避難経路が危険だから	
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから	
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから	
5. 感染症や熱中症の発生など避難所の生活環境が心配だから	
6. 介護が必要等、避難が困難な家族がいるから	
7. 家や家財を残して避難することに抵抗感があるから	
8. ペットを残して避難することに抵抗感があるから	
9. 面倒だから	
10. その他	

*避難場所：災害から緊急かつ一時的に避難するための場所
※避難所：災害により短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う建物
(避難所が避難場所を兼ねている場合もあります。)

★風水害対策について

【問6】 あなたのお住まいの周辺における風水害（高潮や川のはん濇、土砂災害等）の
危険性について、どの程度把握されていますか。(いくつでも○)

1. 高潮による浸水の危険性があること	} 問7へ
2. 川のはん濇による浸水の危険性があること	
3. 内水はん濇 [※] による浸水の危険性があること	
4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあること	
5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあること	
6. 地域の風水害の危険性についてあまり知らない、またはあまり考えたことがない	

※内水はん濇：局地的大雨等で下水道施設や小河川の水位が増加し、堤防から水が溢れなくても河川へ排水する川や下水道の排水能力の不足などが原因で、降った雨を処理できずに建物や土地、道路等が浸水する風水害

【問7】 市町が発令する避難情報について、5段階の警戒レベル[※]を用いて伝達すること
なっています。この警戒レベルを知っていますか。(一つだけ○)

1. 具体的な内容を知っている	} 問8へ
2. 名称は知っているが、具体的な内容は知らない	
3. 知らない	

※警戒レベル：災害発生のおそれの高まりに応じて、住民がとるべき行動を5段階に分けたもので、高齢者等避難は「警戒レベル3」、避難指示は「警戒レベル4」となります。「自らの命は自らを守る」という意識で、警戒レベル4までに避難することが必要です。
▶警戒レベルについて(県HP)： <https://www.pref.mie.lg.jp/STAISAKU/HP/000249704.htm>



【問 9】 近年各地で発生し、被害をもたらしている「線状降水帯[※]」について、その特徴や危険性、必要対応について知っていますか。(一つだけ○)

1. 特徴や危険性、必要対応を知っている
2. 名称は知っているが、特徴や危険性、必要対応は知らない
3. 知らない

→問 9へ

※線状降水帯：

次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が、数時間におわたってほぼ同じ場所を通過または停滞すること
で作り出される。線状に伸びる強い降水をともなう雨雲

線状降水帯が発生すると、数時間におわたってほぼ同じ場所ですべて激しい雨が降り続くため、大雨災害
発生の可能性が高まるおそれがあります。

※線状降水帯に関する各種情報（気象庁HP）：
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/bosai/kishoujoho_senjoukensaitai.html

また、線状降水帯による大雨の可能性がある程度高いことが予想された場合には、気象庁において
「線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ」が行われます。

▶気象情報（気象庁HP）：
https://www.jma.go.jp/bosai/information/harua_type=officeokara_code=240000&format=table



【問 9】 平成 23 年の紀伊半島大水害の発生から 12 年が経過しましたが、あなたの風水害
に対する防災意識に変化はありますか。(一つだけ○)

1. 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を維持している
2. 紀伊半島大水害当時を持った防災意識を今も変わらず持ち続けている
(またはさらに高まった)
3. 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識
が薄れつつある
4. 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災
意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
5. 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害
により、防災意識は高まった
6. 紀伊半島大水害当時にも、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は
持たなかった

→問 10-1へ

【問 10-1】 被害が発生が予測されるような大雨が降っている場合、あなたは何をきっかけ
に避難しますか。(いくつでも○)

1. 大雨が見込まれる段階で事前に避難しておく
2. 市町からの避難指示等
3. 家族からの連絡
4. 地域の人の声掛け
5. テレビやラジオ等による情報
6. 防災に関するホームページ(防災みえ.jp)や「キキクル(危険度分布)[※]」等)
や防災アプリによる情報
7. 自宅の停電やガス、水道の停止
8. 自宅が倒壊する危険性を感じたとき
9. 避難行動を取ることができない(理由：)
10. 避難の必要がない(理由：)

→問 11 及び
問 12へ

11. 避難しようと思わない

→問 10-2へ

12. その他(具体的に：)

→問 11 及び
問 12へ

※キキクル(危険度分布)：

大雨時には、雨が地中に浸み込んで土砂災害が発生させたり、地表面に溜まって浸水害をもたらしたり、
川に集まって増水することによって洪水災害を引き起こしたりします。

キキクルは、このような災害リスクの高まりを表す 3 つの指数(土壌雨量指数、表面雨量指数、流域雨量
指数)を用いて、危険度分布の予測を地図上に表示する形で気象庁により提供されています。

▶キキクル(危険度分布)(気象庁HP)：<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/bosai/kikikuru.html>



【問 10-2】 問 10-1 で「11. 避難しようと思わない」と回答された方にお尋ねします。

避難しない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 最寄りの避難場所や避難所*を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難経路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから
5. 感染症や熱中症の発生など避難所の生活環境が心配だから
6. 介護が必要等、避難が困難な家族がいるから
7. 家や家財を残して避難することに抵抗感があるから
8. ベットを残して避難することに抵抗感があるから
9. 面倒だから
10. その他(具体的に：)

→問 11 及び
問 12へ

※避難場所：災害から緊急かつ一時的に避難するための場所

※避難所：災害により短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う建物
(避難所が避難場所を兼ねている場合もあります。)

★災害時の情報収集について

気象や災害についての情報の入手先についてお尋ねします。

【問11】現在どこから入手することが多いかお答えください。(いくつでも○)

【問12】今後どこから入手したいかお答えください。(いくつでも○)

問11	問12
	1. テレビ
	2. ラジオ
	3. 新聞
	4. 市町の防災行政無線
	5. 県や市町の広報誌、冊子
	6. 県の防災ホームページ「防災みえ.jp」
	7. 県の土砂災害情報に関するホームページ「三重県土砂災害情報提供システム」
	8. キキクル (危険度分布) *
	9. 防災に関するホームページ (6~8以外)
	10. 防災みえメール配信サービス
	11. 携帯メール (「防災みえメール配信サービス」以外)
	12. 県公式SNS (「防災みえX(旧 Twitter)/LINE」)
	13. SNS (X(旧 Twitter)/LINE/Facebook 等) (県公式SNS以外)
	14. 防災アプリ
	15. 街頭の掲示板
	16. 家族から
	17. 友人、知人から
	18. 町内会・自治会を通じて
	19. 消防署・消防団を通じて
	20. その他 〔現在) 具体的に: 〕 〔(今後) 具体的に: 〕
	21. (現在) どこからも入手していない (今後) 特に入手したいと思わない

問13 及び
問14へ

*キキクル (危険度分布):

大雨時には、雨が地中に浸み込んで土砂災害が発生させたり、地表面に溜まって浸水害をもたらしたり、川に集まって増水することで洪水災害を引き起こしたりします。

キキクルは、このような災害リスクの高まりを表す3つの指標(土壌雨量指数、表面雨量指数、流域雨量指数)を用いて、危険度分布の予測を地図上に表示する形で気象庁により提供されています。

▶キキクル (危険度分布) (気象庁HP):

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/bossai/trisumpn.html>



【問13】災害発生時やそのおそれがあるときにどのような情報を知りたいですか。(いくつでも○)

【問14】スマートフォン等で通知が受け取れるアプリ型の情報提供を受ける場合、どのような情報を受け取りたいですか。(いくつでも○)

問13	問14
	1. 気象情報(天気・警報/注意報・雨量・暴状降水管に関する情報等)
	2. 河川情報(水位等)
	3. 土砂災害に関する情報(土砂災害警戒区域、土砂災害警戒情報等)
	4. 地震に関する情報(緊急地震速報、南海トラフ地震臨時情報等)
	5. 避難情報(警戒レベル)
	6. 避難所情報
	7. 医療・救護情報
	8. 交通・道路情報
	9. ライフライン(電気・ガス・水道・電話通信) 情報
	10. 県、市町からのお知らせ
	11. 被害情報(詳細): 文字による被害詳細情報
	12. 被害情報(概要): 地図情報
	13. ライフカメラ等の映像情報
	14. 災害、天気に関するニュース
	15. その他 〔知りたい情報) 具体的に: 〕 〔(アプリ型) 具体的に: 〕
	16. 特に知りたい情報はない アプリ型の情報提供で受け取りたい情報はない

問15-1へ

【問15-1】県では、気象情報や台風・地震に関する情報、災害時の避難情報等をホームページ「防災みえ.jp」で提供しています。「防災みえ.jp」を知っていますか。(一つだけ○)

- | | |
|------------------------------------|---------|
| 1. 知っており、災害発生時やそのおそれがある時に見たことがある | →問16へ |
| 2. 知っているが、災害時に見たことがない | →問15-2へ |
| 3. 知らない | →問16へ |
| 4. インターネット等の環境がない(スマートフォン等を持っていない) | →問17-1へ |

【問15-2】問15-1で、「2. 知っているが、災害時に見たことがない」と回答された方にお願いします。
災害時に「防災みえ.jp」ホームページを活用しない理由をお聞かせください。(いくつでも○)

- | | |
|--|-------|
| 1. 他の手段(TV、ラジオ、インターネット等)で必要な情報が入手できるから | →問16へ |
| 2. 災害時に知りたい情報が掲載されていないから | |
| 3. 必要な情報が探しにくいから | |
| 4. 普段から災害情報を意識していないから | |
| 5. その他(具体的に:) | |

【問16】県では、「防災みえ」のメール配信サービス、X(旧Twitter)、LINEを活用し、防災情報の発信を行っています。このことを知っていますか。(いくつでも○)

- | | |
|---|---------|
| 1. メール配信の登録をしている | →問17-1へ |
| 2. メール配信について知っているが、登録はしていない
(理由:) | |
| 3. 以前にメール配信の登録をしていたが、やめた
(理由:) | |
| 4. X(旧Twitter)のフォロー者になっている
(理由:) | |
| 5. X(旧Twitter)での発信について知っているが、フォロー者になっていない
(理由:) | |
| 6. 以前にX(旧Twitter)のフォロー者になっていたが、やめた
(理由:) | |
| 7. LINEの友だち登録をしている
(理由:) | |
| 8. LINEでの発信について知っているが、友だち登録をしていない
(理由:) | |
| 9. 以前にLINEの友だち登録をしていたが、やめた
(理由:) | |
| 10. どれについても知らない | |

【PR】県が提供する防災情報をご活用ください！

ホームページ「防災みえ.jp」
気象情報や台風・地震に関する情報、災害時の避難情報等を提供しています。ぜひご利用ください。
URL <http://www.bosainmie.jp/>



メール配信サービス
気象情報や台風・地震に関する情報等をお手持ちの携帯電話やスマートフォン、パソコンに配信するサービスです。
albosainmie.jpへ空メールを送信して登録してください。



X(旧Twitter)「防災みえ」
気象情報や台風・地震に関する情報、台風の接近に伴う避難の呼びかけや防災情報を配信しています。
お手持ちのスマートフォンやパソコンで閲覧できます。
URL <https://twitter.com/bosainmie/>
アカウント：防災みえ(@bosainmie)



LINE(ライン)「防災みえ」
台風の接近に伴う避難の呼びかけや防災情報を配信しています。
お手持ちのスマートフォンで利用できるLINEアプリで閲覧できます。
友だち登録用ID：@bosainmie



Instagram(インスタグラム)「防災みえ」
県の防災に関する取組や防災啓発情報を配信しています。
お手持ちのスマートフォンやパソコンで閲覧できます。
URL <https://www.instagram.com/bosainmie/>
アカウント：bosainmie



★避難場所・避難所について

【問17-1】 自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるか知っていますか。

(一つだけ○)

1. 避難場所も避難所も知っている
2. 避難場所だけ知っている
3. 避難所だけ知っている
4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない
5. 知らない

→問17-2へ

→問18へ

【問17-2】 問17-1で、「1. 避難場所も避難所も知っている」、「2. 避難場所だけ知っている」、「3. 避難所だけ知っている」、「4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない」と回答された方にお尋ねします。

自宅付近の避難場所や避難所について、何によって知りましたか。

(いくつでも○)

1. 市町窓口や市町から配布された避難所マップ等
2. 地域の活動や自治会の方から教えてもらった
3. 自治体のホームページ等
4. 防災アプリ
5. 街中の避難所の看板
6. その他(具体的に：)

→問17-3へ

【問17-3】 自宅付近の避難場所や避難所までの避難経路について、どのくらい知っていますか。(一つだけ○)

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない
3. どの経路で避難すればよいか分からない

→問18へ

【問18】 夜間など避難が困難な状況で災害が発生した場合においても、円滑に避難できると思えますか。(一つだけ○)

1. 避難できると思う
2. 避難経路の電灯などの整備が不足しており、避難できないと思う
3. 夜間での避難に慣れておらず、避難できない自信がない
4. 夜間避難を考えたことがない
5. その他(具体的に：)

→問19へ

★日頃の防災対策について

【問19】 あなたの家では災害に備えて、どのような防災対策を行っていますか。

(いくつでも○)

1. 3日以上の飲料水を備蓄している(ひとり一日あたり3Lを目安としてください。)
2. 3日以上の食料を常に確保している
3. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
4. 懐中電灯や携帯ラジオ等について、電池交換等、こまめに点検している
5. 携帯電話やスマートフォン、タブレット端末の予備電源(モバイルバッテリー)を確保している
6. 自家用車の燃料が半分程度になった時点で、給油をしている
7. 携帯トイレを準備している
8. ウェンや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している
9. 寝室にスリッパを置いておく
10. いつも笛を身につけている
11. 消火器を用意している
12. 断水に備えてお風呂にいつも水を入れておく
13. ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている
14. 転倒の危険性のある家具等を固定している
15. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
16. 寝室に転倒の危険性のある家具等を置かないようにしている
17. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
18. 感震ブレーカー*を設置している
19. 災害が起きたときに避難する場所を決めている
20. 災害用伝言ダイヤル(171)や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
21. 家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている
22. ペットの防災用品(餌や水、ケージ等)の準備や、避難先の検討等を行っている
23. その他(具体的に：)
24. 特に対策はとっていない

*感震ブレーカー：地震を感じると自動的にブレーカーを落として電気を遮断する器具

→問20へ

【問20】 あなたは日頃の防災対策について家族や親戚、知人などの身近な人と話し合っていますか。(一つだけ○)

1. 日頃からよく話し合っている
2. 日頃から話し合っていないが、話し合ったことがある
3. 話し合ったことがない

→問21へ

★地域・職場での防災活動について

【問21】 地域で実施される防災活動[※]に参加しようと思いませんか。(一つだけ○)

- | | |
|----------------------|---------|
| 1. 積極的に参加したいと思っている | →問22-1へ |
| 2. 機会があれば参加したいと思っている | |
| 3. あまり参加したいとは思わない | |
| 4. 参加したくない | |

※防災活動の例：避難訓練、消火訓練、救出・救助訓練、情報伝達訓練などの防災訓練、研修会や講習会、地域での話し合い、消防団の活動、企業や事業所も一緒になった防災活動 など

【問22-1】 過去1年間に、お住まいの地域や職場での防災活動に参加したことがありますか。(一つだけ○)

※ 直近で開催される防災活動へ参加する予定がある場合は1～3に○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|---------|
| 1. 地域の防災活動に参加した | →問22-2へ |
| 2. 職場の防災活動に参加した | →問22-3へ |
| 3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した | →問22-2へ |
| 4. 参加していない | →問22-4へ |

【問22-2】 問22-1で、「1. 地域の防災活動に参加した」、「3. 地域と職場、両方の防災活

動に参加した」と回答された方にお尋ねします。

- | | |
|----------------------------|---------|
| 1. 防災活動に興味があったから | →問22-3へ |
| 2. 自宅・地域の危険性や避難場所を知りたかったから | |
| 3. 家族や友人から誘われたから | |
| 4. 地域における声掛けがあったから | |
| 5. その他【具体的に： _____】 | |

【問22-3】 問22-1で、「1. 地域の防災活動に参加した」、「2. 職場の防災活動に参加した」、「3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した」と回答された方にお尋ねします。

参加した防災活動は、どのようなものでしたか。(いくつでも○)

- | | |
|---|-------|
| 1. 避難訓練 | →問23へ |
| 2. 図上訓練（災害状況を想定し、机上で対応する形式の訓練） | |
| 3. 夜間訓練（夜間に行ったものに限らず、夜間の避難等を想定した訓練等を含む） | |
| 4. 消火訓練 | |
| 5. 救出・救助訓練 | |
| 6. 応急手当訓練 | |
| 7. 炊き出し訓練 | |
| 8. 連絡網を使用した情報伝達訓練 | |
| 9. 介護を必要とする人の介助訓練 | |
| 10. 研修会や講習会 | |
| 11. 地域での話し合い | |
| 12. 消防団の活動 | |
| 13. 避難所体験訓練または避難所運営訓練 | |
| 14. 企業や事業所も一緒になった防災活動 | |
| 15. 災害ボランティアの受入訓練 | |
| 16. その他【具体的に： _____】 | |

【問22-4】 問22-1で、「4. 参加していない」と回答された方にお尋ねします。

どのような防災活動であれば参加したいと思いませんか。(いくつでも○)

- | | |
|-------------------------|-------|
| 1. 短い時間で実施できるもの | →問23へ |
| 2. 家族で参加できるもの | |
| 3. 簡単な内容で気軽に参加できるもの | |
| 4. 年齢や性別等に問わず誰でも参加できるもの | |
| 5. 地域のイベント等と合わせて行われるもの | |
| 6. 商業施設等で行われるもの | |
| 7. どれも参加したいと思わない | |
| 8. その他【具体的に： _____】 | |

【問23】 あなたのお住まいの地域は、自主防災組織（町内会・自治会等を母体とした地域の住民が防災活動をする組織）がありますか。また、活動状況はどうですか。

(一つだけ○)

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1. ある（活発に活動している） | →問24へ |
| 2. ある（あまり活発に活動していない） | |
| 3. ある（活動状況はよくわからない） | |
| 4. 自主防災組織がない | |
| 5. 自主防災組織があるかどうかわからない | |

【問24】 どういった防災活動が地域や職場で実施されることが必要だと思いますか。(いくつでも○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における非常連絡網の整備 2. 避難や救出・救助訓練等の防災訓練 3. 防災知識を得るための専門家による研修会や講習会 4. タウンウォッチングや防災マップづくり等、地域の危険箇所を把握する活動 5. 地域の避難所を運営する訓練 6. 職場におけるBCP（事業継続計画）の作成やそれに基づく訓練 7. その他 	<p>具体的には：</p>
---	---------------

→問25へ

※BCP（事業継続計画）：

自然災害などの緊急事態が発生した場合において、企業等が事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時や緊急時に事業を継続するための方法、手順などを取り決めておく計画

【問25】 地域の防災活動や防災対策について、地域の企業・事業所に期待することは何か。(いくつでも○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 被災者の救援・救護 2. 避難誘導 3. 消火活動の援助 4. 飲料水の提供 5. 食料の提供 6. 生活用品の提供 7. 救援機材、工具の提供 8. 避難場所の提供 9. 駐車場の提供 10. 災害情報の提供 11. その他 	<p>具体的には：</p>
--	---------------

→問26へ

★消防団について

消防団は、常勤の消防職員が勤務する消防署とは異なり、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、消火活動・救助活動を行う「非常勤特別職の地方公務員（市町職員）」です。地域における消防防災の「リーダー」として、その地域に密着し、火災時の消火活動や風水害時の水防活動などを通じて住民の安心と安全を守るといった重要な役割を担っています。また、近年は消防団への女性の参加も増えてきています。

【問26】 消防団について知っていますか。(一つだけ○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 名称だけでなく、活動内容や役割まで知っています 2. 消防団の名称は知っているが、具体的な活動内容や役割は知らない 3. 知らない 	
--	--

→問27へ

【問27】 消防団は地域防災におけるさまざまな活動を行っています。お住まいの地域の消防団に期待する活動はどのようなものですか。(いくつでも○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 火災時の消火活動 2. 風水害時の水防活動 3. 大規模災害時の救出救助や避難誘導 4. 火災予防の啓発活動 5. 防災意識向上の啓発活動 6. 応急手当等の普及活動 7. 防災訓練等の指導 8. 地域行事等の警備 9. その他 	<p>具体的には：</p>
---	---------------

→問28-1へ

【問28-1】 消防団への入団を勧められた場合、どうされますか。(いくつでも○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在、消防団に入団している 2. 入団する 3. 一部の活動に絞ってであれば入団する（機能別消防団員*） 4. 環境等が改善されれば入団を検討する 5. 入団しない 6. わからない 	
---	--

→問29へ

※機能別消防団員：能力や事情に応じて、入団時に決めた特定の活動や役割にのみ参加する消防団員。時間帯を限定した活動や特定の災害種別でのみ活動し、消防団の活動を補完する役割を担っています。

▶機能別団員（分団）とは（消防庁HP）：
<https://www.fdma.go.jp/relocation/syodoban/about/kinoubetsu/index.html>



【問 28-2】 問 28-1 で「4. 環境等が改善されれば入団を検討する」「5. 入団しない」と回答された方にお尋ねします。

消防団に入団しない理由は何ですか。(いくつでも○)
 ※ 問 28-1 で4と回答された方は、どのようなことが改善されれば入団するかをお答えください。

1. 地域に消防団があるかどうか知らない
2. 消防団がどのような活動をしているのかわからない
3. 地域に貢献したい気持ちがあるがあまりない
4. 消防団活動により仕事との両立が難しい
5. 昔から地域にある組織で入りたくそなイイメージがある
6. 家族の理解が得られない
7. 職場の理解が得られない
8. 体力的にきついイメージがある
9. 報酬が安い
10. その他

【具体的に

→問 29へ

★学校の防災教育について

【問 29】 子どもたちが災害から自分の命を守る力を身につけるとともに、災害時に地域の一員として行動できる力を身につけていくために、学校においてどのようなことに特に力を入れて取り組むことが必要だと思いますか。(いくつでも○)

1. 地震の起こる仕組みについての学習
2. 過去に地域で起きた風水害・地震とその被害についての学習
3. 国や県が公表している、南海トラフ地震や内陸直下型地震による揺れや津波の被害想定についての学習
4. 地震が起きたときにとるべき行動についての学習
5. 津波からの避難方法や避難場所についての学習
6. 局地的大雨や竜巻からの避難方法やとるべき行動（危険な場所に近づかない等）についての学習
7. 土砂災害からの避難方法や避難場所についての学習
8. 家庭での防災対策についての学習
9. 避難訓練の実施
10. 家庭や地域（自主防災組織や自治会など）と連携した避難訓練等の防災活動の実施
11. 地域の防災タウナシップや防災マップの作成
12. 救急・救命講習
13. その他

【具体的に

→問 30へ

【問 30】 同居家族に小学生、中学生、高校生がいる方にお尋ねします。
 防災ノート[※]等を活用しながら家庭の防災対策について話し合ったことはありますか。(一つだけ○)

1. 子どもが学校から持ち帰ってきた防災ノートを活用して、話し合ったことがある
2. 防災ノートを活用していないが、話し合ったことがある
3. 話し合ったことはない
4. その他

【具体的に

→問 31へ

※防災ノート：三重県教育委員会が県内すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の児童生徒に配布する防災教育用教材

同居家族に小学生、中学生、高校生がいない方は問 31へお進みください。

★あなたのお住いの耐震化について

【問31】 あなたのお住まいは次のうちのどれにあたりませんか。(一つだけ○)

※ 増築等がある場合は、一番古い建物でお答えください。

- | | |
|---|---------|
| 1. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和56年5月以前に普工・建築された木造の家) | →問 32へ |
| 2. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和56年5月以前に普工・建築された木造以外の家) | →問 33へ |
| 3. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和56年6月以降に敷地内で建て替え) | →質問終了です |
| 4. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和56年6月以降に新たな敷地に新築) | →質問終了です |
| 5. アパート・マンション等の集合住宅 | →質問終了です |

【問32】 県及び市町では、昭和56年5月31日以前に建築された(普工を含む)木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度をご存知ですか。(いくつでも○)

- | | |
|--------------------------------|--------|
| 1. 耐震診断費用への補助 (無料耐震診断) | →問 33へ |
| 2. 耐震補強設計費用への補助 | |
| 3. 耐震補強工事費用への補助 (リフォーム工事補助を含む) | |
| 4. 耐震性のない木造住宅の除却費用への補助 | |
| 5. どれも知らない | |

【問33】 あなたのご自宅 (同じ敷地内で建替えを行った場合、建替え前の住宅を含む、借家も含む) は、耐震診断を受けたことがありますか。受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。(一つだけ○)

- | | |
|---------------------------|---------|
| 1. 受けたことがない | →問 39へ |
| 2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された | →問 34へ |
| 3. 受けたことがあり、補強工事は必要なかった | →質問終了です |

【問34】 問33で、「2.受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された方にお尋ねします。

- | | |
|--------------------------|---------|
| 1. 補強工事を行った | →問 35へ |
| 2. 建て替えた | →質問終了です |
| 3. 現在検討中 (補強設計のみ行った方を含む) | →問 38へ |
| 4. 工事を行うつもりはない | |

【問35】 問34で、「1.補強工事を行った」と回答された方にお尋ねします。

- | | |
|--------|---------|
| 1. はい | →質問終了です |
| 2. いいえ | →問 36へ |

【問36】 問35で、「2.いいえ」と回答された方にお尋ねします。

どのような耐震補強工事を行いましたか。(一つだけ○)

- | | |
|----------------------------|---------|
| 1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した | →問 37へ |
| 2. 建物の一部のみを補強した | |
| 3. 分からない | →質問終了です |

【問37】 問36で、「1.現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」、「2.建物の一部のみを補強した」と回答された方にお尋ねします。

耐震補強工事費はいくら位かかりましたか。(一つだけ○)

- | | | |
|------------|-------|---------|
| 1. 50万円まで |) 万円位 | →質問終了です |
| 2. 100万円まで | | |
| 3. 150万円まで | | |
| 4. 200万円まで | | |
| 5. 300万円まで | | |
| 6. それ以上 (| | |

【問38】 問34で、「3.現在検討中 (補強設計のみ行った方を含む)」、「4.工事を行うつもりはない」と回答された方にお尋ねします。

耐震補強の決心がつかない、耐震補強をしない理由は何ですか。(いくつでも○)

- | | | |
|-------------------------------|---------|---------|
| 1. 補強設計に多額な費用がかかるから |) 具体的な: | →質問終了です |
| 2. 補強工事に多額な費用がかかるから | | |
| 3. 耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから | | |
| 4. 当分のあいだ大地震は起きないと思うから | | |
| 5. 手間がかかるから | | |
| 6. その他 | | |

【問39】 ご自宅の補強工事が必要とされた場合、自己負担がいくら位までなら耐震補強を行いますか。(一つだけ○)

- | | | |
|------------|---------|--------|
| 1. 50万円まで |) 万円まで) | →問 40へ |
| 2. 100万円まで | | |
| 3. 150万円まで | | |
| 4. 200万円まで | | |
| 5. 300万円まで | | |
| 6. それ以上 (| | |

【問40】 建物の1階部分のみを耐震補強する、又は耐震シェルター[※]を設置することで少しでも安全性が向上するのであれば、補強したいと思いませんか。(いくつでも○)

- | | |
|---|---------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 建物の1階部分のみの補強工事にかかる費用が安価であれば、実施したい 2. 建物の一部の部屋だけでも、安全性が確保でき、耐震シェルター設置にかかる費用が安価であれば、実施したい 3. 建物の1階部分のみの補強工事や耐震シェルター設置に費用がかかるため、実施しない | →質問終了です |
|---|---------|

※耐震シェルター：建物内の一部に木材や鉄骨で強固な箱型の空間を作り、安全性を確保するもの
 (三重県型耐震シェルター：参考価格 70万円程度)

○以下の項目に関してご意見、ご要望等ございましたらご自由にお書きください。今後の参考にさせていただきます。

<p>■地震・津波対策について</p>
<p>■風水害対策について</p>
<p>■避難について</p>
<p>■防災に関する啓発活動について</p>
<p>■その他 (例：消防団、地域や企業の防災活動、避難行動要支援者対策、災害時の廃棄物処理等)</p>

★ご協力ありがとうございました。
 10月30日(月)までに、同封の返信用封筒(切手不要)に入れてご投函ください。

報告書名 令和5年度 防災に関する県民意識調査報告書

発行年月 令和6年5月

発行者 三重県防災対策部 防災対策総務課
〒514-8570 津市広明町13番地
TEL 059-224-2181
FAX 059-224-2199
e-mail btsumu@pref.mie.lg.jp